

2010

研究業績年報 2010

目 次

広島大学大学院医歯薬学総合研究科（歯学系）及び広島大学病院（歯科領域）

○創生医科学専攻・探索医科学講座	
・ 生体材料学研究室	1
・ 口腔生化学研究室	5
・ 口腔細胞生物学的研究室	10
・ 細菌学研究室	13
○創生医科学専攻・病態探究医科学講座	
・ 口腔生理学研究室	18
・ 歯科薬理学研究室	20
○創生医科学専攻・先進医療開発科学講座	
・ 口腔顎顔面病理病態学研究室	25
・ 歯周病態学研究室及び口腔維持修復歯科（歯周診療科）	33
・ 分子口腔医学・顎顔面外科学研究室及び口腔再建外科（顎・口腔外科）	
○展開医科学専攻・病態情報医科学講座	
・ 粘膜免疫学研究室	39
・ 歯科放射線学研究室及び口腔再建外科（歯科放射線科）	40
○展開医科学専攻・病態制御医科学講座	
・ 口腔成長・発達生物学的研究室	43
・ 歯科麻酔学研究室及び口腔再建外科（歯科麻酔科）	46
○展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座	
・ 健康増進歯学研究室及び口腔維持修復歯科（歯科保存診療科）	49
・ 口腔外科学研究室及び口腔再建外科（口腔顎顔面再建外科）	56
・ 先端歯科補綴学研究室及び口腔維持修復歯科（口腔インプラント診療科）	64
・ 先端歯科補綴学研究室及び口腔維持修復歯科（咬合・義歯診療科）	71
・ 歯科矯正学研究室及び口腔健康発育歯科（矯正歯科）	74
・ 小児歯科学研究室及び口腔健康発育歯科（小児歯科）	87
○口腔健康科学専攻・口腔健康科学講座	
・ 公衆口腔保健学研究室	94
・ 口腔発達機能学研究室	98
・ 口腔保健管理学的研究室	102
・ 生体構造・機能修復学研究室	106
・ 医療システム・生体材料工学研究室	109

・ 口腔生物工学研究室	1 1 2
○ 中央研究室	1 2 0
○ 歯系総合診療科（口腔総合診療科）	1 2 2
○ 口腔健康発育歯科（予防歯科）	1 2 6
○ 口腔健康発育歯科（障害者歯科）	1 2 9
○ 特殊歯科総合治療部	1 3 1
○ 口腔検査センター	1 3 3
○ 歯科技工室	1 3 8
○ 歯科衛生室	1 4 0
○ 歯科診療所	1 4 3
○ 医療情報室	1 4 6

創生医科学専攻・探索医科学講座（生体材料学研究室）

（１）職員並びに学生

教授 : 岡崎正之
助教 : 野村雄二, 平田伊佐雄, 錦織 良
研究員 : 呉江

（２）主な研究活動

- 1 : 生体接着分子を付与した機能性生体材料の開発に関する研究
- 2 : アパタイト・コラーゲン複合体の生体親和性に関する研究
- 3 : 自己組織化単分子膜をモデルとした生体と材料の間の相互作用の研究
- 4 : 光重合レジンフィラーの力学特性
- 5 : 内分泌攪乱物質のバイオアッセイに関する研究
- 6 : 分子レベルにおける歯質接着機構の解明に関する研究
- 7 : インプラントの表面改質に関する研究
- 8 : 多官能性モノマーの合成および重合特性に関する研究
- 9 : キャスタブルガラスセラミックスに関する研究

（３）研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

- 1 : Nomura Y., Bhawal U.K., Nishikiori R., Sawajiri M., Maeda T., Okazaki M.: Effects of high-dose major components in primary human gingival fibroblasts *in vitro*. Dent Mater J, 29: 75-83, 2010.
- 2 : Uddin M.H., Matsumoto T., Ishihara S., Nakahira A., Okazaki M., Sohmura T.: Apatite containing aspartic acid for selective protein loading. J Dent Res 89: 488-492, 2010.
- 3 : Hirata I, Akamatsu M, Fujii E, Poolthong S, Okazaki M: Chemical analyses of hydroxyapatite formation on SAM surfaces modified with COOH, NH₂, CH₃ and OH functions. Dent Mater J 29: 438-445, 2010.
- 4 : Nomiyama K., Nomura Y., Takahashi T., Uchiyama Y., Arizono K., Shinohara R.: Hydroxylated polychlorinated biphenyls (OH-PCBs) induce vitellogenin through estrogenic activity in primary-cultured hepatocytes of the *Xenopus laevis*.

Chemosphere: 78 800-806, 2010.

B) 総説

- 1 : M. Okazaki: Creation of highly functional CO₃Ap-collagen scaffold biomaterials. Dent Mater J 29: 1-8, 2010.
- 2 : 松本卓也、岡崎正之：皮質骨基質を構成する無機・有機成分. バイオマテリアル. 28 巻 4 号, 257-263, 2010.

C) 著書

- 1 : 岡崎正之：歯科用 LED 硬化材料および技術. LED-UV 硬化技術と硬化材料の現状と展望—発光ダイオードを用いた紫外線硬化技術— (角岡正弘 監修). シーエムシー出版、東京、2010.

D) その他の出版物

E) 学会発表

1. シンポジウム7「ティッシュエンジニアリング」炭酸アパタイト・コラーゲンスカフォールドの骨再生能に関するコンセプト
岡崎正之
平成22年3月18日
第9回日本再生医療学会総会、広島（広島国際会議場）
2. 試作粘膜調整材の組成成分が吸水率および溶解率に及ぼす影響
柄 博紀、洪 光、前田武志、野村雄二、岡崎正之、濱田泰三、貞森紳丞、赤川安正
平成22年4月18日
第55回日本歯科理工学会、東京（タワーホール船堀）
3. サイトカイン添加型炭酸アパタイト・コラーゲン複合体の開発
松浦 歩、Maretaningtias Dwi Ariani、平田伊佐雄、土井一矢、久保隆靖、岡崎正之、赤川安正
平成22年4月18日
第55回日本歯科理工学会、東京（タワーホール船堀）
4. 重粒子線の骨代謝におよぼす影響
澤尻昌彦、野村雄二、滝波修一、丸山耕一、谷本啓二
平成22年4月19日

- 平成21年度HIMAC共同利用研究成果発表会、千葉（ホテルポートプラザちば）
5. HApおよびCO₃Apの結晶学的性質に及ぼすSr²⁺イオンの影響
大戸敬之、平田伊佐雄、野村雄二、錦織良、峯裕一、二川浩樹、岡崎正之
平成22年6月12日
第43回広島大学歯学会総会、広島（広島大）
 6. Availability of carbonated hydroxyapatite as a scaffold for bone regeneration
K. Sumi, K. Tanimoto, Y. Tanne, T. Kamiya, S. Okuma, R. Kunimatu, M. Yoshioka, H. Hayashi, M. Okazaki, Y. Kato, M. Sugiyama and K. Tanne
July 15, 2010
88th IADR Barcelona, Spain
 7. アパタイト研究に纏わるエピソード
岡崎正之
平成22年8月28日
平成22年度日本歯科理工学会近畿・中四国支部夏期セミナー、
松山（にぎたつ会館）
 8. 義歯洗浄剤成分としての二酸化塩素の殺菌効果の検討
堀 智治、前田武志、野村雄二、貞森紳丞、岡崎正之、赤川安正
平成22年10月10日
第56回日本歯科理工学会、岐阜（長良川国際会議場）
 9. ジルコニアと歯冠用コンポジットレジン接着における熱処理の影響
草野顕太、下江幸司、田上直美、岡崎正之、松村英雄
平成22年10月10日
第56回日本歯科理工学会、岐阜（長良川国際会議場）
 10. アパタイト・コラーゲン複合体による骨再生
岡崎正之
平成22年10月29日
日本学術会議公開シンポジウム「最先端の歯科バイオマテリアル」、
岐阜（長良川国際会議場）
 11. Development of new bone graft material using carbonate apatite-chitosan composite
M. Dwi Ariani, A. Matsuura, I. Hirata, K. Doi, K. Hayashi, K. Morita, T. Kubo, M. Okazaki, Y. Akagawa
平成22年11月29日
第32回日本バイオマテリアル学会大会、広島（グランドプリンスホテル広島）
 12. アパタイト結晶内へのストロンチウムの置換
大戸敬之、平田伊佐雄、錦織良、野村雄二、峯裕一、二川浩樹、岡崎正之
平成22年11月30日

第32回日本バイオマテリアル学会大会、広島（グランドプリンスホテル広島）

13. The Significance of the Surface Properties of Micro-arc Oxidized Ti-24Nb-4Zr-7.9 Sn Alloy

J. Wu, I. Hirata, Z. Liu, M. Okazaki, B. Gao

平成22年11月30日

第32回日本バイオマテリアル学会大会、広島（グランドプリンスホテル広島）

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

(5) 学会賞等の受賞状況

1 : 日本歯科理工学会賞

受賞者の所属・職・氏名：広島大学大学院医歯薬学総合研究科・教授・岡崎正之

授与者：日本歯科理工学会会長

授与年月日：平成22年4月17日

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

創生医科学専攻・探索医科学講座（口腔生化学研究室）

（1）職員ならびに学生

教授：加藤幸夫

准教授：能城光秀

助教：河本健、藤本勝巳

留学生：Tania Saskianti

契約一般：倉本美佐乃

（2）主な研究活動

- 1: 転写因子DEC1とDEC2が時計遺伝子として、核内受容体と相互作用していること、脂肪代謝の概日リズムに関与していること、血圧制御に関与していることを明らかにしつつある。
- 2: 自然科学支援センターの加藤プロジェクトでは、間葉系幹細胞の増殖と分化能の制御機構を解明しつつある。そしてその情報を基にして各種の無血清培地を開発した。さらに他大学との共同研究でも無血清培地による再生医療の臨床へ向けて開発を進めている。

（3）研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Anti-apoptotic effect of the basic helix-loop-helix (bHLH) transcription factor DEC2 in human breast cancer cells. : Liu Y, Sato F, Kawamoto T, Fujimoto K, Morohashi S, Akasaka H, Kondo J, Wu Y, Noshiro M, Kato Y, Kijima H. : Genes Cells. 2010 Apr 1;15(4):315-25.
- 2: ENGLISH ASSISTANCE WITH CORPUS ANALYSIS --DICTIONARY, THESAURUS, COLLOCATIONS--.: Ohtake H., Fujita N, Kawamoto T, Ugawa Y, Morren B, Takeuchi H, Takekoshi M, Kaneko S. : IADIS International Conference e-Learning 2010, 285-288.

B) 総説

- 1: 国際ヒアルロン酸会議レポート ヒアルロン酸研究の最近の潮流：加藤幸夫：新薬と臨床，第59巻3号，156-157，2010.
- 2: 滑液ヒアルロン酸の代謝回転における滑膜線維芽細胞の役割：加藤幸夫、坂井裕大、本田清昌、西村正宏、金輪真佐美、河本健：臨床リウマチ，22(3)，344-351，2010.
- 3: ラット腹膜線維化モデルにおける間葉系幹細胞による線維化抑制効果の検討：上野敏憲、頼岡徳在、中島歩、谷口良彦、高橋俊介、加藤幸夫：日本透析医会雑誌，25(3)，523-528，2010.
- 4: 臨床研究の活性化と再生医療産業化の促進—骨・関節領域(整形外科、歯科・口腔外科)の実施者からの提言—：大串始、服部耕治、牛田多加志、星和人、関矢一郎、早乙女進一、脇谷滋之、名井陽、安達伸生、加藤幸夫、河口浩之、黒田良祐、木下鞆彦、梅澤明弘、田中康仁、山

田陽一、袴塚康治、山我美佳、菅原桂、中島武彦：再生医療，9(3)，393-400，2010.

5 : Roles of DEC1 and DEC2 in the core loop of the circadian clock, and clock outputs to metabolism. :

Kato Y, Noshiro M, Fujimoto K, Kawamoto T.: Hirosaki Med. J. 61(Suppl.), S34-S42, 2010.

C) 著書

D) その他の出版物

1. ツーセル、加藤幸夫

無血清の細胞培養液 広島大発ベンチャー ツーセルが開発

中国新聞 2010年1月21日

2. 加藤幸夫

骨再生早める新培養液 広島大学大学院の加藤教授開発 血清使わず感染症回避

中国新聞 2010年9月8日

3. 河本健

ライフサイエンス英語 超基本の英文法 Vol.1〜Vol.6、実験医学 online、2010年5月〜8月.

E) 学会発表

1) 一般講演

1: ヒト骨髄間葉系幹細胞 (MSC) の品質管理—マーカー遺伝子の選定—: 本田清昌、五十嵐晃、原真依子、河本健、辻紘一郎、加藤幸夫: 第9回日本再生医療学会総会 平成22年3月19日 広島市

2: 骨髄の初代天井培養法による間葉系幹細胞の採取効率向上のための検討: 坂井裕大、竹田美佳、大倉知久、山中克之、西村正宏、渡部欣忍、松下隆、加藤幸夫、金子正、辻紘一郎: 第9回日本再生医療学会総会 平成22年3月19日 広島市

3: 体外で増幅した細胞が間葉系幹細胞 (MSC) であることを短期間に評価する方法: 五十嵐晃、久保裕嗣、本田清昌、金輪真佐美、辻紘一郎、栗原英見、加藤幸夫: 第9回日本再生医療学会総会 平成22年3月19日 広島市

4: 骨髄・滑膜由来間葉系幹細胞におけるインテグリン遺伝子発現への転写因子 GATA6 の作用: 道田 将彦、河本 健、久保 裕嗣、金輪 真佐美、丹根 一夫、加藤 幸夫: 第51回日本生化学会中国・四国支部例会 平成22年5月14-15日 山口市

5: 核内受容体 (ROR α) による時計遺伝子 (*Dec1*, *Dec2*) の制御: 尾崎徳継、能城光秀、河本健、藤本勝巳、丹根一夫、加藤幸夫: 第51回日本生化学会中国・四国支部例会 平成22年5月14-15日 山口市

6: 口腔組織からの骨前駆細胞の分取: 細胞表面抗原による解析: 鎌田 浩一、藤本 勝巳、西村 正宏、貞森 紳丞、赤川 安正、加藤 幸夫: 第51回日本生化学会中国・四国支部例会 平成22年5月14-15日 山口市

- 7 : ENGLISH ASSISTANCE WITH CORPUS ANALYSIS--DICTIONARY, THESAURUS, COLLOCATIONS--. : Ohtake H, Nobuyuki Fujita N, Kawamoto T, Ugawa Y, Morren B, Takeuchi H, Takekoshi M, Kaneko S. : IADIS International Conference e-Learning 2010, 2010年7月, Freiburg.
- 8 : 低酸素下がん細胞における DNA 損傷応答抑制機構 : 谷本 圭司、中村 秀明、河本 健、加藤 幸夫、檜山 英三、西山 正彦、檜山 桂子 : 日本放射線影響学会第 53 回大会 平成 22 年 10 月 20-22 日 京都市
- 9 : Dec1 Regulates Circadian Variation of Blood Pressure : Nakashima A, Kawamoto T, Noshiro M, Honda K, Ozaki N, Ueno T, Taniguchi Y, Tanaka J, Yorioka N, Kato Y.: 43rd annual meeting of American Society of Nephrology, Denver, USA. Nov. 18-21, 2010
- 10 : Inhibitory Effect of Mesenchymal Stem Cells on the Progression of Experimental Peritoneal Fibrosis in a Rat Model : Ueno T, Nakashima A, Taniguchi Y, Kawamoto T, Kato Y, Yorioka N. : 3rd annual meeting of American Society of Nephrology, Denver, USA. Nov. 18-21, 2010 (ポスター発表)
- 11 : 核内受容体 (ROR α) と SREBP1c によるベシク・ヘリックス・ループ・ヘリックス型転写因子(*Dec1*, *Dec2*) の発現調節と脂肪分化: 尾崎徳継、能城光秀、福崎麗、河本健、藤本勝巳、丹根一夫、加藤幸夫 : 第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会・合同大会 平成 22 年 12 月 7 日-10 日 神戸市 (ポスター発表)
- 12 : 血圧と Na/K-ATPase の日内変動:Dec1 による制御 ワークショップ「生物時計における bHLH 転写因子の機能と制御」: 中島 歩、河本 健、加藤 幸夫 : 第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会・合同大会 平成 22 年 12 月 7 日-10 日 神戸市

2) 招待講演

- 1 : 歯科における再生工学の現状と課題:口蓋裂と歯周病の再生医療および歯の再生に向けて : 加藤幸夫 : 口腔 QOL 連続シンポジウム その 2 「再生工学カテゴリー」 発生プロセスを踏まえた組織再生の可能性と課題 平成 22 年 1 月 22 日 徳島市
- 2 : 生物時計系と密接にあるいは部分的に関連する DEC の多様な作用 : DEC の生物学的意義は? : 加藤幸夫 : 本間健一教授 退職記念講演会 シンポジウム「生物時計」 平成 22 年 1 月 29~30 日 札幌市
- 3 : Application of chemically defined media for proliferation and differentiation of mesenchymal stem cells to regenerative medicine : 加藤幸夫 : 教育研究高度化のための支援体制整備事業に関する国際シンポジウム 平成 22 年 3 月 9 日 広島市
- 4 : 歯科治療に幹細胞をどのように役立てるか? (各種幹細胞と無血清培地) : 加藤幸夫 : 歯科再生医療産学連携フォーラム 平成 22 年 3 月 17 日 広島市
- 5 : 間葉系幹細胞の強力な増殖/分化能 : 無血清培地での解析 : 加藤幸夫、邵 金昌 : 第 9 回日本再生医療学会総会 Keynote Lecture 9 平成 22 年 3 月 19 日 広島市
- 6 : 間葉系幹細胞 (MSC) の安全性判定法とそれを用いた細胞治療法の事業化 : 加藤幸夫 : 第 39 回広島大学講演会/JST 研究成果報告会「再生医療:ベンチサイドからベッドサイドへ」 平

成 22 年 9 月 3 日 広島市

- 7: 無血清培地を用いた再生用細胞の増幅と分化: 加藤幸夫: 第 32 回日本バイオマテリアル学会
【シンポジウム 2】 骨と歯周組織の再生を促進する担体・成長因子・幹細胞 平成 22 年 11
月 29 日 広島市

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

1) 科学研究費補助金

- 1: 基盤研究 (C): 藤本勝巳, 転写因子 Dec2 と Sox ファミリー蛋白の相互作用による軟骨分化制御機構. 課題番号 22592067. 1,400 千円
- 2: 基盤研究(C): 能城光秀, 時計遺伝子 DEC1 および DEC2 の脂質代謝の日内リズムにおける役割の解析. 課題番号 22590223. 1,700 千円
- 3: 基盤研究(C): 河本健, 間葉系幹細胞の多分化能を制御する転写因子の機能解析. 課題番号 22592068. 1,400 千円
- 4: 基盤研究(C) 藤井理史、分担研究者 加藤幸夫, 臨床応用を視野に入れた歯髄幹細胞の選択的増殖を目指す無血清培地の開発. 課題番号 2159242251. 100 千円
- 5: 基盤研究(B)西村正宏、研究分担者 加藤幸夫, 顎骨由来幹細胞を用いた歯槽骨再生医療の展開. 課題番号 22390367. 400 千円

2) その他 受託研究費

- 1: (株) ツーセル: 加藤幸夫, 骨・軟骨組織の再生療法. 3,014 千円
- 2: 中外製薬 (株): 加藤幸夫, OA 関節症/Enthesopathy における軟骨と滑膜でのヒアルロン酸代謝、マトリックス、炎症関連遺伝子の発現変動とヒアルロン酸注射の影響. 4,500 千円
- 3: 山口大学: 加藤幸夫, 肝硬変・肝不全に有用な骨髄由来 Nano-induced Stem Cell(Nano-iSC)分離培養技術の臨床開発. 1,000 千円
- 4: 科学技術振興機構: 加藤幸夫, A-STEP ハイリスク挑戦タイプ 「臨床で使用可能な安全な無血清培地の開発」 130 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

- 1: 加藤幸夫、辻紘一郎、原真依子: 分別マーカーを用いた間葉系幹細胞の識別・分離方法
(出願人: 加藤幸夫、株式会社ツーセル、科学技術振興機構)
特許番号: 特許第 4540948 号 登録日: 平成 22 年 7 月 2 日
- 2: 加藤幸夫、河本健、能城光秀、中島歩: 非ヒト動物、細胞、血圧調節物質の評価方法、血圧調節条件の評価方法および血圧の調節方法
(出願番号: 特願 2010-236891 号、2010)

(出願人：広島大学)

出願日：平成 22 年 10 月 21 日

[目次へ戻る](#)

創生医科学専攻・探索医科学講座（口腔細胞生物学研究室）

（1）職員並びに学生

教授 : 内田 隆
助教 : 樋山伸二、渡邊峰朗

（2）主な研究活動

- 1 : エナメル質形成機構の形態学的・分子生物学的研究
- 2 : 骨代謝に関する形態学的・分子生物学的研究
- 3 : 顎顔面領域における関連痛と炎症性サイトカインとの関連性

（3）研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

- 1 : Histological and immunohistochemical analyses of molar tooth germ in enamel-deficient mouse. Sawada T, Sekiguchi H, Uchida T, Yamashita H, Shintani S, Yanagisawa T. Acta Histochem. Epub 2010 Jul 2.
- 2 : IL-1beta in the trigeminal subnucleus caudalis contributes to extra-territorial allodynia/hyperalgesia following a trigeminal nerve injury. Takahashi K, Watanabe M, Suekawa Y, Ito G, Inubushi T, Hirose N, Murasaki K, Hiyama S, Uchida T, Tanne K. Eur J Pain. Epub 2010 Nov
- 3 : Synthetic ameloblastin peptide stimulates differentiation of human periodontal ligament cells. Kitagawa M, Kitagawa S, Nagasaki A, Miyauchi M, Uchida T, Takata T. Arch Oral Biol. Epub 2010 Nov 11.
- 4 : Ameloblastin regulates osteogenic differentiation by inhibiting Src kinase via cross talk between integrin beta1 and CD63. Iizuka S, Kudo Y, Yoshida M, Tsunematsu T, Yoshiko Y, Uchida T, Ogawa I, Miyauchi M, Takata T. Mol Cell Biol. Epub 2010 Dec 13.

B) 総説

- 1 : 口腔顔面痛とグリア細胞の役割: 渡邊峰朗, 村崎恭子, 伊藤剛志, 末川洋平, 高橋拓史, 広瀬尚人, 樋山伸二, 丹根一夫, 内田 隆: 広島歯科医学雑誌, 37, 1-15, 2010.

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1 : Astrocytic interleukin-1beta contributes to neuropathic pain following mental nerve injury: Takahashi K., Watanabe M., Suekawa Y., Ito G., Murasaki K., Hirose N., Hiyama S., Uchida T., Tanne K.: The 88th International Association for Dental Research (Barcelona) 2010.

- 2 : The Osteoclastogenesis in the alteration of bone marrow cells during medullary bone formation in estrogen-treated male Japanese quails. Hiyama, S., Akagi, Y., Watanabe, M., Uchida, T.: 32nd Annual meeting of American Society for Bone and Mineral Research (Toronto) 2010.

- 3 : エストロゲン誘導による雄ウズラの骨髄骨形成過程における破骨細胞前駆細胞の形成: 樋山伸二, 赤城裕一, 渡邊峰朗, 内田隆: 第28回日本骨代謝学会(東京), 2010.

- 4 : エストロゲン投与した雄ウズラの骨髄骨形成過程における骨髄細胞の破骨細胞への分化: 横井美有希, 樋山伸二, 内田隆: 日本解剖学会第65回中国・四国支部学術集会(呉), 2010.

- 5 : 顎顔面領域の神経因性疼痛における P2X7 受容体の役割: 伊藤剛志, 渡邊峰朗, 犬伏俊博, 高橋拓史, 広瀬尚人, 村崎恭子, 樋山伸二, 内田 隆, 丹根一夫: 第43回広島大学歯学会総会(広島), 2010.

- 6 : マウス歯根形成期におけるアムロブラスチンの役割: 廣瀬尚人, 伊藤剛志, 村崎恭子, 高橋拓史, 渡邊峰朗, 島津 篤, 内田隆, 丹根一夫: 第69回日本矯正歯科学会大会(横浜), 2010.

- 7 : 三叉神経脊髄路尾側核における IL-1beta は三叉神経傷害後の異所性異痛症・痛覚過敏に関与する. 渡邊峰朗, バイオデンタル教育研究国際ワークショップ(広島), 2010.

8 : Amelogenin 欠損マウスにおけるエナメル質形成の phenotype 解析 : 高野吉郎、馬場麻人、井関八郎、内田 隆 : 第 52 回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 (東京)、2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1 : 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) : 樋山伸二、性ホルモンとその標的因子による骨代謝調節と幹細胞ニッチの制御機構の解明. 課題番号 21791787. 1,400 千円
- 2 : 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) : 内田 隆、歯牙発生時の硬組織形成細胞の分化・機能調節、基質石灰化における基質蛋白の機能解析. 課題番号 21592329. 1,100 千円
- 3 : 科学研究費補助金 基盤研究 (C) : 渡邊峰朗 : 三叉神経傷害後の顎顔面領域における異所性疼痛発生メカニズムの解明. 課題番号 22592039. 1,200 千円

[目次へ戻る](#)

創生医科学専攻・探索医科学講座（細菌学研究室）

（１）職員並びに学生

教授 : 菅井 基行

助教 : 加藤文紀、鹿山鎮男（４月から）、久恒順三

技術補佐員 : 佐伯直美（３月まで）、藤原奈津美（３月まで）、西村（山根）史絵（３月まで）、中川幸子（３月まで）

大学院生 : 森岡志摩 D5、Panida Thanasrisung (D4)、水町栄美理 D3、小林加直 D3（泌尿器科から）、清水亘 D3（第一外科から）、繁本憲文 D2（第一外科から）、胡イツグン D2（小児歯科から）、桑原隆一 D1、小島太郎 D1、岩本優子 D1（小児歯科から）、西本有紘 M3（３月で修了）、的場佑介 M（３月で退学）、村上輝明 M2、播野俊江 M2、小泉一久 M1

研究生 : 于 連昇（１０月から）

（２）主な研究活動

- 1 : ペプチドグリカン加水分解酵素に関する研究
- 2 : 院内感染原因菌の薬剤耐性メカニズムおよび分子疫学
- 3 : シグナル伝達を修飾する細菌毒素に関する研究
- 4 : 歯周病原性細菌の病原因子の機能解析
- 5 : ブドウ球菌の比較ゲノム解析
- 6 : 黄色ブドウ球菌の遺伝子発現解析

（３）研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

1. Epidemiology, variable genetic organization and regulation of the EDIN-B toxin in *Staphylococcus aureus* from bacteremic patients. Gefron C. Franke, Alexandra Bockenholt, Motoyuki Sugai, Holger Rohde, and Martin Aepfelbacher. *Microbiology* 156:860-872, 2010.

2. Cytotoxic distending toxin from *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* induces DNA damage, S/G2 cell cycle arrest and caspase-independent death in budding yeast model. Oranart Matangkasombut, Roongtiwa Wattanawaraporn, Keiko Tsuruda, Masaru Ohara, Motoyuki Sugai, Skorn Mongkolsuk. *Infection and Immunity* 78:783-792, 2010.
3. Late established mutants streptococci in children over 3 years old. Okada M, Taniguchi Y, Hayashi F, Doi T, Suzuki J, Sugai M and Kozai K. *International Journal of Dentistry* 732468, Epub 2010
4. Distinct two-component systems in methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* can change the susceptibility to antimicrobial agents. Miki Matsuo, Fuminori Kato, Yuichi Oogai, Toshihisa Kawai, Motoyuki Sugai, Hitoshi Komatsuzawa. *Journal of Antimicrobial Chemotherapy* 65:1536-1537, 2010
5. Identification of a novel *Staphylococcus pseudintermedius* exfoliative toxin gene and its prevalence in isolates from canines with pyoderma and healthy dogs. Keita Iyori, Junzo Hisatsune, Tetsuji Kawakami, Sanae Shibata, Nobuo Murayama, Kaori Ide, Masahiko Nagata, Tsuneo Fukata, Toshiroh Iwasaki, Kenshiro Oshima, Masahira Hattori, Motoyuki Sugai, Koji Nishifuji. *FEMS Microbiology Letters* 312:169-175, 2010
6. A novel mechanism of rapid nuclear neutrophil extracellular trap formation in response to *Staphylococcus aureus*. Florian H. Pilszczek, Davide Salina, Karen K. H. Poon, Candace Fahey, Bryan G. Yipp, Christopher D. Sibley, Stephen M. Robbins, Francis H. Y. Green, Mike G. Surette, Motoyuki Sugai, M. Gabriela Bowden, Muzaffar Hussain, Kunyan Zhang, Paul Kubes. *Journal of Immunology* 185, 7413-7425, 2010.
7. Effect of substrate surface hydrophobicity on the adherence of yeast and hyphal *Candida*. Yoshijima Y, Murakami K, Kayama S, Liu D, Hirota K, Ichikawa T, Miyake Y. *Mycoses*. 2010 53(3):221-226.
8. High prevalence of *Pseudomonas aeruginosa* from oropharyngeal biofilm in patients with cerebrovascular infarction and dysphagia. Hirota K, Yoneyama T, Sakamoto M, Miyamoto H, Kurihara M, Kayama S, Murakami K, Yumoto H, Matsuo T, Miyake Y. *Chest*. 2010 138(1):237-238.
9. 耐性菌の疫学調査のための方法論-広島地区での試み-. 菅井 基行. *臨床検査* 54, 547-551, 2010

C) 著書

1. 感染症診療の基礎と臨床 ―耐性菌の制御に向けて―. (一山智、山口恵三監修 飯沼由嗣、館田一博編) 2010 4 15 刊 医薬ジャーナル社. 耐性黄色ブドウ球菌：医療関連感染型 MRSA/市中感染型 MRSA. 菅井基行

2. MRSA -基礎・臨床・対策-改訂版. 河野茂編 2010 8 10 刊 医薬ジャーナル社. MRSAの薬剤耐性. 小松沢均、菅井基行
3. 口腔微生物学・免疫学 第3版. 浜田茂幸、川端重忠、西原達次、菅井基行、中川一路 編 2010 10 10 刊 医歯薬出版
4. 標準微生物学 第10版 平松啓一、中込治 編 2010 4 1 刊 医学書院

D) その他の出版物

E) 学会発表

1. Recent topics in MRSA. Motoyuki Sugai. 第83回日本細菌学会シンポジウム S1 多剤耐性菌の現状と将来. パシフィコ横浜、3/27 横浜
2. 黄色ブドウ球菌表皮剥脱毒素ETAの新規転写調節因子の探索. 加藤文紀、菅井 基行. 第83回日本細菌学会 パシフィコ横浜、3/27 横浜
3. The N-terminal binding domain of Aml confers substrate selectivity on cariogenic streptococci. Panida Thanyasrisung, 林幾江、鶴田圭伊子、菅井基行. 第83回日本細菌学会 パシフィコ横浜、3/27 横浜
4. 2004～2008年度の広島地区における院内分離耐性緑膿菌に関する検討. 清水亘、小林加直、甲田俊太郎、加藤文紀、大毛宏喜、菅井基行. 第83回日本細菌学会 パシフィコ横浜、3/27 横浜
5. 黄色ブドウ球菌表皮剥脱毒素の新規転写制御因子の探索. 加藤文紀、平川英樹、久原哲、菅井 基行. 第4回日本ゲノム微生物学会年会 九州大学 3/7-9 博多
6. 病原大腸菌が産生する細胞壊死因子 CNF3 をコードするプラスミドの性状解析. 久恒順三、加藤文紀、中山恵介、林哲也、菅井基行. 第4回日本ゲノム微生物学会年会 九州大学 3/7-9 博多
7. 広島県の主要 *bla*_{IMP-1} 保有耐性緑膿菌クローン PFGE タイプの多様化におけるトランスポゾンの役割. 清水亘、甲田俊太郎、小林加直、加藤文紀、松原昭郎、大毛宏喜、菅井基行. 第58回日本化学療法学会総会 6/3-5 東京
8. 黄色ブドウ球菌の病原性獲得に関わるファージ: 表皮剥脱毒素遺伝子を伝播するファージ. 菅井 基行. 大阪大学蛋白質研究所セミナー「バクテリオファージ研究の可能性と課題」(第3回ファージ研究会) 阪大蛋白研 9/9 大阪
9. 広島県における ESBL 産生菌の分子疫学解析. 桑原 隆一. 広島県臨床検査技師会感染制御部門 研修会 10/2 広島大学

10. *Staphylococcus aureus* の新規表層タンパク質 Skip. 村上輝明、久恒順三、加藤文紀、菅井基行. 第 6 3 回日本細菌学会中国・四国支部総会 10/16 松山
11. 広島県内のある医療施設で 7 年間継続的に検出された *bla*_{IMP-1} 陽性緑膿菌の分子疫学. 播野俊江、鹿山鎮男、菅井基行. 第 6 3 回日本細菌学会中国・四国支部総会 10/16 松山
12. イミペネム感受性メロペネム耐性メタロ-β-ラクタマーゼ産生 *K. pneumoniae* (ISMAR) の出現. 桑原隆一、繁本憲文、清水亘、鹿山鎮男、小野寺一、横崎典哉、大毛宏喜、菅井基行. 第 2 8 回広島感染症研究会 11/13 広島
13. MDRP が保有する *bla*_{IMP-1} 保有 plasmid の解析. 鹿山鎮男、小林加直、大毛宏喜、平川英樹、大島健志郎、服部正平、菅井基行. 第 2 8 回広島感染症研究会 11/13 広島
14. 広島地区における耐性緑膿菌および ESBL 産生菌に関する検討. 菅井基行. 第 2 8 回広島感染症研究会 広島感染症研究会リサーチ検討会 11/13 広島
15. 広島県における ESBL 産生菌の分子疫学解析 (第 1 期調査). 桑原隆一、鹿山鎮男、菅井基行. 第 8 0 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 11/19 松山
16. 2007-2009 年度中国地区における院内分離耐性緑膿菌に関する検討-岡山県で分離されたメタロ β-ラクタマーゼ産生菌を中心に-. 繁本憲文、鹿山鎮男、清水亘、草野展周、清水英治、公文裕巳、桑原正雄、大毛宏喜、菅井基行. 第 8 0 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 11/19 松山
17. 黄色ブドウ球菌表皮剥脱毒素 ETA の新規転写調節因子の解析. 加藤文紀、菅井基行. 第 3 3 回日本分子生物学会年会 12/12 神戸
18. 皮膚バリアー機能を凌駕する黄色ブドウ球菌-系統解析からのアプローチ-. 菅井 基行. 第 3 3 回日本分子生物学会 ワークショップ 上皮バリア機能の分子機構: 上皮組織による生体フロントラインバリア構築 12/8 神戸
19. 「中国地区緑膿菌サーベイランス成績」中国地区インフェクションフォーラム. 桑原正雄、草野周展、清水英治、清水亘、小林加直、甲田俊太郎、菅井基行、土井正男、公文裕巳. 第 4 4 回緑膿菌感染症研究会 シンポジウム“抗菌薬併用療法を考える”. 2/12-13 東京
20. *Pseudomonas aeruginosa* の RND 型排出ポンプ MexMN を介した *Staphylococcus aureus* 増殖抑制機構の解明 An efflux system MexMN of *P. aeruginosa* functions on suppression of growth of *S. aureus*. 皆川周、新野啓介、加藤文紀、奥田潤、菅井基行、後藤直正. 第 8 3 回日本細菌学会 パシフィコ横浜、3/27 横浜
21. 腸球菌ファージ φEF24C 由来溶菌酵素 ORF9 の解析 Analysis of a bacteriolytic enzyme ORF9 derived from bacteriophage phiEF24C. 内山淳平、林幾江、竹村伊代、氏原啓晃、杉浦哲朗、菅井基行、大畑雅典、松崎茂展. 第 8 3 回日本細菌学会 パシフィコ横浜、3/27 横浜
22. 当院における ESBL 産生大腸菌に関する院内感染サーベイランス. 渡部八重子、清水里美、土井正男、桑原正雄、菅井基行、桑原隆一. 第 8 4 回日本感染症学会総会 4/5-6 京都

F) 招待講演・シンポジスト・その他の講演

1. Recent topics in MRSA. Motoyuki Sugai. 第83回日本細菌学会シンポジウム S1 多剤耐性菌の現状と将来. パシフィコ横浜、3/27 横浜
2. 黄色ブドウ球菌の病原性-系統解析からのアプローチ Pathogenicity of *Staphylococcus aureus*-comparative genomic approach. 菅井 基行. 大阪大学微生物病研究所 Advanced Seminar Series 阪大微研 7/9, 大阪
3. 黄色ブドウ球菌の病原性獲得に関わるファージ: 表皮剥脱毒素遺伝子を伝播するファージ. 菅井 基行. 大阪大学蛋白質研究所セミナー「バクテリオファージ研究の可能性と課題」(第3回ファージ研究会) 阪大蛋白研 9/9, 大阪
4. 広島県における ESBL 産生菌の分子疫学解析. 桑原 隆一. 広島県臨床検査技師会感染制御部門 研修会 広島大学 10/2, 広島
5. 皮膚バリア機能を凌駕する黄色ブドウ球菌-系統解析からのアプローチ. 菅井 基行. 第33回日本分子生物学会 ワークショップ 上皮バリア機能の分子機構: 上皮組織による生体フロントラインバリア構築 12/8 神戸

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

基盤研究 C : 菅井基行 : 細胞周期特異的阻害因子 CDT の核内作用

若手研究 B : 加藤文紀 :

若手研究 B : 久恒順三 :

厚生科学研究費 (分担) : 菅井基行 :

乳酸菌研究会奨学寄付金 : 菅井基行

(5) 学会賞等の受賞状況

日本細菌学会中国・四国支部 若手優秀発表賞 村上輝明. *Staphylococcus aureus* の新規表層タンパク質 Skip. 第63回日本細菌学会中国・四国支部総会 松山 10/16, 2010

(6) 特許

1. Bactericide against streptococcus mutans and streptococcus sobrinus. European Patent Application No. 04820505.8 July 28, 2010
2. Bactericide against streptococcus mutans and streptococcus sobrinus. US Letters Patent No. 7,776,325 Sept 1, 2010

[目次へ戻る](#)

創生医科学専攻・病態探究医科学講座（口腔生理学研究室）

（１）職員並びに学生

教授 : 柴 芳樹（～3月）, 杉田 誠（8月～）
 准教授 : 廣野 力
 講師 : 杉田 誠（～7月）
 助教 : 岩佐 佳子（～3月）
 技術補佐員 : 山本州代
 大学院生 : 丸山 たかね（～3月）, 井上 麻知子（～3月）

（２）主な研究活動

- 1 : 唾液腺等の上皮膜輸送に関与するイオンチャネル・トランスポーター機能の分子生理学的解析
- 2 : 味覚識別と味覚誘発行動・情動の神経回路基盤に関する研究
- 3 : 口腔粘膜・唾液腺の増殖・分化制御機構および細胞間相互作用に関する研究
- 4 : 咀嚼・嚥下行動の生成機構および咀嚼・嚥下機能と自律神経活動の連関に関する研究

（３）研究業績

A) 原著

- 1 : Membrane potential modulation of ionomycin-stimulated Ca^{2+} entry via $\text{Ca}^{2+}/\text{H}^{+}$ exchange and SOC in rat submandibular acinar cells: Yoshida H., Hirono C., Shimamoto C., Daikoku E., Kubota T., Sugita M., Shiba Y., Nakahari T.: J Physiol Sci, 60, 363-371, 2010.
- 2 : ストレスによる唾液ペルオキシダーゼ分泌: 丸山たかね: 広島大学歯学雑誌, 42, 34-47, 2010.

B) 総説

- 1 : 味覚受容機構と味覚誘発行動・情動の脳内神経機構: 杉田 誠: 医学のあゆみ, 232, 62-66, 2010.

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1 : カルバコールで誘導されるラット顎下腺腺房細胞の振動性Cl⁻電流の駆動力: 廣野 力, 杉田 誠, 柴 芳樹: 第52回歯科基礎医学会学術大会 (千葉), 2010.
- 2 : グラミシジン穿孔パッチクランプ法による唾液腺イオン輸送機構の解析: 杉田 誠, 廣野力: 平成22年度生理研研究会 (岡崎), 2010.
- 3 : The cellular characteristics of the specific populations of taste neurons labeled by genetic tracing: Sugita M.: 2nd International Workshop on BioDental Education & Research, Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences (Hiroshima), 2010.
- 4 : Salivary peroxidase secretion on mental stress and its modulation by insulin: Maruyama T.: 2nd International Workshop on BioDental Education & Research, Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences (Hiroshima), 2010.
- 5 : Eating behavior of boiled rice and its influence on the salivary gland function: Inoue M.: 2nd International Workshop on BioDental Education & Research, Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences (Hiroshima), 2010.
- 6 : 味覚の神経経路の発生工学的トレーシングと細胞機能の解析: 杉田 誠: 立命館大学シンポジウム「感覚器と神経回路のサイエンス」(草津), 2010

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1 : 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) : 杉田 誠, 大脳皮質の味覚伝導路構成ニューロンの発生工学的トレーシングと味覚識別様式の解明. 課題番号 21592362. 1,700 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

創生医科学専攻・病態探究医科学講座（歯科薬理学研究室）

(1) 職員並びに学生

教授 : 兼松隆

准教授 : 森田克也

助教 : 北山友也, 原田佳枝

大学院生 : 奥村俊哉 (口腔外科学), 田中寛人 (九州大学歯学府から, 特別研究学生)

研究コース学生 : 6年生 ; 鶴田竜一, 5年生 ; 小川雄也, 菊重奈美, 日南田希

(2) 主な研究活動

- 1 : 中枢神経系における GABA_A 受容体構築の分子基盤解明研究
- 2 : インスリン分泌調節機構の分子基盤解明研究
- 3 : 摂食調節機構, エネルギー代謝機構の解明研究
- 4 : 新規分子を介したオートファジー機構の解明研究
- 5 : 細胞膜輸送蛋白、特に神経伝達物質トランスポーター、ヌクレオシドトランスポーターの神経疾患、脊髄痛覚伝導、薬物作用、薬物中毒、好中球活性化などにおける役割の解析
- 6 : 中枢神経系における痛覚伝導機構、神経障害性疼痛発症機序など疼痛とその制御に関する研究

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

- 1: GABA_A receptor subunit alteration-dependent diazepam insensitivity in the cerebellum of phospholipase C-related inactive protein knockout mice.: Mizokami A., Tanaka H., Ishibashi H., Umebayashi H., Fukami K., Takenawa T., Nakayama KI., Yokoyama T., Nabekura J., Kanematsu T., Hirata M.: J. Neurochem., 114(1), 302-310. 2010.
- 2: Orofacial movements in phospholipase C-related catalytically inactive protein-1/2 double knockout mice: Effect of the GABAergic agent diazepam and the D(1) dopamine receptor agonist SKF 83959: Tomiyama K., Song L., Kobayashi M., Kinsella A., Kanematsu T., Hirata M., Koshikawa N., Waddington JL.: Synapse, 64(9), 714-720, 2010.
- 3: Genetic reduction of GABA_A receptor gamma2 subunit expression potentiates the immobilizing action of isoflurane.: Seo K., Seino H., Yoshikawa H., Petrenko AB., Baba H., Fujiwara N., Someya

- G, Kawano Y., Maeda T., Matsuda M., Kanematsu T., Hirata M.: *Neurosci. Lett.*, 472(1), 1-4, 2010.
- 4: Phospholipase C-related but catalytically inactive protein is required for insulin-induced cell surface expression of gamma-aminobutyric acid type A receptors.: Fujii M., Kanematsu T., Ishibashi H., Fukami K., Takenawa T., Nakayama KI., Moss SJ., Nabekura J., Hirata M.: *J. Biol. Chem.*, 285(7), 4837-4846, 2010.
- 5: Nicotine stimulates transcriptional activity of the human dopamine transporter gene.: Ohyama K., Sogawa C., Sogawa N., Morita K., Dohi T., Kitayama S.: *Neurosci. Lett.*, 471(1), 34-37, 2010.
- 6: Expression and function of variants of human catecholamine transporters lacking the fifth transmembrane region encoded by exon 6.: Sogawa C., Mitsuhashi C., Kumagai-Morioka K., Sogawa N., Ohyama K., Morita K., Kozai K., Dohi T., Kitayama S.: *PLoS One*, 5(8), pii: e11945, 2010.

B) 総説

- 1: Surface Expression of GABA_A Receptors -Roles for the Binding Partners-: Kanematsu T., Fujii M., Tanaka H., Umehayashi H., Hirata M.: *J. Oral Biosci.*, 52(4), 54-79, 2010.

C) 著書

- 1: Mechanisms of phase-dependent pain-relief activity of glycine transporter inhibitors after nerve injury. in MEDIMOND-Monduzzi Editore International Proceeding Division, 3rd International Congress on Neuropathic Pain NeuPSIG, Athens (Greece), 2010. International Association for the Study of Pain (IASP) Working together for pain relief. (Christopher D Wells, Editors): Morita K, Motoyama N, Kitayama T, Kanematsu T, Dohi T.: Editografica • Bologna (Italy). pp213-pp216, 2010.
- 2: グリシントランスポーター;慢性疼痛治療における薬剤選定と治療薬開発 「第3部 治療臨床を意識したこれからの疼痛治療薬開発動向ー第1章 有望な鎮痛カスケードの開発動向」(技術情報協会 編集):森田克也, 土肥敏博, 技術情報協会(東京), pp400-pp404, 2010.

D) その他の出版物

- 1: 「新しい次世代型歯科医師を育てたい, PRIP の研究から得た研究マインドを伝えたい:兼松隆:広島大学歯学部 Guide Book 2010, pp15-16, 2010

E) 学会発表

- 1: PRIP ノックアウトマウスにおけるジアゼパム非感受性:田中寛人, 溝上颯子, 平田雅人, 兼松隆: 第 83 回日本薬理学会年会(大阪), 2010.
- 2: PRIP-1 KO モデル動物における疼痛行動の表現型:右田啓介, 山田順子, 富山誠彦, 兼松隆, 平田雅人, 上野伸哉:第 83 回日本薬理学会年会(大阪), 2010.
- 3: *Staphylococcus aureus* 感染が誘導するオートファジー形成に PRIP が関与する:原田佳枝, 兼松隆:第 83 回日本薬理学会年会(大阪), 2010.
- 4: 神経障害性疼痛発症とグリシンシグナルの変調:森田克也, 本山直世, 北山友也, 兼松隆, 土肥敏博:第 83 回日本薬理学会年会(大阪), 2010.
- 5: 三環系抗うつ薬の抗アロディニア作用におけるグリシン神経の関与:神人友樹, 森田克也, 本山

- 直世, 北山友也, 北山滋雄, 西村英紀, 兼松 隆, 土肥敏博: 第 19 回神経行動薬理若手研究者の集い(岡山), 2010.
- 6: 神経因性疼痛初期疼痛におけるクロライドイオン輸送体発現制御機構に関する研究: 北山友也, 本山直世, 森田克也, 西村英紀, 兼松隆, 土肥敏博: 第 19 回神経行動薬理若手研究者の集い(岡山), 2010.
- 7: オートファジーにおける PRIP の機能解析: 梅林久範, 松田美穂, 兼松隆, 平田雅人: 平成 22 年度日本生化学会九州支部例会(鹿児島), 2010.
- 8: PRIP はマウス味覚神経応答に関与する: 堀尾奈央, 兼松隆, 平田雅人, ニノ宮裕三: 第 87 回日本生理学会大会(盛岡), 2010.
- 9: PRIP-1 KO モデル動物における疼痛行動解析: 上野伸哉, 右田啓介, 山田順子, 富山誠彦, 兼松隆, 平田雅人: 第 87 回日本生理学会大会(盛岡), 2010.
- 10: Mechanisms of phase-dependent pain-relief activity of glycine transporter inhibitors after nerve injury.: Morita K., Motoyama N., Kitayama T., Jinnin Y., Nishimura F., Kanemastu T., Dohi T.: Third International Congress on Neuropathic Pain (NeuPSIG), (Athens (Greece)), 2010.
- 11: Glycine transporter inhibitors as a novel drug discovery strategy for neuropathic pain.: Dohi T., Morita K., Motoyama N., Kitayama T., Kanemastu T.: Third International Congress on Neuropathic Pain (NeuPSIG), (Athens (Greece)), 2010.
- 12: 神経障害性疼痛における中枢神経系 NMDA シグナルの変調: 鶴田竜一, 北山友也, 森田克也, 兼松隆: 第 43 回広島大学歯学会総会(広島), 2010.
- 13: PRIP は小脳の抑制性神経伝達機構を調節する: 田中寛人, 平田雅人, 兼松隆: 第 43 回広島大学歯学会総会(広島), 2010.
- 14: 神経因性疼痛が誘発する NMDA 受容体サブユニットの変化: 鶴田竜一, 北山友也, 森田克也, 兼松隆: 平成 22 年度 SCRP 日本代表選抜大会(東京), 2010.
- 15: 神経障害性疼痛発症における抑制性グリシンシグナルの変調機構に関する研究: 本山直世, 北山友也, 西村英紀, 兼松隆, 森田克也, 土肥敏博: 第 52 回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会(東京), 2010.
- 16: 神経因性疼痛が誘発する NMDA 受容体のサブユニット構築変化: 鶴田竜一, 北山友也, 森田克也, 兼松隆: 第 52 回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会(東京), 2010.
- 17: PRIP はタンパク質ホスファターゼ PP1 及び PP2A の機能を制御する: 杉山悟郎, 竹内弘, 松田美穂, 兼松隆, 平田雅人: 第 52 回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会(東京), 2010.
- 18: 三環系抗うつ薬の神経因性疼痛寛解作用における脊髄グリシン神経の関与: 神人友樹, 本山直世, 森田克也, 北山滋雄, 西村英紀, 兼松隆: 日本歯科保存学会 2010 年度秋季学術大会(第 133 回) 第 12 回日韓歯科保存学会学術大会(岐阜), 2010.
- 19: Anti-allodynia effects of glycine transporter inhibitors in neuropathic pain models.: Motoyama N., Morita K., Kitayama T., Nishimura F., Kanematsu T., Dohi T.: 58th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, (Kitakyushu), 2010.

- 20:新規分子 PRIP が仲介するエネルギー代謝調節機構の解明:奥村 俊哉, 原田 佳枝, 鎌田 伸之, 兼松 隆:第 49 回広島県歯科医学会, 第 94 回広島大学歯学会(広島), 2010.
- 21: 神経因性疼痛発症時に見られるグリシンシグナルの変調機構:本山直世, 森田克也, 北山友也, 西村英紀, 兼松隆, 土肥敏博:第 49 回広島県歯科医学会, 第 94 回広島大学歯学会(広島), 2010.
- 22: The role of PRIP in the regulation of autophagy: Umebayashi H., Matsuda M., Kanematsu T., Hirata M.: Incorporating The 12th IUBMB, 21st FAOBMB & ComBio2010 Conference (Melbourne), 2010.
- 23: PRIP は細胞内に侵入した *Staphylococcus aureus* に対するオートファジーを調節する:原田 佳枝, 兼松 隆:第 33 回日本分子生物学会, 第 83 回日本生化学会合同大会(神戸), 2010.
- 24: PRIP によるオートファジー制御機構の解明:梅林久範, 松田美穂, 兼松隆, 平田雅人:第 33 回日本分子生物学会, 第 83 回日本生化学会合同大会(神戸), 2010.
- 25: タンパク質ホスファターゼ PP1 および PP2A と PRIP の相互作用についての解析:杉山悟郎, 竹内弘, 高靖, Zhao Zhang, 松田美穂, 兼松隆, 平田雅人:第 33 回日本分子生物学会, 第 83 回日本生化学会合同大会(神戸), 2010.

F) シンポジウム

- 1 : Regulation of Inhibitory Synaptic Transmission via A Novel Signaling Molecule PRIP, PLC-related but Catalytically Inactive Protein. - Development of an Interface between Neuroscience and Oral Health Science -: Kanematsu T.: The second Workshop for Bio-dental education and research (Hiroshima), 2010.
- 2 : PRIP, a new Ins(1,4,5)P₃ binding protein, its extension to neuroscience and beyond: Hirata M., Gao J., Matsuda M., Takeuchi H., Kanematsu T.: Pohang conference in 2010, (Pohang), 2010.
- 3 : インスリン分泌顆粒の輸送を調節する新しい分子:兼松隆, 北山友也:第 52 回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会(東京), 2010.
- 4 : 慢性難治性疼痛の発症と維持におけるグリシン神経の役割:本山直世, 森田克也, 北山友也, 西村英紀, 兼松 隆, 土肥敏博:第 19 回神経行動薬理若手研究者の集い「シンポジウム 顎顔面頭頸部疼痛と口腔機能の神経科学」(岡山), 2010.
- 5 : 疼痛治療ターゲットとしてのグリシントランスポーター:森田克也, 本山直世, 北山友也, 兼松隆, 土肥敏博:社団法人日本麻酔科学会第 57 回学術集会, 第 13 回アジア・オーストラレーシア麻酔科学会「シンポジウム:疼痛治療の新しいターゲット」(福岡), 2010.
- 6 : グリシントランスポーターと神経障害性疼痛:本山直世, 森田克也, 北山友也, 兼松隆, 土肥敏博:第5回トランスポーター研究会年会 (JTRA 2010)「トランスポーター研究の魅力を探る」 「シンポジウム:神経伝達物質トランスポーターと神経疾患」(東京), 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1 : 科学研究費補助金 (基盤研究(B)) : 兼松隆, GABA シグナリング調節分子による摂食調節メ

- カニズムの解明研究. 課題番号 21390495. 6,110 千円
- 2: 科学研究費補助金 (戦略的萌芽研究): 兼松隆, GABA_A 受容体輸送調節分子による神経因性疼痛制御の基礎的研究. 課題番号 21659429. 1,500 千円
- 3: 科学研究費補助金 (最先端・次世代研究開発支援プログラム): 兼松隆, エネルギー代謝機構や摂食調節機構に関わる新規分子の機能解明研究, 課題番号 LS087. 62,034 千円
- 4: 自然科学研究機構生理学研究所共同利用研究 (計画共同研究): 兼松隆, 新規分子が関わる神経因性疼痛の発症機構の解明研究, 課題番号 122. 266 千円
- 5: 科学研究費補助金 (基盤研究(B)): 森田克也, 難治性がん性疼痛緩和のための痛みの病態生理に立脚した新たな治療法の開発. 課題番号 22390349. 11,440 千円
- 6: 科学研究費補助金 (戦略的萌芽研究): 森田克也, がん細胞が産生する新規内因性鎮痛関連物質の探索. 課題番号 22659337. 1,600 千円
- 7: 科学研究費補助金 (若手研究(B)): 北山友也, 新規小胞輸送調節分子を介した唾液腺分泌機構の解明. 課題番号 22791789. 2,340 千円
- 8: 科学研究費補助金 (若手研究(B)): 原田佳枝, 義歯安定剤使用者のための低生体為害性オーラルセルフケア法の開発. 課題番号 21791898. 1,500 千円

(5) 学術賞等の受賞状況

- 1: 鶴田竜一: 広島大学歯学会会長特別賞受賞 第43回広島大学歯学会総会, 2010.
- 2: 北山友也: 広島大学歯学部同窓会奨励賞, 2010.

(6) 特許

- 1: 森田克也, 土肥敏博, 本山直世, 北山友也, 兼松隆, 白石成二: 疼痛を処理するための組成物およびその利用 (出願番号: 特願 2010-274581) (出願人: 国立大学法人広島大学; 独立行政法人国立がん研究センター) 出願日: 2010年12月9日

[目次へ戻る](#)

創生医科学専攻・先進医療開発科学講座

(口腔顎顔面病理病態学研究室)

(1) 職員並びに学生

教授 : 高田 隆

准教授 : 宮内睦美

講師 : 工藤保誠 (学内)

助教 : 犬伏俊博

研究員 : 齋広瑩, Ajiravudh Subarnhesaj

事務補佐員 : 舛田祐子

大学院生 : 坂本宜也子 (D4), 吉田真希 (D4), Elsayed Deraz (D4), 古庄寿子 (D3), Phuong Thao Nyugen (D3), Intan Suraiya Merican Binti Aljunid Merican (D2), 常松貴明 (D1), 大林真理子 (D1), 清水なつみ (M2)

(2) 主な研究活動

- 1 : 口腔扁平上皮癌の増殖・進展に関する分子病理学的研究
- 2 : 歯周組織の再生機構に関する実験病理学的研究
- 3 : 歯周組織の破壊機構に関する実験病理学的研究
- 4 : 歯原性および唾液腺腫瘍の細胞分化と診断基準に関する研究

(3) 研究業績

A) 原著

1. miR-22 provides a direct link between cellular senescence and tumorigenesis. : Xu D, Takeshita F, Hino Y, Fukunaga S, Kudo Y, Tamaki A, Matsunaga J, Takahashi R, Takata T, Shimamoto A, Ochiya T, Tahara H. : J Cell Biol, (in press).
2. Amelogenin enhances the proliferation of cementoblast lineage cells. : Kunimatsu R, Tanimoto K, Tanne Y, Kamiya T, Ohkuma S, Huang YC, Yoshimi Y, Miyauchi M, Takata T, Tanne K. : J Periodontol, (in press).
3. Topical application of Aggregatibacter actinomycetemcomitans cytolethal distending toxin induces cell cycle arrest in the rat gingival epithelium in vivo. : Ohara M, Miyauchi M, Tsuruda K, Takata T, Sugai M. : J Periodontal Res, (in press).

4. Synthetic ameloblastin peptide stimulates differentiation of human periodontal ligament cells. : Kitagawa M, Kitagawa S, Nagasaki A, Miyauchi M, Uchida T, Takata T. : Arch Oral Biol, (in press).
5. Ameloblastin regulates osteogenic differentiation by inhibiting Src kinase via crosstalk between integrin $\beta 1$ and CD63. : Iizuka S, Kudo Y, Yoshida M, Tsunematsu T, Yoshiko Y, Uchida T, Ogawa I, Miyauchi M, Takata T. : Mol Cell Biol, 2011; 31:783-792.
6. N-cadherin expression is correlated with metastasis of spindle cell carcinoma of head and neck region. : Nguyen PT, Kudo Y, Yoshida M, Iizuka S, Ogawa I, Takata T. : J Oral Pathol Med, 2011; 40:77-82.
7. RHAMM / ERK interaction induces proliferative activities of cementifying fibroma cells through a mechanism based on the CD44-EGFR. : Hatano H, Shigeishi H, Kudo Y, Higashikawa K, Tobiume K, Takata T, Kamata N. : Lab Invest, 2011; 91:379-391.
8. N-cadherin expression is involved in malignant behavior of head and neck cancer in relation to epithelial-mesenchymal transition. : Nguyen PT, Kudo Y, Yoshida M, Kamata N, Ogawa I, Takata T. : Histol Histopathol, 2011; 26:147-156.
9. Histopathological evaluation including cytokeratin 13 and Ki-67 in the border between Lugol-stained and -unstained areas. : Ohta K, Ogawa I, Ono S, Taki M, Mizuta K, Miyauchi M, Takechi M, Shigeishi H, Takata T, Kamata N. : Oncol Rep, 2010; 24:9-14.
10. Ultrasound Stimulation Induces PGE(2) Synthesis Promoting Cementoblastic Differentiation Through EP2/EP4 Receptor Pathway. : Rego EB, Inubushi T, Kawazoe A, Tanimoto K, Miyauchi M, Tanaka E, Takata T, Tanne K. : Ultrasound Med Biol, 2010; 36:907-915.
11. Inhibitory effects of orally administrated liposomal bovine lactoferrin on the LPS-induced osteoclastogenesis. : Yamano E, Miyauchi M, Furusyo H, Kawazoe A, Ishikado A, Makino T, Tanne K, Tanaka E, Takata T. : Lab Invest, 2010; 90:1236-1246.
12. Activation of the hypoxia-inducible factor-1 in overloaded temporomandibular joint, and induction of osteoclastogenesis. : Shirakura M, Eguchi H, Miyauchi M, Nakamura H, Hiyama K, Tanimoto K, Tanaka E, Takata T, Tanne K. : Biochem Biophys Res Commun, 2010; 393:800-805.
13. Nuclear Survivin expression is correlated with malignant behaviors of head and neck cancer together with Aurora-B. : Qi G, Kudo Y, Ando T, Tsunematsu T, Shimizu N, Siriwardena S, Yoshida M, Keikhaee M, Ogawa I, Takata T. : Oral Oncol, 2010; 46:263-270.

14. Effects of mechanical stimulation by a powered toothbrush on healing of periodontal tissue in rat model of periodontal disease.: Ekuni D, Yamanaka R, Yamamoto T, Miyauchi M, Takata T, Watanabe T.: J Periodontol, 2010; 45:45-51.
15. Human trial of liposomal lactoferrin supplementation for periodontal disease. Ishikado A, Uesaki S, Suido H, Nomura Y, Sumikawa K, Maeda M, Miyauchi M, Takata T, Makino T. Biol Pharm Bull, 2010; 33:1758-1762.

B) 症例報告

1. 吉岡幸男, 小川郁子, 林堂安貴, 虎谷茂昭, 高田 隆, 岡本哲治.: 偽悪性腫瘍変化を伴った下顎歯肉腫瘍の1例.: 日本口腔科学会雑誌 2010; 59:63-67.
2. Irie T, Ogawa I, Takata T, Toyosawa S, Saito N, Akiba M, Isobe T, Hokazono C, Tachikawa T, Suzuki Y.: Sclerosing odontogenic carcinoma with benign fibro-osseous lesion of the mandible:An extremely rare case report.: Pathol Int, 2010; 60:694-700.
3. Mohamed Deraz E, Ogawa I, Miyauchi M, Kudo Y, Nakamoto T, Tani R, Takata T.: Central giant cell granuloma of the mandible: presentation of a rare case with prominent osteoblastic differentiation mimicking osteosarcoma.: Oral Med Pathol, 2010; 14:109-112.

C) 総説

1. Oncogenic role of RUNX3 in head and neck cancer.: Kudo Y, Tsunematsu T, Takata T.: J Cell Biochem, 2011; 112:387-393.
2. Deregulation of anaphase promoting complex/cyclosome dependent proteolysis in cancer.: Kudo Y, Tsunematsu T, Takata T.: J Oral Biosciences, 2010; 52:388-401.
3. 小唾液腺に発生する腫瘍と腫瘍類似病変.: 小川郁子, 北川雅恵, 工藤保誠, 宮内睦美, 高田 隆.: 日本唾液腺学会誌 2010; 51:39-48.

D) 著書

1. 宮内睦美, 高田 隆.: 第2章人体各器官の正常構造と疾患, 7 消化器: ダイナミック病理学-365 症例からのアプローチ: 鈴木利光, 山川光徳, 吉野 正 監修, 西村書店
2. 小川郁子, 久山佳代, 高田 隆.: アトラス 細胞診と病理診断(亀井敏昭, 谷山清己編集).
1. 消化器 口腔粘膜・唾液腺, 医学書院, 74-75, 83-85, 2010.
3. 高田 隆, 宮内睦美, 工藤保誠, 北島正二郎, 小川郁子, 北川雅恵.: 口腔病変クローズアップ(高田 隆, 小川郁子監著). デンタルダイヤモンド社, 2010.
4. 小川郁子, 高田 隆.: 病理形態学キーワード 第1章 頭頸部 2. 被膜外浸潤(唾液腺), 病理と臨床. 臨時増刊号, 文光堂, 28:2-3, 2010.
5. ビジュアルコミュニケーション う蝕と歯周病: 川原正照, 山本浩嗣, 高田 隆(山本浩

嗣, 高田 隆編集), 医学情報社, 2010.

E) 学会シンポジウム, 特別講演

1. Innovation of Dental Program in Hiroshima University for Establishing Dental Education in 21st Century: Takata T.: The Third Workshop for BioDental education and research, Aster Plaza (Hiroshima), January 31, 2011
2. Odontogenic tumours: Takata T, Speight P: 15th International Congress of International Association of Oral Pathologists, COEX (Seoul, Korea), August 16, 2010
3. Identification and characterization of new invasion relating molecules of head and neck squamous cell carcinoma: Kudo Y.: The 120th Anniversary of Siriraj Medical School Siriraj Scientific Congress (Bangkok, Thailand), 16-20 August 2010.
4. 歯科放射線学会に望むこと-互いの発展に向けて: 高田 隆: 第 51 回日本歯科放射線学会学術大会、鶴見大学 (横浜), 4 月 25 日.
5. 小唾液腺腫瘍の組織学的分類(WHO・2005) 臨床の場で活かすために. 小川郁子: 第 33, 34 回(社)日本口腔外科学会教育研修会・口腔四学会合同研修会 (東京, 大阪) 2 月 12-13 日, 8 月 7-8 日 2010.
6. コンパニオンミーティング「唾液腺腫瘍の病理診断」上皮筋上皮癌の組織学的多彩性について. 小川郁子, 高田 隆, 廣川満良: 第 99 回日本病理学会総会 (東京), 4 月 27-29 日, 2010.

F) 学会発表 (国際学会)

1. Bone Regeneration with Synthetic Ameloblastin Peptide: Takata T, Iizuka S, Kitagawa M, Kudo Y, Miyauchi M: The 96th Annual Meeting of American Academy of Periodontology in collaboration with the Japanese Society of Periodontology (Honolulu, USA), 30 October-2 November, 2010
2. Runx3 has an Oncogenic role in head and neck cancer. Kudo Y, Tsunematsu T, Takata T. 17th RUNX Meeting (Hiroshima, Japan), 11-14, July, 2010.
3. hyper- γ -glutamyl transpeptidase (GGT)emia is a potent risk factor for osteoporosis: Miyauchi M, Kawazoe Y, Inubushi T, Takata T. The 15th International Congress of Oral Pathology and Medicine (Souel, South Korea), August 16-20, 2010.
4. Anti-inflammatory effects of soybean lecithin liposomalized lactoferrin during orthodontic tooth movement: Kawazoe A, Inubushi T, Miyauchi M, Rego EB, Ishikado A, Tanne K, Takata T. 15th International Congress on Oral Pathology and Medicine (Seoul, Korea), 16-20, August, 2010
5. Histological diversity and differential diagnosis of epithelial-myoepithelial carcinoma of salivary gland: Ogawa I, Ohbayashi M, Mohamed Deraz E, Miyauchi M, Takata

- T. 15th International Congress on Oral Pathology and Medicine (Seoul, Republic of Korea), 16-20, August, 2010.
6. N-cadherin expression is involved in malignant behavior of head and neck cancer in relation to epithelial-mesenchymal transition: Ohbayashi M, Nguyen PT, Kudo Y, Yoshida M, Miyauchi M, Ogawa I, Takata T. 15th International Congress on Oral Pathology and Medicine (Seoul, Republic of Korea), 16-20, August, 2010.
 7. Molecular mechanisms of anti-inflammatory effects of Lactoferrin.: Inubushi T, Kawazoe A, Miyauchi M, Kudo Y, Takata T.: 15th International Association of Oral pathology Meeting (Seoul, Republic of Korea), 16-20, August, 2010.
 8. Low-intensity ultrasound enhanced cementum regeneration in vitro and in vivo.: Inubushi T, Rego EB, Kawazoe A, Tanimoto K, Miyauchi M, Tanaka E, Takata T, Tanne K. International Association of Dental Research (Barcelona, Spain), 14 July, 2010.

G) 学会発表 (国内学会)

1. 口腔扁平上皮癌における Survivin と Aurora-B の過剰発現: 工藤保誠、斉 広瑩, 小川郁子, 高田 隆: 第 99 回日本病理学会 (東京都), 4 月 27-29 日, 2010.
2. HSulf-1 は頭頸部癌の浸潤を促進する: 吉田真希, 工藤保誠, 小川郁子, 高田 隆: 第 99 回日本病理学会 (東京都), 4 月 27-29 日, 2010.
3. 口腔粘膜に多発性にアミロイド沈着を認めた本態性M蛋白血症(MGUS)の1例: 神田 拓, 山崎佐知子, 竹末奈七子, 吉田真希, 小川郁子, 虎谷茂昭, 岡本哲治: 第 64 回 NPO 法人日本口腔科学会総会・学術大会 (札幌市), 6 月 23-25 日, 2010.
4. シェーグレン症候群に随伴して生じた口蓋部 MALT リンパ腫の1例: 竹末奈七子, 小泉浩一, 小川郁子, 林堂安貴, 岡本哲治, 吉田真希: 第 64 回 NPO 法人日本口腔科学会総会・学術大会 (札幌市), 6 月 23-25 日, 2010.
5. 両側に多発した耳下腺腫瘤の一症例: 佐藤 淳, 岸野万伸, 小川裕三, 小川郁子, 高田 隆, 豊澤 悟: 第 21 回 NPO 法人日本臨床口腔病理学会総会・学術大会 (枚方市), 7 月 31 日, 8 月 1 日, 2010.
6. 歯周炎と全身疾患の関係についての実験病理学的研究 (第 1 報) 持続的 LPS 投与が全身に及ぼす影響: 古庄寿子, 宮内睦美, 坂本宜也子, 北川雅恵, 高田隆: 第 53 回日本歯周病学会春季学術大会 (盛岡市) 5 月 14-15 日, 2010.
7. 高γ-グルタミルトランスペプチダーゼ血症は骨粗鬆症を誘導する: 山口聡, 長崎敦洋, 犬伏俊博, 宮内睦美, 高田隆: 第 92 回広島大学歯学会 (広島市), 6 月 12 日, 2010.
8. 口腔癌の浸潤に関与する microRNA の網羅的解析: 吉田真希、工藤保誠、高田 隆: 第 43 回広島大学歯学会総会 (広島), 6 月 12 日, 2010.
9. 大豆レシチンリポソーム化ラクtofエリンの抗炎症効果-歯の移動時の炎症制御への応

- 用：川添 亜希， 犬伏 俊博， 宮内 睦美， Rego EB， 石角 篤， 高田 隆， 丹根一夫：第 92 回広島大学歯学会（広島市），6 月 12 日，2010.
10. 口腔扁平上皮癌における転写因子 RUNX3 の発現制御機構とその役割：常松貴明，工藤保誠，高田隆：第 64 回日本口腔科学会（札幌），6 月 24-25 日，2010
 11. 歯周炎と全身疾患の関係についての実験病理学的研究—持続的 LPS 投与が全身に及ぼす影響—：古庄寿子，宮内睦美，坂本宜也子，北川雅恵，高田隆：第 20 回日本口腔粘膜学会総会・学術集会・第 21 回 NPO 法人日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（大阪）7 月 29 日-8 月 1 日，2010.
 12. 口蓋腫瘍 (Extranodal marginal zone B-cell lymphoma of MALT type)：吉田真希，小川郁子，大林真理子，工藤保誠，宮内睦美，竹末奈七子，佐々木なおみ，高田 隆：第 21 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（大阪），8 月 1 日，2010.
 13. Emi1 siRNA による抗癌剤感受性の増強効果：工藤保誠，清水なつみ，常松貴明，高田 隆：第 2 回日本 RNAi 研究会（広島市），8 月 27-28 日，2010.
 14. 口腔扁平上皮癌における転写因子 RUNX3 の発現制御機構とその役割：常松貴明，工藤保誠，高田隆：先端歯学スクール 2010（三浦），9 月 6-7 日，2010.
 15. 細胞老化とがん化における miR-22 の役割：徐丹，竹下文隆，日野由美子，福永早央里，工藤保誠，玉置 彩，高田 隆，嶋本 顕，落谷孝広，田原栄俊：第 68 回日本癌学会学術総会（大阪市），9 月 22-24 日，2010.
 16. 頭頸部癌の浸潤に関わる microRNA の探索：吉田真希，工藤保誠，高田隆：第 68 回日本癌学会学術総会（大阪市），9 月 22-24 日，2010.
 17. 頭頸部扁平上皮癌における RUNX3 の過剰発現機構：常松貴明，工藤保誠，高田隆：第 68 回日本癌学会学術総会（大阪市），9 月 22-24 日，2010.
 18. Emi1 siRNA による抗癌剤感受性の増強効果：清水なつみ，工藤保誠，常松貴明，高田隆：第 68 回日本癌学会学術総会（大阪市），9 月 22-24 日，2010.
 19. 大豆レシチンリポソーム化ラクトフェリンは矯正的な歯の移動を阻害することなく歯周組織の炎症ならびに組織破壊を抑制する：川添亜希，宮内睦美，山野栄三，犬伏俊博，石角篤，丹根一夫，高田隆：第 4 回日本ラクトフェリン学会学術集会（長浜市），11 月 13 日，2010.
 20. Ameloblastin regulates osteogenic differentiation by inhibiting Src kinase: Kudo Y, Iizuka S, Miyauchi M, Takata T. 58th JADR Annual Meeting (北九州市), 11 月 20-21 日, 2010.
 21. γ -glutamyl transpeptidase (GGT) is a potent risk factor of periodontitis: Miyauchi M, Kawazoe Y, Takata T. 58th JADR Annual Meeting (北九州市), 11 月 20-21 日, 2010.
 22. Effects of human recombinant amelogenin on the metabolism of cementoblasts: Kunimatsu R, Tanimoto K, Tanne Y, Kamina T, Inubushi T, Huang Y-C, Mitsuyoshi T, Yoshimi Y, Miyauchi M, Takata T, Tanne K: 58th JADR Annual Meeting (北九州市), 11 月 20-21 日,

- 2010.
23. Synthetic Ameloblastin Peptide Stimulates Differentiation of Human Periodontal Ligament Cells: Kitagawa M, Miyauchi M and Takata T. 58th JADR Annual Meeting (北九州市), 11月20-21日, 2010.
 24. Amelogenin without N-terminal domain affects the metabolism of cementoblasts: Tanimoto K, Kunimatsu R, Tanne Y, Kamina T, Inubushi T, Huang Y-C, Mitsuyoshi T, Miyauchi M, Takata T, Tanne K: 58th JADR Annual Meeting (北九州市), 11月20-21日, 2010.
 25. ヘパリンおよびその誘導体を用いた骨組織再生に関する研究 -2DSH-collagen sponge diskによる検討-: 北川雅恵, 長崎敦弘, 宮内睦美, 高田 隆: 「QOLを考える歯学連携ネットワークを活用した口腔から QOL 向上を目指す研究」再生工学カテゴリー第2回学内研究集会(広島)12月2日, 2010.
 26. アメロブラスチンによる骨形成分化の制御: 工藤保誠, 飯塚新二, 吉田真希, 常松貴明, 小川郁子, 宮内睦美, 高田 隆: 「QOLを考える歯学連携ネットワークを活用した口腔から QOL 向上を目指す研究」再生工学カテゴリー第2回学内研究集会(広島)12月2日, 2010.
 27. SCF^{δTrep}による CDC25B の分解における PEST 配列の役割: 内田早苗, 渡辺信元, 工藤保誠, 松永 司, 中釜 斉, 山下克美: 第33回日本分子生物学会年会(神戸市), 12月7-10日, 2010.
 28. Emil siRNA enhances the induction of apoptosis by anticancer agent: Shimizu N, Kudo Y, Tsunematsu T, Takata T. 第33回日本分子生物学会年会(神戸市), 12月7-10日, 2010.
 29. Has-miR-22 acts as a potential regulator of cellular senescence and tumorigenesis. Hino Y, Takeshita F, Fukunaga S, Kudo Y, Ochiya T, Tahara H. 第33回日本分子生物学会年会(神戸市), 12月7-10日, 2010.
 30. 顎骨に発生した粘表皮癌、clear cell variant の1例: 大林真理子, 吉田真希, 小川郁子, 李進彰, 長谷川巧実, 横崎 宏, 高田 隆: 第55回日本唾液腺学会学術大会, 12月4日, 2010.

H) 学会発表 (症例検討)

1. 口蓋腫瘍 (acinic cell carcinoma): 小川郁子, 吉田真希, 東川晃一郎, 高田 隆. 日本病理学会中国四国支部学術集会(第101回スライドカンファレンス)(岡山市), 2月20日, 2010.
2. 口蓋腫瘍 (Extranodal marginal zone B-cell lymphoma of MALT type): 吉田真希, 小川郁子, 竹末奈七子, 佐々木なおみ, 高田 隆: 第54回広島病理集談会(広島), 3月20日, 2010.
3. 下顎骨腫瘍 (顎骨中心性粘表皮癌 clear cell variant): 大林真理子, 小川郁子, 李進彰, 井堂信二郎, 重田崇至, 長谷川巧実, 中野沙織, 横崎 宏, 宮内睦美, 高田 隆: 日本病

理学会中国四国支部学術集会（第 102 回スライドカンファレンス）（米子市），7 月 17 日，2010.

4. 顎下腺腫瘍（Pleomorphic adenoma with cellular atypia and highly proliferative activity）：小川郁子，大江知里，坂井田紀子，吉田真希，植村芳子，高田 隆：第 12 回唾液腺腫瘍病理研究会（東京都），12 月 3 日，2010.
5. 下顎骨病変：古庄寿子，宮内睦美，小川郁子，虎谷茂昭，末井良和，高田 隆：第 55 回広島病理集団会（広島市）12 月 25 日，2010.
6. 口蓋腫瘍：常松貴明，小川郁子，長崎真琴，石田克成，村田明道，荒木亜寿香，石川典由，高田隆：第 103 回中四国スライドカンファレンス，（呉），11 月 6 日，2010.

（4）科学研究費補助金等の受領状況

1. 科学研究費補助金（基盤研究(A)）高田 隆（代表，継続），口腔癌の浸潤・転移機構の解明とその悪性度診断ならびに遺伝子治療への応用
2. 科学研究費補助金（基盤研究(C)）宮内 睦美（代表，継続）， γ -GTP を標的とした新規骨疾患治療法開発に関する検討
3. 科学研究費補助金（若手研究(A)）工藤保誠（代表，継続），APC/C ユビキチンリガーゼの活性を阻害する Em1 の過剰発現と癌化との関連
4. 科学研究費補助金（特別研究員）齊 広瑩（代表，継続），口腔癌における survivin と Aurora-B の発現異常とその意義に関する研究
5. 厚生科研 高田 隆（分担，継続）：高齢者の健康及び疾病状態の把握のための新たなマーカー（遺伝子・蛋白等）の探索と分析に係る研究
6. 伊藤超短波株式会社 高田 隆（代表），超音波照射の歯周組織への影響の検討
7. サンスター株式会社寄付金 高田 隆
8. 広島市医師会委任経理金 高田 隆（代表）
9. 三菱三原病院委任経理金 高田 隆（代表）
10. 広島県腫瘍登録事業 高田 隆（代表）

（5）学会賞等の受賞状況

- 1： 吉田真希：第 42 回広島大学歯学会総会 奨励賞 2010 年 6 月 12 日（広島）
- 2： 山口 聡：（歯学部 6 年生）：第 42 回広島大学歯学会総会 歯学会会長特別賞 2010 年 6 月 12 日（広島）
- 3： 常松貴明：第 64 回日本口腔科学会 学会賞優秀発表賞 2010 年 6 月 25 日（札幌）

[目次へ戻る](#)

創生医科学専攻・先進医療開発科学講座(歯周病態学研究室)

及び口腔維持修復歯科(歯周病診療科)

(1) 職員並びに学生

教授 : 栗原英見

准教授 : 河口浩之

講師 : 柴 秀樹

助教 : 日野孝宗, 長谷川直彦, 藤田 剛, 水野智仁, 内田雄士, 武田克浩,
岩田倫幸, 應原一久

医員 : 北本泰子, 小川文野

研修医 :

大学院生 : 岩崎 代利子, 仁井谷 善恵, 松田 真司, 上田 武, 畠山 知子, 片桐 菜穂子,
橘高 瑞穂, 小西 昭弘, 宮川 剛史, 和田 健司, Kabir MD Ahamedul, Irma
Josefine Savitri, 石田 充, 今井 遥香, 大日方 祐介, 兼田 英里, 藤田 貴
子, 八木 亮一, Khung Rathvisal

(2) 主な研究活動

- 1: 歯周炎の発症に関する免疫学的研究
- 2: 骨髄間葉系幹細胞を用いた歯周組織再生に関する研究
- 3: 神経栄養因子を用いた歯周組織再生に関する研究
- 4: 歯周靭帯由来細胞, 歯髓細胞の生理機能や分化に関する研究
- 5: 歯周病原性細菌の病原因子に関する研究
- 6: 歯周病原性細菌と宿主細胞との相互作用に関する研究
- 7: 歯内・歯周療法に関する臨床的研究
- 8: ストレスと歯周病に関する研究

(3) 研究業績

A) 原著(症例報告を含む)

1. Irsogladine maleate regulates neutrophil migration and E-cadherin expression in gingival

- epithelium stimulated by *Aggregatibacter actinomycetemcomitans*.: Fujita T., Kishimoto A., Shiba H., Hayashida K., Kajiya M., Uchida Y., Matsuda S., Takeda K., Ouhara K., Kawaguchi H., Abiko Y., Kurihara H.; *Biochemical Pharmacology*. 79:1496-1505, 2010.
2. The expressions of claudin-1 and E-cadherin in junctional epithelium.: Fujita T., Hayashida K., Shiba H., Kishimoto A., Matsuda S., Kawaguchi H., Kurihara H.; *J. Periodontal Res.* 45(4):579-582, 2010
 3. Moesin-induced signaling in response to lipopolysaccharide in macrophages.: Zawawi KH., Kantarci A., Schulze-Spate U., Fujita T., Batista EL Jr., Amar S., Van Dyke TE.; *J. Periodontal Res.* 45(5):589-601, 2010
 4. Diabetes-induced oxidative stress is mediated by Ca²⁺-independent phospholipase A2 in neutrophils.: Ayilavarapu S, Kantarci A, Fredman G, Turkoglu O, Omori K, Liu H, Iwata T, Yagi M, Hasturk H, Van Dyke TE.; *J Immunol.* 1;184(3):1507-15, 2010
 5. The antimicrobial peptide LL37 induces the migration of human pulp cells: a possible adjunct for regenerative endodontics.: Kajiya M., Shiba H., Komatsuzawa H., Ouhara K., Fujita T., Takeda K., Uchida Y., Mizuno N., Kawaguchi H., Kurihara H.; *J Endod.* 36(6):1009-13. 2010

C) 著書

D) 学会発表

1. Analysis of Volatile Sulfur Compounds (VSCs) Productivity by *Porphyromonas gingivalis*. : Y. Iwasaki, T. Hino, K. Ouhara, N. Hasegawa, H. Shiba, H. Kawaguchi, H. Kurihara; The International Workshop on BioDental Education and Research 2010 (2010年2月、広島)
2. Detection of Heterotrophic Bacteria in Dental Unit Waterlines.: Y. Niitani, T. Hino, K. Ouhara, K. Hayashida, H. Shiba, H. Kawaguchi, H. Kurihara.; The International Workshop on BioDental Education and Research 2010 (2010年2月、広島)
3. 脳由来神経栄養因子 (BDNF) と高分子ヒアルロン酸を用いた歯周組織再生療法の開発 - 根面処理併用効果の検討 - : 小西昭弘、武田克浩、柴秀樹、林田浩一、橘高瑞穂、藤田剛、松田真司、河口浩之、橋本正道、辻紘一郎、栗原英見 ; 第9回日本再生医療学会 (2010年3月 ; 広島)
4. 間葉系幹細胞の骨分化における歯周靭帯細胞の役割 : 岩田 倫幸, 藤田 剛, 永原 隆吉, 平田 玲加, 柴 秀樹, 水野 智仁, 河口 浩之, 栗原 英見 ; 第53回日本歯周病学会学術大会 (春季) (2010年5月、岩手)
5. 炎症性サイトカイン IL-32 の歯周組織における発現およびPBMCに対する作用 : 應原 一久, 藤田 剛, 林田 浩一, 加治屋 幹人, Udijanto Irma, 柴 秀樹, 河口 浩之, 栗原 英見 ; 第

- 53 回日本歯周病学会学術大会（春季）（2010 年 5 月、岩手）
6. *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* が歯肉上皮の claudin-1 発現および機能に及ぼす影響：藤田 剛，應原一久，湯本浩通，林田浩一，永原隆吉，宮川剛史，岩田倫幸，柴 秀樹，河口浩之，松尾敬志，栗原英見；第 53 回日本歯周病学会学術大会（春季）（2010 年 5 月、岩手）
 7. 脳由来神経栄養因子 (BDNF) は血管内皮細胞遊走過程における integrin の発現、及び Focal adhesion kinase (FAK) のリン酸化を制御する：松田真司，藤田 剛，加治屋幹人，武田克浩，柴 秀樹，河口浩之，栗原英見；第 53 回日本歯周病学会学術大会（春季）（2010 年 5 月、岩手）
 8. 短期間で歯周組織の改善がみられた重度慢性歯周炎の一症例：松井 加奈子，内田 雄士，田村 裕子，栗原 英見；第 53 回日本歯周病学会学術大会（春季）（2010 年 5 月、岩手）
 9. デンタルユニットから検出された従属栄養細菌の分析：仁井谷善恵、應原一久、日野孝宗、柴秀樹、河口浩之、栗原英見；第 43 回広島大学歯学会（2010 年 6 月、広島）
 10. 臨床分離した *Porphyromonas gingivalis* における口臭関連ガス産生能の多様性：岩崎代利子、應原一久、日野孝宗、長谷川直彦、河口浩之、栗原英見；第 43 回広島大学歯学会（2010 年 6 月、広島）
 11. イルソグラジンマレイン酸による歯肉上皮細胞のバリアー機能制御について：藤田 剛，應原一久，湯本浩通，林田浩一，永原隆吉，宮川剛史，岩田倫幸，柴 秀樹，河口浩之，松尾敬志，栗原英見；日本歯科保存学会 2010 年度春季学術大会（第 132 回）（2010 年 6 月、熊本）
 12. BDNF による細胞遊走促進過程における ERK を介した integrin の発現、及び Focal adhesion kinase (FAK) のリン酸化の制御；日本歯科保存学会 2010 年度春季学術大会（第 132 回）（2010 年 6 月、熊本）
 13. *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* 刺激によって誘導されるヒト歯肉上皮細胞の S100 タンパク質発現：内田雄士、藤田 剛、柴 秀樹、林田 浩一、加治屋幹人、上田 武、河口浩之、栗原英見；日本歯科保存学会 2010 年度春季学術大会（第 132 回）（2010 年 6 月、熊本）
 14. Usefulness of anaerobic bacterial examination to infected root canal treatment.: Y Kitamoto, Y. Uchida, T. Hino, H. Shiba, H. Kawaguchi, H. Kurihara.; 88th General session and Exhibition of the international association for dental research（2010 年 7 月、バルセロナ）
 15. The-break-of-immunetolerance to oral-commensal-bacteria leads to periodontal bone loss in mouse : K. Ouhara, T. Kawai, T. Fujita, H. Komotsuzawa, M. Kajiya, H. Shiba, H. Kawaguchi, H. Kurihara ; 88th General session and Exhibition of the international association for dental research（2010 年 7 月、バルセロナ）
 16. 歯科用 CT とマイクロスコープを用いて穿孔を伴う歯内病変の治療を行った：1 症例：内田雄士，北本泰子，柴 秀樹，藤田 剛，岩田倫幸，武田克浩，上田 武，日野孝宗，河口

- 浩之, 栗原英見; 日本歯内療法学会学術大会 (2010年7月、東京)
17. イルソグラジンマレイン酸は *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* による歯肉上皮のケモカイン産生及び E-cadherin 発現低下を制御する: 藤田 剛, 林田浩一, 柴 秀樹, 内田雄士, 武田克浩, 河口浩之, 栗原英見; 第 31 回 日本炎症再生医学会 (2010年8月、東京)
 18. 脳由来神経栄養因子 (BDNF) はヒト歯肉線維芽細胞の TrkB を介してヒアルロン酸合成酵素発現を促進する: 片桐菜穂子, 武田克浩, 柴 秀樹, 小西昭弘, 橘高瑞穂, 藤田 剛, 松田真司, 河口浩之, 栗原英見; 第 53 回秋季日本歯周病学会学術大会 (2010年9月、香川)
 19. 細胞移植治療における自己細胞外基質の scaffold としての有用性: 橘高瑞穂, 柴 秀樹, 林田浩一, 武田克浩, 岩田倫幸, 藤田 剛, 河口浩之, 栗原英見; 第 53 回秋季日本歯周病学会学術大会 (2010年9月、香川)
 20. イルソグラジンマレイン酸はヒト歯肉上皮細胞および線維芽細胞において *Porphyromonas gingivalis* 刺激による IL-8 発現を抑制する: Irma Josefine Savitri, 應原一久, 藤田剛, 宮川剛史, 内田雄士, 柴 秀樹, 河口浩之, 栗原英見; 第 53 回秋季日本歯周病学会学術大会 (2010年9月、香川)
 21. 穿孔を伴う歯内病変の治療に歯科用 CT とマイクロスコープを用いた 1 症例: 内田雄士, 北本泰子, 日野孝宗, 柴 秀樹, 河口浩之, 栗原英見; 第 95 回広島大学歯学会 (2010年9月、広島)
 22. ヒト歯肉上皮細胞において *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* が誘導する炎症関連因子の発現に対するイルソグラジンマレイン酸の効果: 宮川剛史, 藤田 剛, 應原一久, 松田真司, 武田克浩, 内田雄士, 柴 秀樹, 河口浩之, 栗原英見; 第 133 回日本歯科保存学会秋季学術大会 (2010年10月、岐阜)
 23. BDNF induces migration of endothelial cells: S. Matsuda, T. Fujita, H. Shiba, H. Kurihara; Japanese Association For Dental Reserch 58th Annual Meeting (2010年11月、福岡)
 24. Brain-derived Neurotrophic Factor / Hyaluronic Acid Complex Enhances Periodontal Tissue Regeneration: K. Takeda, H. Shiba, H. Kawaguchi, H. Kurihara; The Korean Academy of Periodontology. The 50th Anniversary and International Congress of Scientific Meeting (2010年11月、ソウル)
 25. 細胞移植治療における自己細胞外基質の足場としての有用性: 橘高瑞穂, 柴 秀樹, 林田浩一, 武田克浩, 岩田倫幸, 藤田 剛, 河口浩之, 栗原英見; 歯学連携ネットワークを活用した口腔から QOL 向上を目指す研究 第 2 回学内研究集会 (2010年12月、広島)

F) 学会シンポジウム, 特別講演

1. 新規歯周組織再生法～間葉系幹細胞の可能性～: 栗原 英見; 生涯研修セミナー (2010年6月、和歌山)
2. デンツプライ賞受賞者講演

歯内治療において実現させたい生物学的歯内療法に関する基礎的研究

柴 秀樹

第 31 回日本歯内療法学会学術大会（2010 年 7 月、東京）

3. 新規歯周組織再生法～間葉系幹細胞の可能性～：栗原 英見；生涯研修セミナー（2010 年 7 月、大分）
4. Neurotrophins and Periodontal Tissue Regeneration BDNF：栗原 英見；IADR（2010 年 7 月、バルセロナ）
5. 歯内療法における“医療安全”と細菌学的検査について：栗原 英見；第 31 回日本歯内療法学会学術大会（2010 年 7 月、東京）
6. Periodontal Tissue Regeneration with Growth Factor：栗原 英見；FDI（2010 年 9 月、サルバドール）
7. 新規歯周組織再生法～間葉系幹細胞の可能性～：栗原 英見；生涯研修セミナー（2010 年 10 月、群馬）
8. 新規歯周組織再生法～間葉系幹細胞の可能性～：栗原 英見；生涯研修セミナー（2010 年 11 月、宮城）
9. 高分子ヒアルロン酸と脳由来神経栄養因子による新しい歯周組織再生療法の開発：栗原 英見；第 32 回日本バイオマテリアル学会大会（2010 年 11 月、広島）
10. 次世代医療機器再生医療審査 WG 栗原 英見；（2010 年 12 月、東京）

（4）科学研究費補助金等の受領状況

1. 科学研究費補助金（基盤研究（C））：栗原英見，ヒト骨髄由来間葉系細胞を用いた安全・安心な細胞治療を行うための基盤整備研究 課題番号 20592334 50 千円（岡本康正先生 の分担金）
2. 科学研究費補助金（基盤研究（C））：柴秀樹，多機能分子としての LL37 の歯周炎予防 と歯周組織再生における有用性 課題番号 20592430 1,100 千円
3. 科学研究費補助金（基盤研究（B））：栗原英見，サイトカイン再生療法をオーダーメー ド医療として展開するための基礎研究 課題番号 21390557 3,500 千円
4. 科学研究費補助金（若手研究（B））：水野智仁，血族婚家系に発症する侵襲性歯周炎の 原因遺伝子同定 課題番号 21792122 1,100 千円
5. 科学研究費補助金（基盤研究（C））：河口浩之，顎骨由来の骨髄間葉系幹細胞を利用し た歯周組織再生療法の確立 課題番号 22592313 1,100 千円
6. 科学研究費補助金（若手研究（B））：武田克浩，脳由来神経栄養因子の受容体遺伝子多 型が歯周組織再生能に及ぼす影響 課題番号 22791929 1,060 千円
7. 科学研究費補助金（若手研究（B））：應原一久，上皮細胞が産生する IgG 能動輸送タン パク質 FcRn の機能解析と歯周炎治療への応用 課題番号 22792085 1,300 千円

8. 科学研究費補助金（若手研究（B））：藤田剛，歯肉上皮細胞の防御機能制御による新規歯周病予防法の開発 課題番号 22792087 1,600 千円
9. 科学研究費補助金（若手研究（B））：内田雄士，糖化最終産物の受容体を介した歯周病と糖尿病の悪化メカニズム 課題番号 22792088 1,700 千円
10. 科学研究費補助金（奨励研究）：畠山知子，抗菌ペプチド(LL37)を用いた歯肉上皮細胞の機能制御による歯周炎予防について 課題番号 22932005 400 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

武田 克浩

Best Poster Presentation Award

Brain-derived Neurotrophic Factor / Hyaluronic Acid Complex Enhances Periodontal Tissue Regeneration : Korean Academy of Periodontology. The 50th Anniversary, General session, and International Congress of the Korean Academy of Periodontology

[目次へ戻る](#)

展開医科学専攻・病態情報医科学講座（粘膜免疫学研究室）

（１）職員並びに学生

教授：高橋一郎

准教授：飛梅 圭

大学院生：當房浩一（医歯科学修士）

（２）主な研究活動

- 粘膜免疫システムの作動原理とその生物学的意義に関する研究
- プログラム細胞死の分子機構に関する研究

（３）研究業績

A) 教科書

- 1: 高橋一郎. 誘導組織・実効組織. 「臨床粘膜免疫学」清野宏編. 178-185 頁. 株式会社シナジー, 東京, 平成 22 年 12 月.
- 2: 高橋一郎, 岡橋暢夫, 清野宏. 粘膜ワクチン. 「分子予防環境医学」松島綱治編. 807-818 頁. 本の泉社, 東京, 平成 22 年 12 月.

B) 総説

- 1: Takahashi I, Fujihashi K, Kiyono H. Mucosal regulatory cells in the gastrointestinal tract and periodontium. *Periodontology*2000. 54:247-256, 2010.
- 2: Takahashi I, Nochi T, Yuki Y, Kunisawa J, Kiyono H. The mucosal immune system for secretory IgA responses and mucosal vaccine development. *Inflammation and Regeneration*. 30: 40-47, 2010.

C) 学会発表

- 1: Takahashi I, Maruyama F, Goto Y, Obata T, Kurashima Y, Nakagawa I, Kiyono H. Commensal proteobacteria in colonic CD11⁺ cells induce intestinal T cell responses. 第 14 回国際免疫学会総会, 平成 22 年 8 月 26 日, 神戸.

（４）科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 平成 22 年度東京大学医科学研究所共同研究：高橋一郎：粘膜系記憶 T 細胞の誘導・維持機構の解明。（課題番号 2010-3-305），1000 千円.

[目次へ戻る](#)

展開医科学専攻・病態情報医科学講座(歯科放射線学研究室)

及び口腔再建外科(歯科放射線科)

(1) 職員並びに学生

教授 : 谷本啓二 (*) 科長 : 谷本啓二 (併任)
 准教授 : 藤田 實
 講師 : 末井良和 (診療准教授), 中元 崇
 助教 : 長崎信一, 大塚昌彦, 澤尻昌彦, 小西 勝
 大学院生 : 小西 勝, 安原幸美, 清水充子, 太田清人, エムディ マーモド ウズザーマン,
 南谷さつき

(2) 主な研究活動

- 1 : 顎骨単純性骨嚢胞のエックス線学的分類
- 2 : 顎骨骨髓炎のエックス線学的検討
- 3 : 診断用X線領域における線量測定の研究
- 4 : 嚥下造影検査食品に関する研究
- 5 : 重粒子線の骨代謝におよぼす研究
- 6 : 口腔癌放射線治療(小線源治療)の局所制御率の改善に関する検討

(3) 研究業績

A) 原著

- 1 : Radiographic findings and prognosis of simple bone cysts of the jaws : Suei Y., Taguchi A., Nagasaki T., Tanimoto K. : Dentomaxillofacial Radiology, 39, 65-71, 2010.
- 2 : Effects of high-dose major components in oral disinfectants on the cell cycle and apoptosis in primary human gingival fibroblasts in vitro. Nomura Y, Bhawal UK, Nishikiori R, Sawajiri M, Maeda T, Okazaki M.: Dent Mater J. 2010 Jan; 29(1):75-83.
- 3 : Development of a Freeware for Analysis of Neuromagnetic Epileptic Discharges.: Hashizume A., Kurisu K., Iida K., Arita K., Akimitsu K, and Nagasaki T. : Hiroshima J Med Sci, 59:21-25, 2010.

E) 学会発表

- 1 : 全国歯学部・歯科大学病院における造影 CT 検査アンケート調査報告 : 小西 勝, 末井良和, 中元 崇, 長崎信一, 大塚昌彦, 澤尻昌彦, 藤田 實, 谷本啓二 : 第 51 回日本歯科放射線学会学術大会 (横浜), 2010.
- 2 : 嚥下造影検査食としてのごはんについて—普通食ごはんの作成— : 小西 勝, 長崎信一, 安原幸美, 谷本啓二, 中津沙弥香, 渡邊弥生, 坂本宏司 : 第 16 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (新潟), 2010.
- 3 : 重粒子線の骨代謝におよぼす影響 : 澤尻昌彦, 野村雄二, 滝波修一, 丸山耕一, 谷本啓二 : 重粒子平成 21 年度がん治療装置共同利用研究成果発表会 (千葉), 2010.
- 4 : 乳がん患者におけるパノラマエックス線写真所見—乳がん患者スクリーニングに有用か? : 田口 明, 大塚昌彦, 中元 崇, 末井良和, 谷本啓二 : 第 210 回日本歯科放射線学会関東地方会 (東京), 2010.
- 5 : A suspected case of bisphosphonate-related osteomyelitis of the mandible with solid type periosteal reaction : Zaman MD Mahmud UZ, 中元崇, 末井良和, 島末洋, 谷本啓二 : 第 15 回日本歯科放射線学会臨床画像大会 (鹿児島), 2010.
- 6 : 開業歯科医による操作でのパノラマエックス線画像を用いた骨粗鬆症診断支援システムの診断精度と再現性 : 中元 崇, 田口 明, 浅野 晃, MD Mahmud UZ Zaman, 谷本啓二 : 第 30 回日本歯科放射線学会関西・九州合同地方会 (北九州), 2010.
- 7 : 導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント : 日浅 恭, 田中武志, 小野重弘, 西 裕美, 河村 誠, 荒川 真, 内田雄士, 鍋島 巧, 香川和子, 上田 宏, 海原康孝, 中元 崇, 齊田 拓也, 岡田 貢, 安原美幸, 小川郁子, 中岡美由紀, 榎田和子, 田中俊生, 小川哲次, 鎌田伸之, 山田文香 : 第 30 回医療情報学連合大会 (浜松), 2010.
- 8 : 嚥下凍結含浸食品の嚥下動態 : 長崎信一, 小西 勝, 平位知久, 山縣誉志江, 栢下 淳, 安原幸美, 木村浩彰, 中津沙弥香, 坂本宏司, 谷本啓二 : 第 54 回日本歯科放射線学会学術大会 (横浜), 2010.
- 9 : 造影剤入りの嚥下凍結含浸食品の嚥下動態 : 長崎信一, 小西 勝, 平位知久, 山縣誉志江, 栢下 淳, 安原幸美, 木村浩彰, 中津沙弥香, 坂本宏司, 谷本啓二 : 第 16 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (新潟), 2010.
- 10 : 健常成人の摂食・嚥下時の呼吸について 第 1 報 簡易同期システムの開発 : 長崎信一, 小西 勝, 太田清人, 南谷さつき, 谷本啓二 : 第 16 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (新潟), 2010.
- 11 : 健常成人の摂食・嚥下時の呼吸について 第 2 報 摂食・嚥下における呼吸の特徴 : 太田清人, 長崎信一, 南谷 さつき, 安原幸美, 清水充子, 東嶋美佐子, 谷本啓二 : 第 16 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (新潟), 2010.
- 12 : 健常成人の摂食・嚥下時の呼吸について : 太田清人, 長崎信一, 南谷さつき, 安原幸美, 清水充子, 東嶋美佐子, 谷本啓二 : 第 20 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術大会 (長崎), 2010.

F) 適宜追加

依頼講演

- 1 : 下顎骨下縁形態測定機能付歯科用パノラマエックス線装置に関する研究開発 : 中元 崇 : 京都ビジネス交流フェア 2010 (京都), 2010.

招待講演

- 1 : Examination of Swallowing by Oral and Maxillofacial Radiologist : Keiji Tanimoto : 8th Asian Congress of Oral and Maxillofacial Radiology(Seoul), 2010.
- 2 : Videofluoroscopy and Imaging of patients with Dysphagia : Keiji Tanimoto : 22nd Indian Academy of Oral Medicine and Radiology(New Delhi), 2010.
- 3 : Swallowing: What we know? : Keiji Tanimoto : The Annual Scientific Meeting of the ADS-ROC ABSTRACT FORM (Taipei) , 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1 : 科学研究費補助金 (基盤研究(C)) : 澤尻昌彦, 放射線照射メダカによる骨代謝障害予防法の開発. 課題番号20592201. 1,170千円
- 2 : 科学研究費補助金 (基盤研究(C)) : 長崎信一, 脳磁図と拡散MRIを用いた嚥下障害患者の認知障害に対する治療法の開発. 課題番号20592202. 780千円

[目次へ戻る](#)

展開医科学専攻・病態制御医科学講座

(口腔成長・発達生物学研究室)

(1) 職員並びに学生

教授 : 前田憲彦
准教授 : 吉子裕二
助教 : 南崎朋子, 吉岡広陽
技術補佐員 : 北畠聖子
大学院生 : 錦織重矢

(2) 主な研究活動

- 1 : 骨・歯の石灰化機構
- 2 : リン酸代謝調節因子

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

- 1 : A subset of osteoblasts expressing high endogenous levels of PPAR γ switches fate to adipocytes in the rat calvaria cell culture model: Yoshiko Y., Oizumi K., Hasegawa T., Minamizaki T., Tanne K., Maeda N., Aubin J.E.: PLoS One, 5 (7), e11782, 2010.
- 2 : 1 α ,25-dihydroxyvitamin D₃ acts predominately in mature osteoblasts under conditions of high extracellular phosphate to increase fibroblast growth factor 23 production in vitro.: Yamamoto R., Minamizaki T., Yoshiko Y., Yoshioka H., Tanne K., Aubin J.E., Maeda N.: J Endocrinol, 206 (3), 279-286, 2010.

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表およびシンポジウム

- 1: 老化関連タンパク Klotho による骨の石灰化調節機構：小西有希子，吉子裕二，南崎朋子，北島聖子，吉岡広陽，香西克之，前田憲彦：第 43 回広島大学歯学会総会（広島），2010.
- 2: 可溶型 Klotho は骨における FGF23 の作用発現にリクルートされる：南崎朋子，吉子裕二，吉岡広陽，前田憲彦：第 28 回日本骨代謝学会学術集会（東京），2010.
- 3: III 型ナトリウム依存性リン酸トランスポーター Pit1 の過剰発現は骨・ミネラル代謝に先行して歯のエナメル質形成に障害をきたす：吉岡広陽，吉子裕二，南崎朋子，鈴木敦詞，伊藤光泰，前田憲彦：第 28 回日本骨代謝学会学術集会（東京），2010.
- 4: III 型ナトリウム依存性リン酸トランスポーター Pit1 の過剰発現は歯のエナメル質形成に影響し，骨・ミネラル代謝異常の発症とともに増悪する：錦織亜矢，吉岡広陽，吉子裕二，南崎朋子，前田憲彦：第 52 回歯科基礎医学会学術大会（東京），2010.
- 5: Soluble Klotho Acts as a Coactivator of FGF23 in Bone but not in Kidney to Regulate Mineralization. Minamizaki T., Yoshiko Y., Konishi Y., Yoshioka H., Kozai K., Aubin J.E., Maeda N.: The 32nd Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research (Toronto), 2010.
- 6: Overexpression of the type III sodium-dependent phosphate transporter Pit1 markedly perturbs enamel formation during tooth development. Yoshioka H., Yoshiko Y., Minamizaki T, Suzuki A., Itoh M., Maeda N.: The 32nd Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research (Toronto), 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金（若手研究（B））新規：吉岡広陽：リン酸代謝調節の側面からみた歯の形成機構：歯の形成不全の基礎的および前臨床的研究。（課題番号 22791768）2,080 千円
- 2: 科学研究費補助金（若手研究（B））継続：南崎朋子：Klotho を標的とした局所的硬組織再生法の基礎的研究。（課題番号 21791788）2,210 千円
- 3: 日本学術振興会国際学会等派遣事業：南崎朋子：Soluble Klotho Acts as a Coactivator of FGF23 in Bone but not in Kidney to Regulate Mineralization. 206 千円
- 4: 科学研究費補助金（基盤研究（C））継続：吉子裕二：FGF23 シグナルを分子標的とした歯・骨疾患治療のための基礎的研究。（課題番号 20592139）1,430 千円
- 5: 研究助成金（ラフォーネインターナショナル）：吉子裕二：石灰化関連因子の検索. 3,600 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

- 1: 小西有希子: 第43回広島大学歯学会総会奨励賞 2010年6月12日(広島)
- 2: 南崎朋子, 吉子裕二, 小西有希子, 吉岡広陽 他: Plenary Poster, The 32nd Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research 2010年10月15日(トロント)
- 3: 南崎朋子: Young Investigator Award, The 32nd Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research 2010年10月17日(トロント)

(6) 特許

- 1: 吉子裕二, 南崎朋子, 吉岡広陽, 香西克之, 前田憲彦: 石灰化組織における可溶化 Klotho、FGF23 および FGFR 複合体形成機構を利用した用途(特願2010-136637)(出願人: 広島大学、ラファイネインターナショナル)

[目次へ戻る](#)

展開医科学専攻・病態制御医科学講座（歯科麻酔学研究室） 及び口腔再建外科（歯科麻酔科）

（1）職員並びに学生

教授 : 入船正浩
助教 : 清水慶隆、土井 充、齊田拓也
医員 : 三浦完菜、西中村 亮
大学院生 : 向井明里、宮原岳史、大植香菜
研修登録医 : 河原道夫、片山荘太郎、河原利哉、福島玲子、石田雅嗣

（2）主な研究活動

- 1 : 麻酔作用機序に関する研究
- 2 : 静脈麻酔薬が引き起こす麻酔要素における各種神経の役割に関する研究
- 3 : 全身麻酔薬の興奮作用（興奮期）に関する研究
- 4 : 鎮静薬の抗不安効果に関する研究
- 5 : 笑気の末梢循環動態への作用に関する研究
- 6 : 慢性疼痛に関する研究
- 7 : 心肺蘇生における胸骨圧迫の有効性に関する研究
- 8 : 歯科治療時の全身的合併症に関する研究

（3）研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

- 1 : 当初歯冠周囲炎が疑われた特発性血小板減少性紫斑病の1例 : 片山荘太郎、小野 厚、浜本和子、須澤利文、入船正浩、片山 巖 : 広島歯科医学雑誌、37 卷 1 号、61-66、2010.

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

- 1 : 口腔顔面痛 : 椎葉俊司、坂本英治、土井 充 : Anesthesia Network、14 卷 2 号、27-33、2010.

E) 学会発表

- 1: 麻酔要素の発現における GABA 神経の役割 –ペントバルビタールと選択的作用薬の違い–: 入船正浩、向井明里、宮原岳史、大植香菜、土井 充、清水慶隆、齊田拓也、三浦完菜、西中村 亮、福島怜子: 第 43 回広島大学歯学会総会 (広島)、2010.
- 2: ペントバルビタールの麻酔要素発現における GABA およびグリシン神経の役割: 入船正浩、向井明里、宮原岳史、大植香菜、土井 充、清水慶隆、齊田拓也、三浦完菜、西中村亮、福島怜子: 第 25 回中国・四国歯科麻酔研究会 (広島)、2010.
- 3: 当科において全身麻酔症例に使用した薬物の推移 –2005 年と 2009 年の比較–: 西中村亮、清水慶隆、土井 充、齊田拓也、三浦完菜、向井明里、宮原岳史、福島怜子、大植香菜、入船正浩: 第 25 回中国・四国歯科麻酔研究会 (広島)、2010.
- 4: 塵肺に COPD を併発した患者に対し行った術前呼吸リハビリテーションが有効であった全身麻酔の 1 例 –スーフルを用いて–: 大植香菜、清水慶隆、齊田拓也、土井 充、西中村 亮、福島怜子、三浦完菜、宮原岳史、向井明里、入船正浩: 第 25 回中国・四国歯科麻酔研究会 (広島)、2010.
- 5: Can chromogranin-A and amylase in saliva quantify psychological stress?: Endo C, Irifune M, Kawahara M, Joh S: The 88th International Association for Dental research General Session, Barcelona, Spain, July 15, 2010.
- 6: 臨床研修必修化 5 年後の見直しを前にしてのプログラム評価: 西 裕美、田中良治、田口則宏、白井憲一、長谷川直彦、津賀一弘、井上俊二、小泉浩一、島末 洋、清水慶隆、林 文子、河村 誠、岡田 貢、入船正浩、小川哲次: 第 29 回日本歯科医学教育学会学術大会 (盛岡)、2010.
- 7: 広島大学病院におけるキャリアデザインから見た歯科医師臨床研修のアウトカム: 田口則宏、大林泰二、小原 勝、田中良治、西 裕美、岡田 貢、入船正浩、小川哲次: 第 29 回日本歯科医学教育学会学術大会 (盛岡)、2010.
- 8: 広島大学病院における口腔顔面痛への取り組み: 土井 充: 第 15 回口腔顔面痛学会 (福岡)、2010.
- 9: ペントバルビタールが引き起こす麻酔要素に及ぼす GABA, グリシンおよび神経性ニコチン受容体リガンドの影響: 向井明里、入船正浩、宮原岳史、大植香菜、土井 充、清水慶隆、齊田拓也、三浦完菜、西中村 亮、福島怜子: 第 38 回日本歯科麻酔学会総会・学術集会 (横須賀)、2010.

- 10: 難治性外傷性三叉神経ニューロパシーにおけるアミトリプチリンの効果の検討:土井 充、谷口省吾、清水慶隆、大植香菜、西中村 亮、福島怜子、三浦完菜、入船正浩:第49回広島県歯科医学会・第94回広島大学歯学会(広島)、2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金(基盤研究(C))継続:入船正浩:全身麻酔要素である鎮痛・不動化作用におけるサブスタンスPの役割.(課題番号 20592373). 500 千円.
- 2: 科学研究費補助金(若手研究(B))継続:土井 充:難治性慢性疼痛の症状特異性と心理社会的要因における定量的評価-MEG と f-MRI.(課題番号 20791524). 100 千円.

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（健康増進歯学研究
室）及び口腔維持修復歯科（歯科保存診療科）

（1）職員並びに学生

教授 : 西村 英紀
 准教授 :
 講師 : 藤井 理史
 助教 : 白井 憲一, 荒川 真, 鈴木 茂樹, 本山 直世, 峯岡 茜, 山下 明子
 医員 :
 大学院生 : 岩下 未咲, 熊本 園子, 米廣 純子, 神人 友樹, 半井 英雄, 永安 慎太郎,
 藤井 紗貴子, 新城 尊徳, 小武家 誠司

（2）主な研究活動

- 1: 齶触感受性宿主の宿主因子の解明
- 2: 歯科疾患と全身疾患の関連性の解明
- 3: 栄養素と歯科疾患の関連性の解明
- 4: 歯科疾患診断への新たな検査法の開発
- 5: 新規検査法に基づいた新たな予防法の開発
- 6: 生体親和性材料の開発と臨床応用
- 7: 変色歯の機序解明と治療法の開発
- 8: レーザーを用いた新たな生体非侵襲性治療法の開発
- 9: 象牙質/歯髄複合体の生物学的再生に関する研究

（3）研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

- 1: 歯面コート材によるコーティングがもたらす歯質の脱灰抑制効果：荒川 真, 白井 憲一, 鈴木 茂樹, 本山 直世, 山下 明子, 峯岡 茜, 藤井 理史, 西村 英紀：日本歯科保存学雑誌, 53, 73-78, 2010.
- 2: The importance of Valine 114 in ligand binding in b2-Adrenergic Receptor: Arakawa M., Yanamala N., Upadhyaya J., Halayako A., Klein-Seetharaman J., Chelikani P.: Protein Sci., 19 (1), 85-93, 2010.
- 3: Periodontal conditions in Werner syndrome: Nishimura F., Arakawa M., Goto M.: J Periodontol., 81, 3, 2010.
- 4: Total bacterial counts on oral mucosa after using a commercial saliva substitute in patients undergoing hematopoietic cell transplantation: Sugiura Y., Soga Y., Yamabe K., Tsutani S., Tanimoto I., Maeda H., Koheguchi S., Fujii N., Ishimaru F., Tanimoto M., Nishimura F., Takashiba S.: Supportive Care in Cancer, 18, 395-398, 2010.

- 5: Macrophage foam cell formation is augmented in serum from patients with diabetic angiopathy: Cui X., Kushiyama A., Yoneda M., Nakatsu Y., Guo Y., Zhang J., Ono H., Kanna M., Sakoda H., Ono H., Kikuchi T., Fujishiro M., Shiomi M., Kamata H., Kurihara H., Kikuchi M., Kawazu S., Nishimura F., Asano T.: *Diabetes Res Clin Pract*, 87, 57-63, 2010.
- 6: 導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント：日浅 恭, 田中 武志, 小野 重弘, 西 裕美, 河村 誠, 荒川 真, 内田 雄士, 鍋島 巧, 香川 和子, 上田 宏, 海原 康孝, 中元 崇, 齊田 拓也, 岡田 貢, 安原 幸美, 小川 郁子, 中岡 美由紀, 槇田 和子, 田中 俊生, 小川 哲次, 鎌田 伸之, 山田 文香：医療情報学 Vol. 30 Supplement（第30回医療情報学連合大会論文集）, 2010.
- 7: Extracellular heat shock protein HSP90beta secreted by MG63 osteosarcoma cells inhibits activation of latent TGF-beta1: Suzuki S., Kulkarni A.B.: *Biochem Biophys Res Commun.*, 398 (3) , 525-31, 2010.
- 8: A method for rapid demineralization of teeth and bones: Cho A., Suzuki S., Hatakeyama J., Haruyama N., Kulkarni A.B.: *Open Dent J.*, in press, 2010.
- 9: Fibroblasts stimulated via HLA-II molecules produce PGE2 and regulate cytokine production from Th cells: Kato-Kogoe N., Ohyama H., Nishimura F., Meguro M., Yoshizawa S., Okada Y., Nakasyo K., Yamanegi K., Yamada N., Hata M., Higashi T., Terada N., Matsushita S.: *Lab Invest.*, in press, 2010.
- 10: Bacterial substitution of coagulase-negative staphylococci for streptococci on the oral mucosa after hematopoietic cell transplantation: Soga Y., Maeda Y., Ishimaru F., Tanimoto M., Maeda H., Nishimura F., Takashiba S.: *Supportive Care in Cancer*, in press, 2010.
- 11: Decreased SIRT1 expression and LKB1 phosphorylation occur with long-term high-fat diet feeding, in addition to AMPK phosphorylation impairment in the early phase: Yoneda M., Guo Y., Ono H., Nakatsu Y., Zhang J., Cui X.L., Iwashita M., Kumamoto S., Tsuchiya Y., Sakoda H., Fujishiro M., Kushiyama A., Koketsu Y., Kikuchi T., Kamata H., Nishimura F., Asano T.: *Obese Res Clin Pract*, 4, 201-207, 2010.
- 12: Periodontal disease and hyper-triglyceridemia in Japanese subjects: potential association with enhanced lipolysis: Nakarai H., Yamashita A., Takagi M., Adachi M., Sugiyama M., Noda H., Katano M., Yamakawa R., Nakayama K., Takumiya H., Nakai Y., Taniguchi A., Nishimura F.: *Metabolism*, in press, 2010.
- 13: Pin1 associates with and induces translocation of CRTCL2 to the cytosol, thereby suppressing CRE transcriptional activity: Nakatsu Y., Sakoda H., Kushiyama A., Ono H., Fujishiro M., Horike N., Yoneda M., Ohno H., Kamata H., Tahara H., Isobe T., Nishimura F., Katagiri H., Oka Y., Fukushima T., Takahashi SI., Kurihara H., Uchida T., Asano T.: *J Biol Chem.*, in press, 2010.
- 14: Clinical and immunological assessment of periodontal disease in Japanese leprosy patients: Ohyama H., Hongyo H., Shimizu N., Shimizu Y., Nishimura F., Nakagawa M., Arai H., Kato-Kogoe N.,

Terada N., Nagai A., Takashiba S., Kurihara H., Nomura Y., Murayama Y.: *Jpn J Infect Dis.*, 63, 427-432, 2010.

- 15: Adipocyte-macrophage interaction may mediate LPS-induced low-grade inflammation: potential link with metabolic complications: Nakarai H., Yamashita A., Nagayasu S., Iwashita M., Kumamoto S., Ohyama H., Hata M., Soga Y., Kushiya A., Asano T., Abiko Y., Nishimura F.: *Innate Immunity*, in press, 2010.

B) 総説

- 1: 歯周病と肥満：西村英紀：日本咀嚼学会雑誌, 20, 56-60, 2010.

C) 著書

- 1: I 予防医学と疾病 10. 口腔保健と歯周病：予防医学指導士テキスト（奥田久徳、原田康夫監修）：西村英紀（分担執筆）：日本予防医学会（岡山），70-74, 2010.
- 2: 11. 糖尿病と歯周病：科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン 2010（日本糖尿病学会編集）：河野隆幸，西村英紀（分担執筆）：南光堂（東京），127-134, 2010.
- 3: Mechanisms of phase-dependent pain-relief activity of glycine transporter inhibitors after nerve injury: in MEDIMOND-Monduzzi Editore International Proceeding Division, 3rd International Congress on Neuropathic Pain NeuPSIG, Athens (Greece), 2010. International Association for the Study of Pain (IASP) Working together for pain relief. (Christopher D Wells, Editors) : Morita K., Motoyama N., Kitayama T., Kanemastu T., Dohi T.: Editografica • Bologna (Italy). pp213-pp216, 2010.

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1: LDL受容体欠損マウスにおけるLPS 持続注入による慢性炎症の惹起とアンギオテンシンII受容体拮抗薬の抗炎症効果の検討：熊本 園子，岩下 未咲，西村 英紀：第2回バイオデンティストワークショップ（広島），2010年2月11～12日.
- 2: Involvement of infiltrated macrophage in the induction of LPS-induced insulin resistance in adipose tissue and its prevention by ARB: Iwashita M., Kumamoto S., Asano T., Nishimura F.: The 2nd International Workshop on BioDental Education & Research (Hiroshima), February 11-12, 2010.
- 3: 三環系抗うつ薬の抗アロディニア作用におけるグリシン神経の関与：神人 友樹，森田 克也，本山 直世，北山 友也，北山 滋雄，西村 英紀，兼松 隆，土肥 敏博：第19回神経行動薬理若手研究者の集い（岡山），2010年3月15日.
- 4: LPSによる脂肪組織インスリン抵抗性へのマクロファージの関与およびARBの作用：岩下

- 未咲, 熊本 園子, 西村 英紀: 第 53 回日本歯周病学会春季学術大会 (岩手), 2010 年 5 月 14~15 日.
- 5: LDL 受容体欠損マウスにおける LPS 持続注入による慢性炎症の惹起とアンジオテンシン II 受容体拮抗薬の抗炎症効果の検討: 熊本 園子, 岩下 未咲, 浅野 知一郎, 西村 英紀: 第 53 回春季日本歯周病学会学術大会 (岩手), 2010 年 5 月 13~15 日.
- 6: 活性化マクロファージによる脂肪・肝のインスリン抵抗生誘導と ARB による抵抗性改善作用の機序に関する網羅的解析: 熊本 園子, 岩下 未咲, 中津 祐介, 櫛山 暁史, 迫田 秀之, 藤城 緑, 神名 麻智, 郭 榮, 菊池 貴子, 西村 英紀, 浅野 知一郎: 第 53 回日本糖尿病学会年次学術集会 (岡山), 2010 年 5 月 27~29 日.
- 7: LPS による脂肪組織インスリン抵抗性へのマクロファージの関与および ARB によるインスリン抵抗性改善作用の機序: 岩下 未咲, 熊本 園子, 迫田 秀之, 櫛山 暁史, 藤城 緑, 大野 晴也, 鎌田 英明, 西村 英紀, 浅野 知一郎: 第 53 回日本糖尿病学会年次学術集会 (岡山), 2010 年 5 月 27~29 日.
- 8: 脂肪細胞はマクロファージと共存することで LPS 刺激によって急性期タンパク SAA を高産生する: 半井 英雄, 山下 明子, 曾我 賢彦, 岩本 義博, 安孫子宜光, 西村 英紀: 第 53 回日本糖尿病学会 (岡山), 2010 年 5 月 27~29 日.
- 9: ハワイ在住日系人の歯科検診結果報告—米国型ライフスタイルが口腔状況に及ぼす影響—: 峯岡 茜, 荒川 真, 長谷川 直彦, 栗原 英見, 西村 英紀: 第 132 回日本歯科保存学会春季学術大会 (熊本), 2010 年 6 月 4~5 日.
- 10: 無血清培地 STK2 によるヒト歯髓細胞の増殖および石灰化能の亢進: 藤井 紗貴子, 藤本 勝巳, 邵金昌, 尾田 良, 西村 英紀, 加藤 幸夫: 第 132 回日本歯科保存学会春季学術大会 (熊本), 2010 年 6 月 4~5 日.
- 11: フラボノイドによる歯髓炎症制御の応用—リン酸化プルランセメントを用いての検討—: 米廣 純子, 山下 明子, 吉田 靖弘, 西村 英紀: 第 132 回日本歯科保存学会春季学術大会 (熊本), 2010 年 6 月 4~5 日.
- 12: Valsartan suppresses inflammatory response of LPS-induced activated macrophages and thereby improves adipose insulin resistance: Iwashita M., Kumamoto S., Kushiyama A., Nakatsu Y., Tsuchiya Y., Sakoda H., Fujishiro M., Otani Y., Kikuchi T., Nishimura F., Kamata H., Asano T.: American Diabetes Association 70th Scientific Sessions (Orlando, Florida), June 25-29, 2010.
- 13: Prevention of LPS-induced insulin resistance in adipose tissue by ARB: Iwashita M., Kumamoto S., Asano T., Nishimura F.: The 88th International Association for Dental Research General Session (Barcelona), July 14-17, 2010.
- 14: ARB attenuates LPS-induced inflammatory cytokine expression in LDLR KO mouse: Kumamoto S., Iwashita M., Asano T., Nishimura F.: The International and American Association for Dental Research (Barcelona), July 14-17, 2010.

- 15: Periodontal tissue destruction is associated with high triglycerides in Japanese: Yamashita A., Katano M., Takagi M., Nishimura F.: The International and American Association for Dental Research (Barcelona), July 14-17, 2010.
- 16: マクロファージは TNF- α を介して脂肪分解を誘導し中性脂肪の上昇に関与する: 半井 英雄, 山下 明子, 西村 英紀: 第 53 回日本歯周病学会秋季学術大会 (香川), 2010 年 9 月 19 日.
- 17: ココアフラボノールの心血管イベント抑制効果の機序の検討—脂肪細胞・マクロファージ相互作用の観点から: 永安 慎太郎, 山下 明子, 鈴木 茂樹, 半井 英雄, 安孫子宜光, 西村 英紀: 第 53 回日本歯周病学会秋季学術大会 (香川), 2010 年 9 月 19 日.
- 18: ココアフラボノールの心血管イベント抑制効果機序の検討—脂肪細胞・マクロファージ相互作用の観点から: 永安 慎太郎, 山下 明子, 鈴木 茂樹, 半井 英雄, 安孫子宜光, 西村 英紀: 第 25 回日本糖尿病合併症学会 (滋賀), 2010 年 10 月 22~23 日.
- 19: 三環系抗うつ薬の神経因性疼痛寛解作用における脊髄グリシン神経の関与: 神人 友樹, 本山 直世, 森田 克也, 北山 滋雄, 西村 英紀, 兼松 隆: 第 132 回日本歯科保存学会秋季学術大会 (岐阜), 2010 年 10 月 28~29 日.
- 20: 開裂抵抗性 Dentin sialophosphoprotein 発現株の作製: 鈴木 茂樹, 小武家 誠司, 西村 英紀: 第 132 回日本歯科保存学会秋季学術大会 (岐阜), 2010 年 10 月 28~29 日.
- 21: 神経障害性疼痛発症とグリシンシグナルの変調: 森田 克也, 本山 直世, 北山 友也, 兼松 隆, 土肥 敏博: 第 83 回日本薬理学会年会 (大阪), 2010 年 3 月 16~18 日.
- 22: 三環系抗うつ薬の抗アロディニア作用におけるグリシン神経の関与: 神人 友樹, 森田 克也, 本山 直世, 北山 友也, 北山 滋雄, 西村 英紀, 兼松 隆, 土肥 敏博: 第 19 回神経行動薬理若手研究者の集い (岡山), 2010 年 3 月 15 日.
- 23: 神経因性疼痛初期疼痛におけるクロライドイオン輸送体発現制御機構に関する研究: 北山 友也, 本山 直世, 森田 克也, 西村 英紀, 兼松 隆, 土肥 敏博: 第 19 回神経行動薬理若手研究者の集い (岡山), 2010 年 3 月 15 日.
- 24: Mechanisms of phase-dependent pain-relief activity of glycine transporter inhibitors after nerve injury: Morita K., Motoyama N., Kitayama T., Jinnin Y., Nishimura F., Kanemastu T., Dohi T.: Third International Congress on Neuropathic Pain (NeuPSIG), (Athens (Greece)), May 27-30, 2010.
- 25: Glycine transporter inhibitors as a novel drug discovery strategy for neuropathic pain: Dohi T, Morita K, Motoyama N, Kitayama T, Kanemastu T.: Third International Congress on Neuropathic Pain (NeuPSIG), (Athens (Greece)), May 27-30, 2010.
- 26: 神経障害性疼痛発症における抑制性グリシンシグナルの変調機序に関する研究: 本山 直世, 北山 友也, 西村 英紀, 兼松 隆, 森田 克也, 土肥 敏博: 第 52 回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 (東京), 2010 年 9 月 20~22 日.
- 27: 三環系抗うつ薬の神経因性疼痛寛解作用における脊髄グリシン神経の関与: 神人 友樹, 本山 直世, 森田 克也, 北山 滋雄, 西村 英紀, 兼松 隆: 第 132 回日本歯科保存学会秋季学

術大会（岐阜），2010年10月28～29日

- 28: Anti-allodynia Effects of Glycine Transporter inhibitors in Neuropathic Pain Models: Motoyama N., Morita K., Kitayama T., Nishimura F., Kanemastu T., Dohi T.: The 58th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, (Kitakyushu), 2010.

F) 学会シンポジウム，特別講演

- 1: 歯周病が糖尿病の合併症としてでなく，その危険因子と考えられるようになった背景（シンポジウム「歯周医学最前線－これまで何がわかったか－」：西村 英紀：第19回日本有病者歯科医療学会総会（神戸），2010年4月24日
- 2: 慢性難治性疼痛の発症と維持におけるグリシン神経の役割：本山 直世，森田 克也，北山 友也，西村 英紀，兼松 隆，土肥 敏博：第19回神経行動薬理若手研究者の集い（岡山），2010年3月15日.
- 3: 疼痛治療ターゲットとしてのグリシントランスポーター：森田 克也，本山 直世，北山 友也，兼松 隆，土肥 敏博：社団法人日本麻酔科学会第57回学術集会，第13回アジア・オーストラレーシア麻酔科学会（福岡），2010年6月3～4日.
- 4: グリシントランスポーターと神経障害性疼痛：本山 直世，森田 克也，北山 友也，兼松 隆，土肥 敏博：第5回トランスポーター研究会年会（東京），2010年7月10～11日.

（4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B）一般）：西村 英紀，歯周医学と不老医学の融合を目指す基盤研究. 課題番号 80208222. 2,400 千円
- 2: 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C）一般）：白井 憲一，鈴木 茂樹，西村 英紀，Sr-CaPO₄複合体を応用した自己修復能を有する接着システムの開発. 課題番号 20592227. 1,170 千円
- 3: 若手研究（スタートアップ）：鈴木 茂樹，象牙質形成における DSPP 開裂のメカニズムと意義の解明. 課題番号 21890158. 940 千円
- 4: 日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究（B））：峯岡 茜，良質再石灰化エナメル質の獲得－ストロンチウムによるナノレベルでのメカニズムの解明－. 課題番号 22791837. 1,300 千円
- 5: 日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究（B））：荒川 真，加齢と歯周病の関連性の解明－ウエルナー症候群患者における検討－. 課題番号 21722120. 1,040 千円
- 6: 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C）一般）：本山 直世，痛みの生物学に立脚した歯髄局所の疼痛緩和を目指す創薬アプローチ. 課題番号 21592421. 1,300 千円

- 7: 日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究（B））：山下 明子，抗炎症作用を有する薬剤が脂肪細胞・マクロファージ共培養系へ及ぼす影響の網羅的解析．課題番号 22792086．
2,730 千円

（5）学会賞等の受賞状況

- 1: 岩下未咲：第 70 回米国糖尿病学会：プレジデントポスター賞，2010 年 6 月 28 日．
- 2: 鈴木茂樹：日本歯科保存学会：奨励賞，2010 年 10 月 28～29 日．
- 3: 鈴木茂樹：日本歯科保存学会：デンツプライ賞，2010 年 6 月 4～5 日．

（6）特許

- 1: 森田 克也，土肥 敏博，本山 直世，北山 友也，兼松 隆，白石 成二：疼痛を処理するための組成物およびその利用（出願番号：特願 2010-274581）（出願人：国立大学法人広島大学；独立行政法人国立がん研究センター）出願日：2010 年 12 月 9 日

[目次へ戻る](#)

展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（口腔外科学教室） 及び口腔再建外科（口腔顎顔面再建外科）

（１）職員並びに学生

教授 : 鎌田伸之
 准教授 : 武知正晃
 講師 : 東川晃一郎
 助教 : 太田耕司（診療講師）、二宮嘉昭、島末 洋、小野重弘、重石英生、水田邦子、
 中川貴之、平岡美里
 医員 : 藤本伸一
 大学院生 : 南 正彦、田中扶美、奥井 岳、奥村俊哉、福井暁子、太田 彰、波多野寛子、
 根岸佳保里、高本 愛、Ta To Tran、久保菌和美、清野紗矢香、Andra Rizqiawan
 研修登録医 : 清見原正騎、井上義久、長谷川 總、中本幸夫、吉岡正貴

（２）主な研究活動

- 1 : 顎顔面再建法の改良と機能評価
- 2 : 口腔疾患のゲノム研究
- 3 : 口腔腫瘍の生物学的特性と治療に関する研究
- 4 : 口腔癌の浸潤・転移制御に関する細胞生物学的研究
- 5 : 顎骨の硬組織形成線維性病変の原因遺伝子に関する研究
- 6 : 歯と歯周組織の再生治療に関する細胞生物学的研究
- 7 : 新規生体材料、口腔組織の再生・造成に関する研究

（３）研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

1) Recessive mutations in the putative calcium-activated Chloride channel

Anoctamin 5 cause proximal LGMD2L and distal MMD3 muscular dystrophies.

Bolduc V, Marlow G, Boycott KM, Saleki K, Inoue H, Kroon J, Itakura M,
 Robitaille Y, Parent L, Baas F, Mizuta K, Kamata N, Richard I, Linszen WH,
 Mahjneh I, de Visser M, Bashir R, Brais B.

Am J Hum Genet. 86 (2):213-21, 2010

2) Influence of factors related to implant stability detected by wireless resonance

frequency analysis device.Ohta K, Takechi M, Minami M, Shigeishi H,Hiraoka

- M,Nishimura M,Kamata N. Journal of Oral Rehabilitation .37(2): 131-7, 2010
- 3) Histopathological evaluation including Cytokeratin13 and Ki-67 in the border between Lugol-stained and unstained areas.Ohta K, Ogawa I, Ono S, Taki M, Mizuta K, Miyauchi M, Takechi M, Shigeishi H, Takata T, Kamata N. Oncology reports 24(1): 9-14, 2010
 - 4) CX3CL1 expression induced by Candida albicans in oral fibroblasts. Ohta K, Nishi H,Fukui A, Shigeishi H, Takechi M, Kamata N. FEMS Immunol Med Microbiol.; 60(2):179-85、 2010
 - 5) Wound healing effects of gingival fibroblasts cultured in animal-free medium. NishiH, Ohta K, Takechi M, Yoneda S, Hiraoka M, Kamata N. Oral Disease 16(5):438-44, 2010
 - 6) Comprehensive analysis of the MYB-NFIB gene fusion in salivary adenoid cystic carcinoma: incidence, variability and clinicopathological significance. Mitani Y, Li J, Rao HP, Zhao Y, Bell D, Lippman MS, Weber SR, Caulin C, EI-Naggar, K Clinical Cancer Research 16(19):4722-31, 2010
 - 7) Additive effects of orexin B and vasoactive intestinal polypeptide on LL-37-mediated antimicrobial activities.Ohta K, Kajiya M, Zhu T, Nishi H, Mawardi H, Shin J, Elbadawi L, Kamata N, Komatsuzawa H, Kawai T. J Neuroimmunol. 2010 Dec 20.
 - 8) 2009 歯科医師臨床研修プログラムについて 臨床教育と臨床研修医の意識調査について: 本山智得, 森本克廣, 土江健也, 川原正照, 熊谷宏, 中本雅志, 山崎徹, 山本智之, 荒谷恭史, 三戸敦史, 久保康治, 瓜生賢, 島末一則, 光山武文, 山崎保彦, 中村隆一, 岸民祐, 妹尾博文, 田中千香子, 進藤典久, 小川哲次, 田口則宏, 三島幸司, 柏典子, 本山直世, 神人友樹, 神人大輔, 鎌田伸之.: 広島歯科医学雑誌 37(1):85-89, 2010
 - 9) FDG PET-CT 検査により同時性重複癌を検出した舌癌の 2 例: 水田邦子, 小野重弘, 藤本伸一, 奥井 岳, 三谷佳嗣, 武知正晃, 鎌田伸之.: 広島大学歯学雑誌 第 42 巻 2 号,2010
 - 10) 導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント: 日浅 恭、田中武志、小野重弘、西 裕美、荒川 真、内田雄士、鍋島 巧、香川和子、上田 宏、海原康孝、中元 崇、齋田拓也、岡田 貢、小川郁子、中岡美由紀、榎田和子、田中俊夫、小川哲次、鎌田伸之、山田文香.:医療情報学 Vol. 30 (S) 129-132、 2010

B) 総説

C) 著書

- 1) 開業医が診る口腔粘膜疾患 診断から対応まで 症状からみた疾患 色素異常を主症状とする疾患 色素性母斑: 武知正晃、鎌田伸之.: DENTAL DIAMOND 35 巻 10 号 p48 2010 年 7 月 1 日発行 デンタルダイヤモンド社 天笠光雄、草間幹夫、川辺良一編集

- 2) 開業医が診る口腔粘膜疾患 診断から対応まで 症状からみた疾患 色素異常を主症状とする疾患 悪性黒色腫: 小野重弘、鎌田伸之: DENTAL DIAMOND 35 巻 10 号 p49 2010 年 7 月 1 日発行 デンタルダイヤモンド社 天笠光雄、草間幹夫、川辺良一編集
- 3) この疾患 医科で診る? 歯科で診る? 局所麻酔薬アレルギー: 小野重弘, 鎌田伸之: デンタルダイヤモンド社, p122-125
- 4) この疾患 医科で診る? 歯科で診る? オトガイ神経麻痺: 武知正晃, 鎌田伸之: デンタルダイヤモンド社, p118-121

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1) Jaw bone tissue regeneration for reconstruction of ideal jaw form and occlusal function: Takechi M.: 2nd International Workshop on BioDental Education & Research 2010(2010. 2. 11-12. Hiroshima)
- 2) A Snail-induced secretory protein associated with the high-invasiveness in oral squamous cell carcinoma cells. : Tanaka F, Higashikawa K, Ono S, Shigeishi H, Fujimoto S, Kamata N. : 2nd International Workshop on BioDental Education & Research Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences. (2010. 2.11-12 hiroshima)
- 3) Molecular characterization of *GDD1/TMEM16E*, the gene product responsible for autosomal dominant gnathodiaphyseal dysplasia.: Fujimoto S, Shiba T, Hirono C, Mizuta K and Kamata N : biodentist (2010. 2.11-12 hiroshima)
- 4) 骨形成線維腫由来細胞株の網羅的遺伝子発現解析と高発現遺伝子RHAMMの細胞増殖への関与: 波多野寛子, 重石 英生, 鎌田 伸之: 日本組織培養学会(2010.5.20 岡山)
- 5) 口腔粘膜上皮細胞, 歯肉線維芽細胞における Toll-like receptor の発現と機能: 福井 暁子, 太田耕司, 重石英生, 西 裕美, 武知正晃, 鎌田伸之.: 日本組織培養学会 (2010.5.20 岡山)
- 6) 当科におけるインプラント治療のための骨移植についての臨床統計的検討: 太田 彰, 武知正晃, 小野重弘, 奥井 岳, 二宮嘉昭, 波多野寛子, 高本 愛, 鎌田伸之.: 日本口腔外科学会中・四国地方会(2010.5.21-22 徳島)
- 7) Snail が制御する口腔扁平上皮癌細胞における浸潤能を付与する分泌タンパク: 田中 扶美, 東川晃一郎, 奥井 岳, 重石英生, 小野重弘, 鎌田伸之.: 第 43 回広島大学歯学会総会 (2010.6.12)
- 8) ヒト口腔扁平上皮癌における NR4A2 の発現および機能解析: 重石英生, 東川晃一郎, 波多野寛子, 田中扶美, 小野重弘, 鎌田伸之.: 第 64 回日本口腔科学会総会・学術集会 (2010.6.25 札幌)

- 9) 骨形成線維腫由来細胞における RHAMM の機能解析：波多野寛子，重石英生，東川晃一郎，鎌田伸之：第 64 回日本口腔科学会学術総会・学術集会（2010.6.25 札幌）
- 10) 垂直的骨造成に連通多孔体ハイドロキシアパタイト（NEOBONE®）を使用した 1 例：二宮嘉昭，武知正晃，太田耕司，高本 愛，小野重弘，奥井 岳，太田 彰，鎌田伸之：第 64 回日本口腔科学会学術集会・学術総会（2010.6.25 札幌）
- 11) インプラント埋入を目的とする骨造成への連通気孔体ハイドロキシアパタイト（ネオボーン®）ブロックの応用に関する基礎的研究：南 正彦，武知正晃，平岡美里，二宮嘉昭，太田耕司，太田 彰，高本 愛，鎌田伸之：第 64 回日本口腔科学会学術集会・学術総会（2010.6.25 札幌）
- 12) 口腔扁平上皮癌細胞の高度浸潤能獲得における Cyr61 の役割：田中扶美，東川晃一郎，奥井 岳，重石英生，小野重弘，鎌田伸之：第 64 回日本口腔科学会学術集会・学術総会（2010.6.24-25 札幌）
- 13) 顎骨骨幹異形成症原因遺伝子 GDD1/TMEM16E の機能解析：藤本伸一，飛梅 圭，廣野 力，水田邦子，TA TO TRAN，柴 芳樹，鎌田伸之：第 64 回日本口腔科学会学術集会・学術総会（2010.6.24-25 札幌）
- 14) RHAMM Induces Proliferative Activities of Cementifying Fibroma Cells: Hatano H, [Shigeishi H](#), [Kudo Y](#), [Takata T](#), [Kamata N](#).: The 88th General Session of the IADR (2010.7.16 Barcelona)
- 15) PGE2-induced expression of NR4A2 confers anti-apoptotic capability.: Shigeishi H, Higashikawa K, Hatano H, Tobiume K, Kamata N.: The 88th General Session of the IADR (2010.7.16 Barcelona)
- 16) インプラント治療を行った顎顔面外傷症例の臨床的検討：中川貴之，武知正晃，太田耕司，二宮嘉昭，島末 洋，小野重弘，重石英生，水田邦子，南 正彦，奥井 岳，太田 彰，波多野寛子，高本 愛，鎌田伸之：第 12 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会（2010.7.17 広島）
- 17) 顎骨骨幹異形成症原因遺伝子 GDD1/TMEM16E の細胞内および組織内発現についての検討：藤本伸一，飛梅 圭，廣野 力，水田邦子，鎌田伸之：第 28 回日本骨代謝学会（2010.7.23 東京）
- 18) 口腔粘膜上皮細胞，線維芽細胞における Retinoic acid-inducible gene-I(RIG-I)の発現と機能：福井暁子，太田耕司，重石英生，西 裕美，武知正晃，鎌田伸之：第 20 回口腔粘膜学会（2010.8.1 大阪）
- 19) 連通多孔体ハイドロキシアパタイトを用いた上顎洞底挙上術についての臨床的検討：武知正晃，二宮嘉昭，小野重弘，高本 愛，鎌田伸之：第 40 回日本口腔インプラント学会学術大会（2010.9.19 札幌）
- 20) 新規連通多孔体ハイドロキシアパタイト骨補填材を用いたスプリットクレスト法の 1 例：二宮嘉昭，武知正晃，小野重弘，高本 愛，鎌田伸之：第 40 回（社）日本口腔インプラント学会学術大会（2010.9.27 札幌）

- 21) A Snail target gene product Cyr61 regulates the invasiveness of squamous cell carcinoma. : Tanaka F, Higashikawa K, Tobiume K, Ono S, Shigeishi H, Okui G, Kamata N. : 第 69 回日本癌学会・学術総会(2010.9.23 大阪)
- 22) Paracrine PGE2 targets epiregulin-overexpressing squamous cell carcinoma for resistance to anti-5-FU-induced apoptosis : Higashikawa K, Shigeishi H, Tobiume K, Hatano H, Tanaka F, Okui G, Ono S, Kamata N. : 第 69 回日本癌学会・学術総会 (2010.9.23 大阪)
- 23) 異常絞扼反射を呈する上下無歯顎患者に対してインプラントにより咬合再建を行った 1 例 : 小野重弘, 武知正晃, 太田耕司, 奥村俊哉, 奥井 岳, 二宮嘉昭, 高本 愛, 鎌田伸之.: 第 55 回 (社) 日本口腔外科学会総会・学術大会 (2010.10.17 幕張)
- 24) 連通多孔体ハイドロキシアパタイト (NEOBONE) を用いた顎骨造成法の臨床的検討 : 武知正晃, 太田耕司, 二宮嘉昭, 小野重弘, 高本 愛, 重石英生, 奥井 岳, 鎌田伸之.: 第 55 回 (社) 日本口腔外科学会総会・学術大会 (2010.10.17 幕張)
- 25) 口腔扁平上皮癌細胞の高度浸潤能獲得における Cyr61 の役割 : 田中扶美, 東川晃一郎, 奥井 岳, 小野重弘, 重石英生, 鎌田伸之.: 第 55 回(社)日本口腔外科学会総会・学術大会(2010.10.17 幕張)
- 26) 口腔扁平上皮癌の抗癌剤耐性獲得機構における微小環境因子の関与 : 東川晃一郎, 重石英生, 波多野寛子, 田中扶美, 奥井 岳, 小野重弘, 鎌田伸之.: 第 55 回 (社) 日本口腔外科学会総会・学術大会 (2010.10.17 幕張)
- 27) 2010 歯科医師臨床研修プログラムについて—臨床教育と臨床研修医の意識調査について— : 山崎保彦, 本山智得, 森本克廣, 土江健也, 川原正照, 熊谷 宏, 中本雅志, 山崎 徹, 山本智之, 荒谷恭史, 三戸敦史, 久保康治, 瓜生 賢, 島末一則, 光山武文, 中村隆一, 岸民 佑, 妹尾博文, 進藤典久, 田中千賀子, 小川哲次, 柏典子, 本山直世, 神人友樹, 神人大輔, 石倉奈央子, 鎌田伸之.:第 49 回広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会 (2010.10.24 広島)
- 28) 新規分子 PRIP が介するエネルギー代謝調節機構の解明 : 奥村俊哉, 原田佳枝, 鎌田伸之, 兼松 隆.:第 49 回広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会 (2010.10.24 広島)
- 29) ステロイドと経口 BP 製剤により寛解した SAPHO 症候群患者の慢性硬化性下顎骨骨髓炎の一例 : 波多野寛子, 東川晃一郎, 重石英生, 島末 洋, 鎌田伸之.: 第 58 回 NPO 法人日本口腔科学会中国・四国地方部会 (2010.11.6 広島)
- 30) 当科を受診したビスフォスフォネート製剤投与患者の臨床的検討 : 中川貴之, 武知正晃, 東川晃一郎, 太田耕司, 二宮嘉昭, 島末 洋, 小野重弘, 重石英生, 水田邦子, 南 正彦, 奥井 岳, 太田 彰, 波多野寛子, 根岸佳保里, 久保蘭和美, 鎌田伸之.: 第 58 回 NPO 法人日本口腔科学会中国・四国地方部会 (2010.11.6 広島)
- 31) EMT 型口腔癌の高度浸潤能を抑制する p63-Id3 経路の解析 : 奥井 岳, 東川晃一郎, 飛梅 圭, 鎌田伸之.: 第 47 回日本口腔組織培養学会学術大会 (2010.11.13 高

- 知)
- 32) 口腔粘膜上皮細胞, 歯肉線維芽細胞における Retinoic acid-inducible gene-I(RIG-I) の発現と機能: 福井暁子, 太田耕司, 重石英生, 西 裕美, 武知正晃, 鎌田伸之.: 第 47 回日本口腔組織培養学会学術大会 (2010.11.13 高知)
 - 33) 角化嚢胞性歯原性腫瘍摘出後インプラント治療を行った 2 症例: 二宮嘉昭, 武知正晃, 小野重弘, 高本 愛, 鎌田伸之.: 第 30 回 (社) 日本口腔インプラント学会中国・四国支部総会・学術大会 (2010.11.14 島根)
 - 34) インプラント治療を目的とした骨造成手術に対する患者の不安・満足に関するアンケート調査: 高本 愛, 武知正晃, 二宮嘉昭, 小野重弘, 鎌田伸之.: 第 30 回 (社) 日本口腔インプラント学会中国・四国支部総会・学術大会 (2010. 11.14 島根)
 - 35) 導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント: 日浅 恭, 田中武志, 小野重弘, 西 裕美, 荒川 真, 内田雄士, 鍋島 巧, 香川和子, 上田 宏, 海原康孝, 中元 崇, 斎田拓也, 岡田 貢, 小川郁子, 中岡美由紀, 榎田 和子, 田中俊夫, 小川哲次, 鎌田伸之, 山田文香.: 第 30 回医療情報学連合大会 (2010.11.21 浜松)
 - 36) GM 含有 α -TCP/AC の顎骨骨髓炎への応用に関する基礎的研究—基本物性と生体親和性について—: 二宮嘉昭, 武知正晃, 太田耕司, 南 正彦, 多田美里, 太田 彰, 湯浅哲也, 石川邦夫, 鎌田伸之.: 第 32 回日本バイオマテリアル学会大会 (2010.11.30 広島)
 - 37) CaCl_2 水溶液を用いて水熱処理した金属チタンの細菌付着性: 高本 愛, 武知正晃, 太田耕司, 都留寛治, 峯 裕一, 高本祐子, 石川邦夫, 二川浩樹, 鎌田伸之.: 第 32 回日本バイオマテリアル学会大会 (2010.11.30 広島)
 - 38) 連通気孔体ハイドロキシアパタイトブロックを用いた 骨造成に関する基礎的研究: 南 正彦, 武知正晃, 多田美里, 二宮嘉昭, 太田耕司, 福井暁子, 太田 彰, 高本 愛, 鎌田伸之.: 第 32 回日本バイオマテリアル学会大会 (2010. 11.30 広島)
 - 39) 連通多孔体 HA と下顎隆起除去骨でサイナスリフトを行った 1 例: 小野重弘, 武知正晃, 太田耕司, 二宮嘉昭, 高本 愛, 鎌田伸之.: 第 14 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会 (2010.12.5 千葉)

F) 講演会, 特別講演など

- 1) 佐々木 朗 (岡山大学教授) 口腔癌について (2010.1.21) 広島大学特別講義
- 2) 里村一人 (鶴見大学歯学部 口腔外科学第二 (口腔内科学) 講座教授) 再生医療の進歩と歯科における今後の展開 (2010.4.24) 広島大学歯学部第二口腔外科交友会特別講演
- 3) 辻 孝憲 (Harvard Medical School) 口腔粘膜より同定した癌抑制遺伝子 Doc-1 (Deleted in Oral Cancer) と ornithine decarboxylase antizyme について

(2010.9.27) 広島大学特別講義

- 4) 越智光夫 (広島大学病院 病院長, 広島大学大学院整形外科学教授) 運動器の再生医療—基礎と臨床— (2010.7.17) 第12回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会 特別講演
- 5) 山口 朗 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔病理学分野教授) オステオネットワークの維持と破綻: 顎顔面骨疾患の病態解明を目指して (2010.11.6) 第58回NPO法人日本口腔科学会中国・四国地方部会 教育講演
- 6) 岩本 修 (久留米大学医学部歯科口腔医療センター) 骨代謝マーカーを指標とするBP製剤関連顎骨壊死の発症リスク評価の試み—特に尿中CTX値は抜歯可否判定に有用か? (2010.11.6) 第58回NPO法人日本口腔科学会中国・四国地方部会 ミニレクチャー
- 7) 依田哲也 (埼玉医科大学教授) 顎関節症について (2010.11.25) 広島大学特別講義
- 8) 鎌田伸之 歯原性腫瘍 (2010.6.14) 岡山大学特別講義
- 9) 鎌田伸之 歯原性腫瘍 (2010.10.19) 長崎大学大学院セミナー
- 10) 鎌田伸之 歯原性腫瘍と疾患遺伝子 (2010.11.12) 大阪大学特別講義

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金 (基盤研究 (A) 一般) 新規: 鎌田伸之, EMTによる口腔癌高度悪性化機構の解明と制御. 課題番号 22249066.
- 2: 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 新規: 平岡美里, 多孔質セラミックスにおける骨芽細胞の骨形成分子メカニズムの解析. 課題番号 40572326.
- 3: 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 新規: 二宮嘉昭, 薬物徐放制御能を有する高機能性生体材料の開発. 課題番号 22592216.
- 4: 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 継続: 東川晃一郎, 口腔癌の浸潤・転移を制御する上皮整合性機構の解明. 課題番号 21592526.
- 5: 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 継続: 島末 洋, 口腔癌の浸潤・転移における上皮・間葉移行と細胞運動制御機構の解析. 課題番号 21592554.
- 6: 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 継続: 武知正晃, 薬物徐放制御能を有する高機能性骨置換型アパタイトセメントの開発. 課題番号 21792000.
- 7: 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 継続: 太田耕司, カンジダ症で口腔粘膜細胞より誘導される特異的蛋白の同定とその意義. 課題番号 20791522.
- 8: 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 継続: 小野重弘, 上皮・間葉移行を介した扁平上皮癌の高度浸潤能獲得におけるマイクロRNAの関与. 課題番号 21791999.
- 9: 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 継続: 重石英生, ヒト唾液腺腫瘍におけるTPX2遺伝子の発現および解析. 課題番号 21791998.
- 10: 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 継続: 西 裕美, 難治性口腔粘膜疾患発生に関する

る粘膜上皮・真皮における免疫応答の細胞生物学的研究. 課題番号 20791518.

11 : 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 継続 : 水田邦子, 顎骨骨幹異形成症 (GDD) の原因遺伝子GDD1の機能解析. 課題番号 20791517.

12 : 科学研究費補助金 (特別奨励) 新規 : 波多野寛子, 口腔癌の浸潤能獲得に関わる因子の分子機構の解明と診断・治療への応用. 課題番号22・6035

(5) 学会賞等の受賞状況

- 1) 波多野寛子 第64回日本口腔科学会・学術集会 日本口腔科学会学会賞優秀発表賞
- 2) 田中扶美 2nd International Workshop on BioDental Education & Research Poster Award
- 3) 田中扶美 第55回(社)日本口腔外科学会総会・学術大会 優秀口演賞

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（先端歯科補綴学研究室）

及び口腔維持修復歯科（口腔インプラント診療科）

（１）職員並びに学生

- 教授 : 赤川安正
 准教授 : 津賀一弘, 久保隆靖（診療）
 講師 : 阿部泰彦, 田地 豪（学内）, 日浅 恭（診療）
 助教 : 是竹克紀, 吉川峰加, 林 和彦, 宮本泰成
 事務補佐員 : 来実倫子
 医員 : 竹内真帆, 松浦 歩, 森田晃司, 丸山真理子, 藤野慎恵
 大学院生 : 竹下 亮, 大上博史, 岡崎洋平, 土岡寛和, 大倉和久, Maretaningtias Dwi Ariani,
 岡田伸輔, 梶原志穂

（２）主な研究活動

- 1: インプラントの新素材の開発と臨床応用
- 2: 間葉系幹細胞を用いたハイブリッド人工骨の開発
- 3: FGF がインプラント周囲骨の骨形成能に及ぼす影響
- 4: インプラント支持補綴物および義歯の生体力学解析
- 5: 歯科補綴治療が口腔機能, 全身状態および QOL に及ぼす影響
- 6: 高齢者の義歯と嚥下機能
- 7: 舌機能評価を応用した摂食嚥下リハビリテーションの確立

（３）研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

1. A proposed index for residual periodontal ligament support : Abe Y., Taji T, Hiasa K., Tsuga K. and Akagawa Y.: Int J Prosthodont, 23, 472-474, 2010.
2. Degree of immobilization of synthetic RGDS(PO3H2)PA peptides on titanium surfaces : Abe Y., Okazaki Y., Hiasa K., Hirata I., Yoshida Y., Taji T., Suzuki K. Okazaki M. and Akagawa Y.: Dental

- Materials Journal, 29, in press, 2010.
3. Comparison of three types of tongue pressure measurement devices : Yoshikawa M., Yoshida M., Tsuga K., Akagawa Y. and Groher M. E.: Dysphagia (E pub ahead of print), 2010.
 4. Comparative evaluation of bone regeneration using spherical and irregularly shaped granules of interconnected porous hydroxyapatite. A beagle dog study : Kubo T., Doi K., Hayashi K., Morita K., Matsuura A., Teixeira R.E. and Akagawa Y.: J Prosthodont Res (in press) , 2010.
 5. Enhanced initial bone regeneration with inorganic polyphosphate-adsorbed hydroxyapatite : Morita K., Doi K., Kubo T., Takeshita R., Kato S., Shiba T. and Akagawa Y.: Acta Biomater 6:2808-2815, 2010.
 6. 初期超親水性ビニルシリコーン印象材「Panasil® initial contact (パナジルイニシャルコンタクト)」について : 阿部泰彦 : 日本歯科評論, 810 : 87-91, 2010.
 7. Residual periodontal ligament index (RPLI)を用いた残存歯咬合支持能力の数値化 : 阿部泰彦, 田地 豪, 日浅 恭, 岡崎洋平, 石田秀幸, 櫻井裕也, 津賀一弘, 赤川安正 : 広大歯誌, 42 : 1-8, 2010.
 8. インターナルジョイント型インプラントを用いた短期臨床予後 : 日浅 恭, 阿部泰彦, 田地 豪, 林 和彦, 宮本泰成, 岡崎洋平, 櫻井裕也, 久保隆靖, 津賀一弘, 赤川安正 : 広大歯誌, 42 : 9-15, 2010.
 9. 導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント : 日浅恭, 田中武志, 小野重弘, 西裕美, 河村誠, 荒川真, 内田雄士, 鍋島巧, 香川和子, 上田宏, 海原康孝, 中元崇, 齊田拓也, 岡田貢, 安原幸美, 小川郁子, 中岡美由紀, 槇田和子, 田中俊生, 小川哲次, 鎌田伸之, 山田文香 : 医療情報学 Vol. 30 Supplement, 129-132, 2010
 10. 摂食・嚥下障害ならびに構音障害に対する口腔内補助装置の適用に関するデータベースの構築 : 佐々木啓一, 小野高裕, 中島純子, 高橋裕, 田中貴信, 鈴木哲也, 谷口尚, 小正裕, 岡崎定司, 津賀一弘, 吉川峰加, 西恭宏, 飯沼利光, 川良美佐雄, 皆木省吾 : 日本歯科医学会誌 29, 72-76, 2010.

B) 総説

- 1: 初期超親水性ビニルシリコーン印象材「Panasil® initial contact (パナジルイニシャルコンタクト)」について : 阿部泰彦 : 日本歯科評論, 810 : 87-91, 2010.
- 2: 1本あるいは2本のインプラントに支持される下顎オーバーデンチャーの即時荷重に関する前向き無作為化研究:12 ヶ月の追跡報告(訳) : 大上博史, 是竹克紀, 赤川安正 : クインテッセンス・デンタル・インプラントロジー, No4, 2010

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1: Examination for Eating and Swallowing : Yoshikawa M. : The Second International Workshop on Biodental Education and Research (Hiroshima), 2010.
- 2: Body weight and serum albumin change after prosthodontic treatment among institutionalized elderly in a long-term care geriatric hospital : Kanehisa Y., Yoshida M., Taji T., Akagawa Y. and Nakamura H. : The first Workshop for Bio-dental education and research (Hiroshima), 2010
- 3: Influence of occlusal vertical dimension on swallowing dunction in young healthy people : Yoshikawa M., Nagasaki T., Yoshida M., Tanimoto K., Tsuga K. and Akagawa Y. : The 18th Annual Meeting of Dysphagia Research Society (San Diego), 2010.
- 4: Tongue capacity is decreased in frail elderly persons : Tsuga K., Ooue H., Okazaki Y., Tsuchioka H., Maruyama M., Yoshikawa M., Akagawa Y. : The 88th General Session & Exhibition of the IADR (Barcelona), 2010.
- 5: A quantitative candy sucking test aimed at dementia elderly population : Tsuchioka H., Maruyama M., Yoshikawa M., Tsuga K., and Akagawa Y. : The 88th General Session & Exhibition of the IADR (Barcelona), 2010.
- 6: Effects of tongue exercise on stroke patients : Yoshikawa M., Yasuhara Y., Nagasaki T., Tanimoto K., Tsuga K. and Akagawa Y. : The 88th General Session & Exhibition of the IADR (Barcelona), 2010.
- 7: Application of newly developed interconnected porous hydroxyapatite for implant GBR : Doi K., Kubo T., Hiasa K., Koretake K., Hayashi K. and Akagawa Y. : The 88th General Session & Exhibition of the IADR (Barcelona), 2010.
- 8: A fabrication of newly developed carbonate apatite-chitosan composite as a bone substitute : Maretaningtias D. A., Matsuura A., Hirata I., Doi K., Kubo T., Okazaki M. and Akagawa Y. : Summer Seminar of the Japanese Society for Dental Materials and Devices (Matsuyama), 2010.
- 9: Cell proliferative ability of newly developed carbonate apatite-collagen sponges with some cytokines : Matsuura A., Hirata I., Morita K., Doi K., Hayashi K., Koretake K., Kubo T., Okazaki M. and Akagawa Y. : 6th Meeting of Asian Academy of Osseointegration (Seoul), 2010.
- 10: New development of interconnected porous calcium hydroxyapatite/implant complex : Oue H., Doi K., Koretake K., Hayashi K., Matsuura A., Morita K., Okazaki Y., Kubo T., Akagawa Y. : 6th Meeting of Asian Academy of Osseointegration (Seoul), 2010.
- 11: Fabrication and cell compatibility evaluation of newly developed carbonate apatite-chitosan scaffold for bone tissue engineering : Maretaningtias D. A., Matsuura A., Hirata I., Doi K., Hayashi K., Morita K., Kubo T., Okazaki M., Akagawa Y. : 6th Meeting of Asian Academy of Osseointegration (Seoul), 2010.

- 12: Development of new bone graft material using carbonate apatite-chitosan composit : Maretaningtias D. A., Matsuura A., Hirata I., Doi K., Hayashi K., Morita K., Kubo T, Okazaki M, Akagawa Y. : The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for Biomaterials (Hiroshima), 2010.
- 13: 新規サイトカイン添加型炭酸アパタイト・コラーゲン人工骨の細胞増殖能: 松浦 歩, Maretaningtias Dwi Ariani, 平田伊佐雄, 土井一矢, 林 和彦, 是竹 克紀, 久保隆靖, 岡崎正之, 赤川安正: 第 55 回日本歯科理工学会学術講演会 (東京), 2010.
- 14: 飴を舐める機能の定量評価: 土岡寛和, 丸山真理子, 吉川峰加, 津賀一弘, 赤川安正: 第 44 回日本顎口腔機能学会学術大会 (広島), 2010.
- 15: 舌接触補助床の装着と摂食・嚥下訓練の実施が楽しみレベルの経口摂取に繋がった一症例: 板木咲子, 富廣洋平, 嶋田利恵, 河原栄子, 富來博子, 山根次美, 金久弥生, 吉川峰加, 田地豪, 久保隆靖: 第 18 回広島口腔ケア研究会 (広島), 2010.
- 16: Residual Periodontal Ligament Index の考案: 阿部泰彦, 田地豪, 日浅恭, 岡崎洋平, 津賀一弘, 赤川安正: 第 119 回日本補綴歯科学会学術大会 (東京), 2010.
- 17: 簡易型舌圧測定装置を用いた新しい口腔周囲筋機能評価法の開発: 丸山真理子, 岡田源太郎, 吉川峰加, 吉田光由, 津賀一弘, 赤川安正: 第 119 回日本補綴歯科学会学術大会 (東京), 2010.
- 18: 広島大学歯学部における新しい臨床実習への取り組みー形成的評価を重視した OSCE の導入ー: 田地 豪, 藤井理史, 藤田 剛, 神田 拓, 海原康孝, 長崎信一, 岡田 貢, 小川郁子, 内田 隆, 栗原英見: 第 29 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (盛岡), 2010.
- 19: 広島大学病院歯科医師臨床研修におけるプログラム評価: 西 裕美, 大林泰二, 田中良治, 小原 勝, 田口則宏, 白井憲一, 長谷川直彦, 田地 豪, 貞森紳丞, 小泉浩一, 島末 洋, 清水康隆, 林 文子, 河村 誠, 岡田 貢, 入船正浩, 小川哲次: 第 29 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (盛岡), 2010.
- 20: 被写体 4 面観撮影用鏡装置の開発: 岡崎洋平, 田地 豪, 津賀一弘, 久保隆靖, 阿部泰彦, 日浅 恭, 志渡澤正治, 小田正秀, 西端英典, 赤川安正: 平成 22 年度日本歯科補綴学会中国・四国支部学術大会 (高松), 2010.
- 21: 飴を舐める機能の定量評価法の開発: 土岡寛和, 丸山真理子, 吉川峰加, 津賀一弘, 赤川安正: 第 16 回日本接触嚥下リハビリテーション学会学術大会 (新潟), 2010.
- 22: 舌接触補助床 (PAP) の使用と簡易型舌圧測定装置をもちいたリハビリテーションにより経口摂取を維持している一例: 山根次美, 嶋田利恵, 吉川峰加, 吉田光由: 第 16 回日本接触嚥下リハビリテーション学会学術大会 (新潟), 2010.
- 23: 実験的に露出させたインプラント周囲の GBR に対するポリリン酸吸着人工骨の効果: 竹下亮, 土井一矢, 久保隆靖, 森田晃司, 赤川安正: 第 40 回日本口腔インプラント学会学術大会 (札幌), 2010.
- 24: 新しい残存歯咬合支持能力指数の開発ーブリッジの支台歯選択への応用ー: 野上敬介, 阿部泰彦, 水町 亘, 田地 豪, 日浅 恭, 岡崎洋平, 石田秀幸, 津賀一弘, 赤川安正:

- 第 49 回広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会（広島），2010.
- 25: Visual SLAM を用いたラボの作業シミュレーション：千葉真也，村山 長，立島一樹，玉本光弘，江口 透，笹原妃佐子，河原和子，田地 豪，二川浩樹：第 49 回広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会（広島），2010.
- 26: 「JMS 舌圧測定器」開発の背景と将来展望：津賀一弘：日本顎口腔機能学会第 45 回学術大会（川越），2010.
- 27: 健常高齢者の飴を舐める機能の定量評価：土岡寛和，岡田信輔，梶原志穂，西村瑠美，山下 薫，丸山真理子，岡田源太郎，森川英彦，林 亮，原 久美子，吉川峰加，吉田光由，津賀一弘，赤川安正：日本顎口腔機能学会第 45 回学術大会（川越），2010.
- 28: インターナルジョイント型インプラントを用いた臨床予後：林 和彦，日浅 恭，阿部泰彦，久保隆靖，赤川安正：第 30 回日本口腔インプラント学会中国・四国支部総会学術大会（松江），2010.
- 29: 咬むことの大切さとインプラントの役割-インプラントってどんなもの-：久保隆靖：第 30 回日本口腔インプラント学会中国・四国支部総会学術大会市民公開講座（松江），2010.
- 30: シンポジウム「歯科情報システムの部門間・施設間・世代間連携を考える」導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント：日浅 恭，田中武志，小野重弘，西裕美，河村誠，荒川真，内田雄士，鍋島巧，香川和子，上田宏，海原康孝，中元崇，齊田拓也，岡田貢，安原幸美，小川郁子，中岡美由紀，槇田和子，田中俊生，小川哲次，鎌田伸之，山田文香：第 30 回医療情報学連合大会（浜松），2010.
- 31: 連通多孔性ハイドロキシアパタイト・インプラント複合体の新規開発の試み：大上博史，土井一矢，是竹克紀，林和彦，松浦歩，森田晃司，岡崎洋平，久保隆靖，赤川安正：第 32 回日本バイオマテリアル学会大会（広島），2010.

E) 講演等

- 1: 局部床義歯補綴の価値：赤川安正：日本歯科大学生命科学部（東京），2010.
- 2: 義歯補綴の価値：赤川安正：徳島大学歯学部（徳島），2010.
- 3: 高齢者の健康と補綴治療－新たな視点－：赤川安正：北海道大学大学院歯学研究科（札幌），2010.
- 4: 食べるための咀嚼嚥下機能検査～ビデオ嚥下造影法を中心に～：吉川峰加：口腔 QOL 連続シンポジウム（徳島），2010.
- 5: インプラントのメンテナンス：日浅 恭：リカレント研究会（広島），2010.
- 6: よい義歯治療のポイント：赤川安正：佐世保臨床歯科研究会セミナー（佐世保），2010.
- 7: 抜歯窩治癒不全への対応：日浅 恭：第 4 回 ITI Study Club 広島（広島）
- 8: オッセオインテグレーション新時代：赤川安正：JMM COLLOQUIUM IN 2010（横浜），2010.
- 9: 義歯補綴と健康長寿：赤川安正：九州大学歯学部（福岡），2010.
- 10: 舌の動きと食事の関連について：吉川峰加：広島県栄養士会平成 22 年度第一回病院協議会

研修会（広島），2010.

- 11: 補綴歯科領域での感染予防・防塵対策：津賀一弘：独立行政法人国際協力機構（JICA）（福岡），2010.
- 12: 高齢者の口腔機能リハビリテーション：津賀一弘：独立行政法人国際協力機構（JICA）（福岡），2010.
- 13: 知って得する！ 噛んで長生き健康長寿：赤川安正：江田島公民館成人講座（江田島），2010.
- 14: 信頼されるインプラント治療を始めるために—いま何を学ぶべきか—：赤川安正：長野県歯科医師会（長野），2010.
- 15: しっかり噛んで長生き・その秘訣とは？：赤川安正：広島大学公開講座（鳥取），2010.
- 16: 「考えよう！食と健康」口から食べる喜びをめざして：吉川峰加：広島大学・県立広島大学連携シンポジウム（広島），2010.
- 17: 局部床義歯補綴の価値：赤川安正：日本歯科大学生命科学部（東京），2010.

（4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金（基盤研究（B））：赤川安正：bFGF・ポリリン酸重層結合型インテリジェント機能性人工骨の新開発。（課題番号 2139051）. 5,100 千円
- 2: 科学研究費補助金（基盤研究（C））：津賀一弘：補綴治療の抗加齢作用を増強する機能レーザーチャートの開発。（課題番号 20592269）. 8,000 千円
- 3: 科学研究費補助金（基盤研究（C））：阿部泰彦：組織適合型チタンインプラントの開発を目指した高次生体機能性ナノ表面改質。（課題番号 21592452）. 1,100 千円
- 4: 科学研究費補助金（基盤研究（C））：田地 豪：部分床義歯デザインプロセスのための咬合支持能力指数の開発。（課題番号 20592270）. 900 千円
- 5: 科学研究費補助金（基盤研究（C））：日浅 恭：高度インプラント診断治療統合システムのためのマルチフィジックスシミュレータの開発。（課題番号 20592299）. 500 千円
- 6: 科学研究費補助金（若手研究（B））：是竹克紀：インプラント追加埋入のための骨モデリングを応用する新しい骨質改善法。（課題番号 19791443）. 1,500 千円
- 7: 科学研究費補助金（若手研究（B））：吉川峰加：嚥下機能低下に対する口腔容積マネジメント。（課題番号 21791900）. 900 千円
- 8: 科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））：林 和彦：rh-BMP・インテリジェントゲル複合体を用いるインプラント用骨増生法の開発。（課題番号 22791886）. 1,100 千円
- 9: 科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））：松浦 歩：サイトカイン添加型バイオミメティック人工骨による骨再生促進効果。（課題番号 21890159）. 950 千円
- 10: 科学研究費補助金（若手研究（スタートアップ））：森田晃司：bFGFを用いたポリリン酸結合型人工骨による骨形成促進の解明。（課題番号 21890160）. 950 千円
- 11: 厚生労働省科学研究費補助金（平成 22 年度交付決定課題）：赤川安正：歯科医療における

情報提供の在り方に関する研究（課題番号 KOSE227901）. 2,200 千円

12: 科学研究費補助金（基盤研究（A））: 赤川安正: 短縮歯列への補綴介入に関するマルチセンター・リサーチ.（課題番号 2024907701）. 5,500 千円

13: 科学研究費補助金（基盤研究（C））: 吉川峰加: 脳磁図と拡散MR I.（課題番号 20592202）. 40 千円

(5)学会賞等の受賞状況

- 1: 日本補綴学歯科会学会論文賞：赤川安正
- 2: 第55回日本歯科理工学会学術講演会歯科理工学会論文賞：松浦 歩
- 3: 特定非営利活動法人日本咀嚼学会第20回記念大会優秀ポスター賞：丸山真理子

(6)特許

[目次へ戻る](#)

展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（先端歯科補綴学研究室）及び口腔維持修復歯科（咬合・義歯診療科）

（１）職員並びに学生

教授	: 赤川安正
准教授	: 貞森紳丞, 安部倉 仁 (診療准教授)
助教	: 井上俊二, 香川和子, 土井一矢
事務補佐員	: 宮川路子
医員	: 林 昭志 (3月まで), 藤原 勲, 前田武志, 水町 亘
研修医	: 前田武志 (3月まで), 水町 亘 (3月まで), 野上敬介
大学院生	: 林 昭志 (3月まで), 鎌田浩一, 柄 博紀, 坪井将洋, 堀 智治, 大倉知久 山本貴慧 (7月まで), 野上敬介
研修登録医	: 山本貴慧

（２）主な研究活動

- 1 : 口腔組織から細胞表面抗原を用いた骨前駆細胞の探索
- 2 : 高齢者（認知症）における補綴治療と全身状態との関連
- 3 : 唾液中クロモグラニンを指標とした精神的ストレス量と口腔習癖に関する研究
- 4 : 歯科材料への混入を目的とした二酸化塩素成分の抗菌性の研究
- 5 : 間葉系幹細胞の骨分化に関わる分子生物学的解析
- 6 : 精神障害と歯科診療

（３）研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

- 1 : Comparison of their recognition about the denture cleansers among Japanese, Chinese, and Indonesian dentists: Hong G., Li Y.A., Lian Y.M., Sadamori S., Hamada T., Murata H.: Int Chi J Dent, 10, 29-34, 2010.
- 2 : Effect of PMMA polymer on the dynamic viscoelasticity and plasticizer leachability of PEMA-based tissue conditioners: Hong G., Maeda T., Li Y.A., Sadamori S., Hamada T., Murata H.: Dent Mater J, 29(4), 374-380, 2010.

- 3 : A questionnaire survey of dental students in Japan, China, and Indonesia about denture cleansers: Hong G., Li Y.A., Lian Y.M., Sadamori S., Hamada T., Murata H.: *Int Chin J Dent*, 10, 51-56, 2010.
- 4 : Effect of high-dose major components in oral disinfectants on the cell cycle and apoptosis in primary human gingival fibroblasts in vitro: Nomura Y., Bhawal UK., Nishikiori R., Sawagiri M., Maeda T., Okazaki M.: *Dental Mater J*, 29(1), 75-83, 2010.

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1 : 試作アルコールフリー粘膜調整材の動的粘弾性、吸水率および溶解率に関する基礎的研究: 柄 博紀, 洪 光, 前田武志, 野村雄二, 岡崎正之, 濱田泰三, 貞森紳丞, 赤川安正: 第二回日本義歯ケア学会学術大会 (東京), 2010.
- 2 : 試作粘膜調整材の組成成分が吸水率および溶解率に及ぼす影響: 柄 博紀, 洪 光, 前田武志, 野村雄二, 岡崎正之, 濱田泰三, 貞森紳丞, 赤川安正: 第 55 回日本歯科理工学会学術講演会 (東京), 2010.
- 3 : 認知症高齢者の義歯装着と栄養状態および身体・精神状態との関連: 貞森紳丞, 林 昭志, 藤原 勲, 安部倉仁, 赤川安正: 日本老年歯科医学会 第 21 回学術大会(新潟), 2010.
- 4 : グループホーム入所認知症高齢者の約 6 年の追跡調査の 1 例—口腔内状態, 精神状態と日常生活動作能力の変化—: 古胡真佐美, 貞森紳丞, 林 昭志, 笹原妃佐子, 住田恵里子, 濱田泰三: 第 27 回日本障害者歯科学会総会および学術大会 (東京), 2010.
- 5 : 認知症高齢者の ADL, 認知機能の低下と口腔内状態との関連: 藤原勲, 貞森紳丞, 安部倉仁, 濱田泰三, 赤川安正: 日本補綴歯科学会, 中国四国支部学術大会 (高松), 2010.
- 6 : 認知症高齢者の ADL および認知機能の低下と義歯装着状況, 口腔 ADL との関連: 藤原勲, 貞森紳丞, 林昭志, 古胡真佐美: 日本認知症ケア学会中国地域大会 (米子), 2010.
- 7 : 義歯洗浄剤成分としての二酸化塩素の殺菌効果の検討 (ポスター発表): 堀智治, 前田武志, 野村雄二, 貞森紳丞, 岡崎正之, 赤川安正: 第 56 回日本歯科理工学会 (岐阜), 2010.
- 8 : 口腔組織からの骨前駆細胞の分取: 細胞表面抗原による解析: 鎌田浩一, 藤本勝己, 西村正宏, 貞森紳丞, 赤川安正, 加藤幸夫: 第 51 回日本生化学会, 中国・四国支部例会 (山口), 2010.
- 9 : 実験的負荷に対するストレス反応タイプと口腔習癖の関係: 坪井将洋, 安部倉仁, 大倉知久,

貞森紳丞，赤川安正：日本補綴歯科学会第 119 回学術大会（東京），2010.

10：唾液中クロモグラニン A および質問紙法を指標とした精神的ストレスと口腔習癖との関連：

坪井将洋，安部倉仁，大倉知久，貞森紳丞，赤川安正：第 45 回日本顎口腔機能学会学術大会（川越），2010.

F) 講演発表

1：歯と口の健康（ブラキシズム）：安部倉 仁：広島県歯科衛生連絡協議会平成 21 年度 8020 運動推進事業 歯・口と心の健康づくり推進事業研修会（広島），2010.1 月 14 日

2：顎関節症について考える：安部倉 仁：広島県歯科衛生連絡協議会 平成 22 年度 8020 運動推進事業 顎関節症予防研修会（広島），2010. 8 月 19 日

（4）科学研究費補助金等の受領状況

1：科学研究費補助金（基盤研究（C）一般）継続：安部倉 仁，唾液中クロモグラニンを指標とした精神的ストレス量と口腔習癖の関連性．課題番号 19592242. 1,560 千円（3 月まで）

2：科学研究費補助金（基盤研究（C）一般）新規：安部倉 仁，口腔習癖と精神的ストレスの関連性における生活習慣リズムの関与．課題番号 22592152. 2,340 千円

3：若手研究 B：前田 武志，安定化二酸化塩素配合試作粘膜調整材の評価に関する研究．課題番号 22791888. 2,730 千円

（5）学会賞等の受賞状況

（6）特許

[目次へ戻る](#)

展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座・歯科矯正学研究室 及び口腔健康発育歯科（矯正歯科）

（１）職員並びに学生

教 授	丹根 一夫
准 教 授	河田 俊嗣
講 師	上田 宏, 谷本 幸太郎
助教（大学院）	加来 真人, 藤田 正, 大谷 淳二, 丹根 由起
助教（病院）	本川 雅英, 高 明善
医員（研修医）	大熊 暁, 佐野 良太, 白倉 麻耶, 高橋 拓史, 岩渕 泰憲, 國松 亮, 渡辺 元気
大学院生	伊藤 剛志, 尾崎 徳継, 川添 亜希, 小跡 弘幸, 砂川絃子, 笹本 智子, 廣瀬 尚人, 黄 郁苓, 堀畑 篤史, 道田 将彦, 吉岡 基子, 林 英貴, 松田 弥生, 光吉 智美, 石川 絵海, 村崎 恭子, Sara Abedini, 小島 俊逸, 鷺見 圭輔, 椿本 昇子, 寺尾 明子, 吉見 友希, 柄 優至, 蘇 少卿, 角 明美, 高橋 可織, 増永 守雄（社会人）
研修医	堀江 佳代
留学生	Emanuel Braga Rego, Rene Arturo Marquez Hernandez,
非常勤講師	植木 和弘, 小島 敏嗣, 柄 博治, 花岡 宏, 飯田 順一郎（北大歯教授）
研修登録医	田中 邦昭, 板谷 和徳, 釜田 寛子, 長谷川 拓郎, 山野 栄三, 末川 洋平, 山本 浄子, 柄 なつみ,
歯科衛生士	矢野 加奈子

（２）主な研究活動

1. 顎関節円板の粘弾性特性
2. 顎関節軟骨および円板細胞の増殖・分化に対する成長因子の影響
3. 顎関節負荷の生体力学的検索と潤滑機能の評価
4. 実験的歯の移動時の疼痛伝達機構およびその鎮痛機構の解明
5. 外科的矯正治療による顎口腔機能の変化
6. 鼻気道障害と顎顔面形態, 咀嚼筋機能, 呼吸機能との関連
7. 軟骨増殖および分化に対する機械的刺激の影響
8. 歯根膜の再生と修復機序の解明

9. 関節滑液中のヒアルロン酸代謝に関する研究
10. 食物性状の違いが脳皮質の神経病理変化に及ぼす影響
11. 間葉系幹細胞による軟骨・骨再生医療の開発研究
12. 骨の成長発育に対する性ホルモンの制御機能
13. 組織、細胞の長期凍結保存法の検討

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

1. Effects of mechanical load on the expression and activity of hyaluronidase in cultured synovial membrane cells.: Kitamura R., Tanimoto K., Tanne Y., Kamiya T., Huang YC., Tanaka N., Tanaka E., Tanne K.: J Biomed Mater Res A, 92, 87-93, 2010.
2. Effects of mechanical stimuli on the synthesis of superficial zone protein in chondrocytes.: Kamiya T., Tanimoto K., Tanne Y., Lin YY., Kunimatsu R., Yoshioka M., Tanaka N., Tanaka E., Tanne K.: J Biomed Mater Res A, 92, 801-805, 2010.
3. Modulation of hyaluronan catabolism in chondrocytes by mechanical stimuli.: Tanimoto K., Kitamura R., Tanne Y., Kamiya T., Kunimatsu R., Yoshioka M., Tanaka N., Tanaka E., Tanne K.: J Biomed Mater Res A, 93, 373-380, 2010.
4. Overeruption of periodontally affected unopposed molars in adult rats.: Fujita T., Montet X., Tanne K., Kiliaridis S.: J Periodontal Res, 45, 271-276, 2010.
5. Modulation of hyaluronan fragmentation by interleukin-1 beta in synovial membrane cells.: Tanimoto K., Yanagida T., Tanne Y., Kamiya T., Huang YC., Mitsuyoshi T., Tanaka N., Tanaka E., Tanne K.: Ann Biomed Eng, 38, 1618-1625, 2010.
6. Orthodontic treatment with tooth transplantation for patients with cleft lip and palate.: Tanimoto K., Yanagida T., Tanne K.: Cleft Palate Craniofac J, 47, 499-506, 2010.
7. Activation of the hypoxia-inducible factor-1 in overloaded temporomandibular joint, and induction of osteoclastogenesis.: Shirakura M., Tanimoto K., Eguchi H., Miyauchi M., Nakamura H., Hiyama K., Tanimoto K., Tanaka E., Takata T., Tanne K.: Biochem Biophys Res Commun. 393, 800-805, 2010.
8. Expression of Sox 9 and type II and X collagens in regenerated condyle.: Fujita T., Nakano M., Ohtani J., Kawata T., Kaku M., Motokawa M., Tsuka N., Hayashi H., Tanne K.: Eur J Orthod.: 32, 667-680, 2010.

9. Inhibitory effects of orally administrated liposomal bovine lactoferrin on the LPS-induced osteoclastogenesis.: Yamano E., Miyauchi M., Furusyo H., Kawazoe A., Ishikado A., Makino T., Tanne K., Tanaka E., Takata T.: *Lab Invest.*: 90, 1236-1246, 2010.
10. Ultrasound stimulation induces PGE(2) synthesis promoting cementoblastic differentiation through EP2/EP4 receptor pathway.: Rego EB., Inubushi T., Kawazoe A., Tanimoto K., Miyauchi M., Tanaka E., Takata T., Tanne K.: *Ultrasound Med Biol*, 36, 907-915, 2010.
11. Cryopreservation of periodontal ligament cells with magnetic field for tooth banking.: Kaku M, Kamada H, Kawata T, Koseki H, Abedini S, Kojima S, Motokawa M, Fujita T, Ohtani J, Tsuka N, Matsuda Y, Sunagawa H, Hernandez RA, Ohwada N, Tanne K.: *Cryobiology.*: 61, 73-78, 2010.
12. Applying an excessive mechanical stress alters the effect of subchondral osteoblasts on chondrocytes in a co-culture system.: Lin YY., Tanaka N., Ohkuma S., Iwabuchi Y., Tanne Y., Kamiya T., Kunimatsu R., Huang YC., Yoshioka M., Mitsuyoshi T., Tanimoto K., Tanaka E., Tanne K.: *Eur J Oral Sci*, 118, 151-158, 2010.
13. 1{alpha},25(OH)2D3 acts predominantly on mature osteoblastic cells under conditions of high extracellular phosphate to increase FGF23 production in vitro.: Yamamoto R., Minamizaki T., Yoshiko Y., Yoshioka H., Tanne K., Aubin JE., Maeda N.: *J Endocrinol*, 206, 279-286, 2010.
14. Adaptation of rat jaw muscle fibers in postnatal development with a different food consistency: an immunohistochemical and electromyographic study.: Kawai N., Sano R., Korfage JA., Nakamura S., Kinouchi N., Kawakami E., Tanne K., Langenbach GE., Tanaka E.: *J Anat.*, 216, 717-723, 2010.
15. A subset of osteoblasts expressing high endogenous levels of PPARgamma switches fate to adipocytes in the rat calvaria cell culture model.: Yoshiko Y, Oizumi K, Hasegawa T, Minamizaki T, Tanne K, Maeda N, Aubin JE.: *PLoS One*, 26, 11782, 2010.
16. Effects of human full-length amelogenin on the proliferation of human mesenchymal stem cells derived from bone marrow.: Huang YC, Tanimoto K, Tanne Y, Kamiya T, Kunimatsu R, Michida M, Yoshioka M, Yoshimi Y, Kato Y, Tanne K.: *Cell Tissue Res*, 342, 205-212, 2010.
17. Jaw muscle exercises affect occlusal function after oral appliances wear in obstructive sleep apnea patients.: Ueda H., Almeida F., Chen H., Lowe A.: *Best of Sleep Medicine*, 69-71, 2010.
18. IL-1beta in the trigeminal subnucleus caudalis contributes to extra-territorial allodynia/hyperalgesia following a trigeminal nerve injury.: Takahashi K, Watanabe M, Suekawa Y, Ito G, Inubushi T, Hirose N, Murasaki K, Hiyama S, Uchida T, Tanne K.: *Eur J Pain*, 17, [Epub ahead of print](#), 2010.
19. 外科的矯正治療後の歯列安定性に関する一考察: 藤田 正, 大谷淳二, 上田 宏, 河田俊嗣, 丹根一夫: *広島歯科医学雑誌*, 37, 55-60, 2010.

20. 顎変形症患者における脊椎側彎症と顎顔面形態異常および顎関節症との関連性: 砂川絃子, 大谷淳二, 佐野良太, 椿本昇子, 藤田正, 丹根一夫: 日本顎変形症学会雑誌, 20, 8-14, 2010.
21. 不正咬合患者群における顎関節病態と顎顔面形態の関連性: 佐野良太, 谷本幸太郎, 丹根由起, 神谷貴志, 光吉智美, 大谷淳二, 杉山拓紀, 小澤 奏, 丹根一夫: 日本顎関節学会雑誌, 31, 21-25, 2010.
22. 口腔顔面痛とグリア細胞の役割: 渡邊峰朗, 村崎恭子, 伊藤剛志, 末川洋平, 高橋拓史, 広瀬尚人, 樋山伸二, 丹根一夫, 内田 隆: 広島大学歯学雑誌, 37, 1-15, 2010.
23. 歯根露出を呈した犬歯の抜去による再治療を行った成人重度叢生症例: 高橋拓史, 渡邊峰朗, 伊藤剛志, 村崎恭子, 末川洋平, 犬伏俊博, 広瀬尚人, 上田宏, 丹根一夫: 広島大学歯学雑誌, 42, 105-106, 2010.
24. 矯正歯科治療後の外傷による上顎両側中切歯と歯槽骨喪失に対する治療方法 歯の銀行の役割: 羽田裕二, 内田禎子, 澤田則宏, 二木由峰, 加来真人, 河田俊嗣, 丹根一夫: 広島大学歯学雑誌, 42, 86-91, 2010.
25. 不適切なスプリント療法により発現した開咬に対する矯正歯科治療: 西 彰子, 谷本幸太郎, 丹根由起, 神谷貴志, 丹根一夫: 広島大学歯学雑誌, 42, 81-85, 2010.
26. 上顎犬歯の低位唇側転位を伴うハイアングルディープバイト症例の一治験例: 釜田寛子, 加来真人, 本川雅英, 藤田 正, 大谷淳二, 柄なつみ, 小跡弘幸, 川添亜希, 小島俊逸, 河田俊嗣, 丹根一夫: 広島大学歯学雑誌, 42, 75-80, 2010.
27. 口唇裂・口蓋裂患者における歯の自家移植を併用した矯正歯科治療: 末川珠美, 丹根由起, 黄 郁芩, 吉岡基子, 丹根一夫: 広島大学歯学雑誌, 42, 67-74, 2010.
28. 広島大学病院矯正歯科における顎変形症患者の統計学的調査: 高 明善, 伊藤剛志, 渡辺元気, 堀畑篤史, 藤田 正, 上田 宏, 丹根一夫: 広島大学歯学雑誌, 42, 30-33, 2010.
29. 歯の先天欠如を伴う骨格性反対咬合の一治療例: 小島俊逸, 加来真人, 小跡弘幸, 川添亜希, Abedini Sara, 神谷貴志, 本川雅英, 大谷淳二, 藤田 正, 河田俊嗣, 丹根一夫: 中・四国矯正歯科学会雑誌, 22, 17-26, 2010.
30. Rigid External Distraction (RED) systemによる上顎骨延長を行った口蓋裂の一治療例: 吉岡基子, 谷本幸太郎, 丹根由起, 黄 郁芩, 光吉智美, 丹根一夫: 中・四国矯正歯科学会雑誌, 22, 57-65, 2010.
31. 骨格性下顎前突と開咬を呈する軟骨形成不全症の矯正治療例: 光吉智美, 丹根由起, 谷本幸太郎, 黄 郁芩, 神谷貴志, 國松 亮, 吉岡基子, 丹根一夫: 中・四国矯正歯科学会雑誌, 22, 67-76, 2010.
32. 導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント: 日浅 恭, 田中武志, 小野重弘, 西 裕美, 河村 誠, 荒川 真, 内田雄士, 鍋島 巧, 香川和子, 上田 宏, 海原康孝, 中元崇, 齊田拓也, 岡田 貢, 安原幸美, 小川郁子, 中岡美由紀, 榎田和子, 田中俊生, 小川哲次, 鎌田伸之, 山田 文: 医療情報学, 30, 129-132, 2010.

33. 上下顎移動術とオトガイ形成術により治療した上下顎前突症例: 山本浄子, 本川雅英, 加来真人, 河田俊嗣, 柄なつみ, 笹本智子, 小跡弘幸, 尾崎徳継, 川添重希, 松田弥生, Abedini Sara, 丹根一夫: *Orthodontic Waves-Japanese Edition*, 69, 126-133, 2010.

B) 総説

1. 歯科の最新テクノロジー 自家歯牙による審美修復 「歯の銀行」の役割: 河田俊嗣, 神谷貴志, 加来真人, 丹根一夫: *DENTAL DIAMOND*, 35, 7, 76-80, 2010.
2. 冷凍保存歯の自家歯牙移植 歯の銀行による歯牙移植(第2報): 加来真人, 河田俊嗣, 羽田裕二, 二木由峰, 内田禎子, 丹根一夫: *The Quintessence*, 29, 151-157, 2010.
3. 2010年矯正歯科治療に伴う抜歯・非抜歯論争を考える Dr.Angle 没後 80年間の亡霊からの脱却: 河田俊嗣, 神谷貴志, 加来真人, 上田 宏, 藤田 正, 本川雅英, 柄なつみ, 大谷淳二, Abedini Sara, 丹根一夫: *矯正臨床ジャーナル*, 26, 6, 67-80, 2010.
4. 歯牙歯冠移植 その可能性と課題: 河田俊嗣, 神谷貴志, 白井憲一, 加来真人, 國松 亮, 上田 宏, 栗原英見, 岡崎正之, 西村英紀, 藤井理史, 丹根一夫: *歯界展望*, 115, 6, 1104-1108, 2010.

C) 著書

1. 丹根一夫: 歯科・口腔外科疾患 不正咬合; 今日の治療指針 私はこう治療している (山口徹, 北原光夫, 福井次矢 総編集), 医学書院、東京、1239, 2010.
2. 丹根一夫: 顎変形症の手術, 術前・術後の矯正歯科治療; 口腔外科学 (白砂兼光, 古郷幹彦, 編), 第3版, 医歯薬出版, 東京, 620-628, 2010.
3. 丹根一夫: 顎関節症状のある患者が矯正歯科治療を希望したら?; 医師・歯科医師のための口腔診療必携 (高戸 毅監修), 第一版, 金原出版, 58, 2010.

D) その他の刊行物

E) 学会発表

1. Changes in the treatment strategy with edgewise appliances for Class II open bite.: Tanne K., Ohtani, J., Sunagawa H., Fujita T., Kaku M.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
2. Innovation of mini-screw implantation method and instruments to achieve the high success rate.: Ohtani J.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
3. Changes in occlusal function and tooth pain after using an oral appliance for obstructive sleep

- apnea.: Horihata A., Ueda H., Watanabe G., Tanne K.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
4. Ultrasound stimulation induces PGE2 synthesis promoting cementoblastic differentiation in vitro and cementum repair in vivo.: Rego EB., Inubushi T., Kawazoe A., Miyauchi M., Takata T., Tanne K.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
 5. Comparison of the side effects on occlusal function between different oral appliances for obstructive sleep apnea.: Watanabe G., Ueda H., Horihata A., Tanne K.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
 6. Factors of skeletal stability after surgical correction in openbite.: Ito G., Koh M., Fujita T., Shirakura M., Ueda H., Tanne K.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
 7. Significance of HIF-1 signaling pathway in condylar cartilage with osteoarthrotic changes.: Shirakura M., Tanne K.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
 8. Influences of experimentally-induced TMJ-OA on jaw muscle activity in rats.: Kawai N., Sano R., Nakamura S., Tanaka E., Tanne K.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
 9. Sex hormone receptors role in the growth of the femur and mandible.: Márquez Hernández R.A., Ohtani J., Fujita T., Kawata T., Kaku M., Motokawa M, Tsuka N., Sunagawa H., Koseki H., Hayashi H., Matsuda Y., Abedini S., Tsubamoto N., Tanne K.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
 10. Application of recombinant amelogenin to regeneration of cementum.: Kunimatsu R., Tanimoto K., Tanne Y., Kamiya T., Ohkuma S., Inubushi T., Huang Y.C., Yoshioka M., Hirose N., Mitsuyoshi T., Yoshimi Y., Miyauchi M., Takata T., Tanne K.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
 11. Effects of long-term cryopreservation on PDL cells with the use of magnetic field programmed freezer.: Abedini S., Kaku M., Kawata T., Koseki H., Kojima S., Motokawa M., Tsuka N., Ohtani J., Fujita T., Matsuda Y., Sunagawa H., Márquez Hernández R.A., Tanne K.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
 12. Regeneration of condyle by use of a functional appliance T Fujita, J Ohtani, K Tanne.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
 13. Amelogenin modulates the proliferation of human mesenchymal stem cells through the MAPK-ERK pathway.: Huang Y.C., Tanimoto K., Tanne Y., Kamiya T., Ohkuma S., Inubushi T., Kunimatsu R., Yoshioka M., Michida M., Mitsuyoshi T., Yoshimi Y., Kato Y., Tanne K.: The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
 14. Availability of carbonated hydroxyapatite as a scaffold for bone regeneration.: Sumi K., Tanimoto K.,

- Tanne Y., Kamiya T., Okuma S., Kunimatu R., Yoshioka M., Hayashi H., Okazaki M., Kato Y., Sugiyama M., Tanne K.: The 88th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research (Barcelona), 2010
15. Bone regeneration in artificial jaw cleft by use of mesenchymal stem cells.: Yoshioka M., Tanimoto K., Sumi K., Tanne Y., Kamiya T., Okuma S., Kunimatsu R., Huang Y.C., Yoshimi Y., Kato Y., Sugiyama M., Tanne K.: The 88th IADR General Session (Barcelona), 2010
 16. Effect of human amelogenin on the proliferation of periodontal cells.: Yoshimi Y., Tanimoto K., Tanne Y., Motokawa M., Kamiya T., Inubushi T., Kunimatsu R., Huang Y.C., Yoshioka M., Hirose N., Mitsuyoshi T., Tanne K.: The 88th General Session & Exhibition of the IADR (Barcelona), 2010.
 17. Modulation of PRG4 expression by hyaluronan through CD44 receptor.: Mitsuyoshi T., Kamiya T., Tanimoto K., Tanne Y., Kunimatsu R., Yoshioka M., Huang Y.C., Sano R., Matsuda Y., Yoshimi Y., Tanne K.: The 88th International Association for Dental Research (Barcelona),2010.
 18. Astrocytic interleukin-1beta contributes to neuropathic pain following mental nerve injury: Takahashi K., Watanabe M., Suekawa Y., Ito G., Murasaki K., Hirose N., Hiyama S., Uchida T., Tanne K.: The 88th International Association for Dental Research (Barcelona),2010.
 19. Effects of human recombinant amelogenin on the metabolism of cementoblasts.: Kunimatsu R., Tanimoto K., Tanne Y., Kamiya T., Inubushi T., Huang Y.C., Mitsuyoshi T., Yoshimi Y., Miyauchi M., Takata T., Tanne K.: The 58th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research (Fukuoka), 2010.
 20. Amelogenin without N-terminal domain affects the metabolism of cementoblasts: Yoshimi Y., Tanimoto K., Kunimatsu R., Tanne Y., Kamiya T., Inubushi T., Huang Y.C., Mitsuyoshi T., Miyauchi M., Takata T., Tanne K.: The 58th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Reserch (Fukuoka), 2010.
 21. Histochemical analysis of root resorption in rats by jiggling forces: Matsuda Y., Motokawa M., Kaku K., Kawata T., Fujita T., Ohtani J., Sunagawa H., Koseki H., Abedini S., Hayashi H., Terao A., Kojima S., Tsubamoto N., Ishikawa E., Tanne K.: The 58th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Reserch (Fukuoka), 2010.
 22. Effects of recombinant human amelogenin on the proliferation of cementoblasts and periodontal ligament cells.: Kunimatsu R., Tanimoto K., Tanne Y., Kamiya T., Ohkuma S., Inubushi T., Huang Y.C., Yoshioka M., Hirose H., Mitsuyoshi T., Yoshimi Y., Miyauchi M., Takata T., Tanne K.: The 2nd International Workshop on Biodental Education&Research (Hiroshima), 2010.
 23. Anti-inflammatory effects of soybean lecithin liposomalized lactoferrin during orthodontic tooth movement.: Kawazoe A., Inubushi T., Miyauchi M., Rego EB., Ishikado A., Tanne K., Takata T.: The 15th International Congress on Oral Pathology and Medicine (Seoul), 2010.
 24. 顎顔面領域の神経因性疼痛における P2X₇ 受容体の役割: 伊藤剛志, 渡邊峰朗, 犬伏俊博, 高橋拓史, 広瀬尚人, 村崎恭子, 樋山伸二, 内田 隆, 丹根一夫: 第 43 回広島大学歯学会総会

(広島) , 2010

25. 血管リンパ管腫に起因する骨格性開咬患者の舌・気道分析: 渡辺元気, 上田 宏, 高 明善, 伊藤剛志, 道田将彦, 堀畑篤史, 丹根一夫: 第 20 回日本顎変形症学会総会 (札幌) , 2010.
26. 顎矯正手術後にみられる下顎骨の位置変化の多様性: 高 明善, 藤田 正, 伊藤剛志, 白倉麻耶, 渡辺元気, 堀畑篤史, 村崎恭子, 上田 宏, 丹根一夫: 第 20 回日本顎変形症学会総会 (札幌) , 2010.
27. Orthodontic-surgical correction of a skeletal Class II malocclusion with IVRO and Le Fort I osteotomy: Abedini Sara., 加来真人, 小跡弘幸, 小島俊逸, 丹根一夫: 第 20 回日本顎変形症学会総会 (札幌) , 2010.
28. 顔面非対称症例における下顎移動術単独による lip line の変化: 白倉麻耶, 藤田 正, 高 明善, 丹根一夫: 第 20 回日本顎変形症学会総会 (札幌) , 2010.
29. 顎矯正手術を受けた下顎前突症患者における上下口唇面積の変化に影響を及ぼす因子の検討: 椿本昇子, 大谷淳二, 佐野良太, 砂川紘子, 藤田正, 上田宏, 丹根一夫: 第 20 回日本顎変形症学会総会 (札幌) , 2010.
30. 不正咬合患者群における顎関節病態と顎顔面形態の関連性: 佐野良太, 谷本幸太郎, 丹根由起, 神谷貴志, 光吉智美, 杉山拓紀, 小澤 奏, 丹根一夫: 第 20 回日本顎変形症学会総会 (札幌) , 2010.
31. 口唇裂・口蓋裂患者と健常者の咀嚼筋活動の違い: 上田 宏, 渡辺元気, 高 明善, 大谷淳二, 蔡吉陽, 丹根一夫: 第 34 回日本口蓋裂学会総会・学術集会 (東京) , 2010.
32. 宿主年齢の異なる歯肉組織の創傷治癒におけるアポトーシス調節に対する bFGF 及び HA の影響: 大熊 暁, 谷本幸太郎, 丹根由起, 神谷貴志, 犬伏俊博, 岩淵泰憲, 吉岡基子, 尾崎徳継, 道田将彦, 廣瀬尚人, 光吉智美, 吉見友希, 丹根一夫: 第 34 回日本口蓋裂学会総会・学術集会 (東京) , 2010.
33. 口蓋裂患者へのティースバンク: 河田俊嗣, 加来真人, 丹根一夫: 第 34 回日本口蓋裂学会総会・学術集会 (東京) , 2010.
34. 骨髓由来未分化間葉系幹細胞を用いた顎裂閉鎖治療 再生骨への矯正的歯の移動: 吉岡基子, 谷本幸太郎, 丹根由起, 大熊 暁, 神谷貴志, 犬伏俊博, 國松 亮, 黄 郁苓, 笹本智子, 鷲見圭輔, 杉山 勝, 加藤幸夫, 丹根一夫: 第 34 回日本口蓋裂学会総会・学術集会 (東京) , 2010.
35. 睡眠時無呼吸症候群治療の一体型および可動型口腔内装置が咬合機能に及ぼす影響: 渡辺元気, 堀畑 篤史, 上田 宏, 丹根 一夫: 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会 (愛知) , 2010
36. 広島大学病院矯正科における顎変形症患者の統計調査: 石川絵海, 高 明善, 伊藤剛志, 渡辺元, 堀畑篤史, 藤田 正, 上田 宏, 丹根一夫: 第 53 回中・四国矯正歯科学会大会 (鳥取) , 2010.
37. 歯列模型を用いた学童の歯列・咬合診査: 村崎恭子, 高 明善, 伊藤剛志, 佐野良太, 大熊 暁, 高橋拓史, 堀畑篤史, 椿本昇子, 石川絵海, 大谷淳二, 上田 宏, 丹根一夫: 第 53 回中・四国矯正歯科学会大会 (鳥取) , 2010.
38. マルチブラケット法による開咬症例の治療後における歯根吸収の発現に関する臨床調査:

- 寺尾明子, 本川雅英, 加来真人, 河田俊嗣, 笹本智子, 尾崎徳継, 小跡弘幸, 川添亜希, 松田弥生, 小島俊逸, 丹根一夫: 第 53 回中・四国矯正歯科学会大会 (鳥取), 2010.
39. 叢生を伴う著しい骨格性開咬症例の一治験例: 小島俊逸, 加来真人, 小跡弘幸, 川添亜希, 神谷貴志, 本川雅英, 大谷淳二, 藤田 正, 河田俊嗣, 丹根一夫: 第 53 回中四国矯正歯科学会学術大会 (鳥取), 2010.
40. 核内受容体 (ROR α) による時計遺伝子 (Dec1, Dec2) の制御: 尾崎徳継, 能城光秀, 河本 健, 藤本勝巳, 加藤幸夫, 丹根一夫.: 中四国日本生化学会支部例会, 2010.
41. CD44 受容体を介したヒアルロン酸による PRG4 の発現調節: 光吉智美, 神谷貴志, 谷本幸太郎, 丹根由起, 丹根一夫: 第 23 回一般社団法人 日本顎関節学会総会・学術大会 (東京), 2010.
42. 過度な機械的刺激による下顎頭軟骨の変性、破壊機序: 神谷貴志, 谷本幸太郎, 丹根由起, 岩淵泰憲, 光吉智美, 丹根一夫: 第 23 回一般社団法人 日本顎関節学会総会・学術大会 (東京), 2010.
43. Le Fort I 型骨切り術を施行した顎変形症の臨床的検討: 山崎佐知子, 伊藤 翼, 岡崎文彦, 藤井良典, 木村直大, 竹末奈七子, 鍋島 巧, 石田康隆, 浜名智昭, 福井康人, 角 健作, 岡本康正, 神田 拓, 新谷智章, 小泉浩一, 吉岡幸男, 谷 亮治, 林堂安貴, 虎谷茂昭, 丹根一夫, 岡本哲治: 第 43 回広島大学歯学会 (広島), 2010.
44. 大豆レシチンリポソーム化ラクトフェリンの抗炎症効果: 歯の移動時の炎症制御への応用: 川添亜希, 犬伏俊博, 宮内睦美, Emanuel Braga Rego, 石角 篤, 高田 隆, 丹根一夫: 第 43 回広島大学歯学会総会 (広島), 2010.
45. 骨髄由来間葉系幹細胞の骨、脂肪、軟骨細胞分化における DEC2 の役割: 笹本智子, 藤本勝巳, 金輪真佐美, 河本 健, 能城光秀, 道田将彦, 尾崎徳継, 丹根一夫, 加藤幸夫.: 第 43 回広島大学歯学会総会 (広島), 2010.
46. 機能的矯正装置による下顎頭の再生: 林 英貴, 藤田 正, 白倉麻耶, 河田俊嗣, 加来真人, 大谷淳二, 本川雅英, 小跡弘幸, 砂川紘子, Márquez Hernández R.A, 松田弥生, Abedini Sara, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
47. 下顎骨の成長発育に影響を及ぼす性ホルモンレセプターの発現: 大谷淳二, Márquez Hernández R.A., 藤田 正, 砂川紘子, 椿本昇子, 石川絵海, 河田俊嗣, 加来真人, 本川雅英, 小跡弘幸, 林 英貴, 松田弥生, Abedini Sara, 小島俊逸, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
48. 磁場を利用したラット骨髄由来間葉系幹細胞の長期凍結保存法: 小島俊逸, 加来真人, 河田俊嗣, 本川雅英, 藤田 正, 大谷淳二, 小跡弘幸, Abedini Sara, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
49. マウス歯根形成期におけるアメロプラスチンの役割: 廣瀬尚人, 伊藤剛志, 村崎恭子, 高橋 拓史, 渡邊峰朗, 島津 篤, 内田隆, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.

50. 磁場を利用した骨組織の長期凍結保存法: 小跡弘幸, 加来真人, 河田俊嗣, 本川雅英, 藤田正, 大谷淳二, Abedini Sara, 小島俊逸, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
51. 歯周組織構成細胞に対するヒトリコンビナントアモロゲニンの効果とシグナル伝達機構の解明: 國松 亮, 谷本幸太郎, 丹根由起, 神谷貴志, 大熊 暁, 岩渕泰憲, 黄 郁芩, 吉岡基子, 尾崎徳継, 笹本智子, 道田将彦, 廣瀬尚人, 光吉智美, 吉見友希, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
52. N 末端側ドメインを除去したアモロゲニンのヒト歯根膜細胞代謝調節機構に対する影響: 吉見友希, 谷本幸太郎, 國松 亮, 丹根由起, 神谷貴志, 大熊 暁, 岩渕泰憲, 黄 郁芩, 吉岡基子, 尾崎徳継, 笹本智子, 道田将彦, 廣瀬尚人, 犬伏俊博, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
53. 退行性変性を呈する下顎頭軟骨に対する低出力超音波の影響について: 岩渕泰憲, 谷本幸太郎, 本川雅英, 丹根由起, 犬伏俊博, 神谷貴志, 大熊 暁, 國松 亮, 黄 郁芩, 吉岡基子, 道田将彦, 笹本智子, 光吉智美, 田中栄二, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
54. 宿主年齢の異なる歯肉線維芽細胞におけるアポトーシス調節に対する bFGF と HA の影響: 大熊 暁, 谷本幸太郎, 丹根由起, 神谷貴志, 國松 亮, 黄 郁芩, 吉岡基子, 尾崎徳継, 道田将彦, 笹本智子, 廣瀬尚人, 光吉智美, 鷺見圭輔, 吉見友希, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
55. 開咬症例における歯根吸収の発現に関する臨床調査(第 1 報): 寺尾明子, 本川雅英, 加来真人, 河田俊嗣, 笹本智子, 尾崎徳継, 小跡弘幸, 川添亜希, 松田弥生, Abedini Sara, 小島俊逸, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
56. 開咬症例における歯根吸収の発現に関する臨床調査(第 2 報): 本川雅英, 加来真人, 河田俊嗣, 笹本智子, 尾崎徳継, 小跡弘幸, 川添亜希, 松田弥生, Abedini Sara, 寺尾明子, 小島俊逸, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
57. 冷凍保存歯の自家歯牙移植 歯の銀行の役割: 内田禎子, 河田俊嗣, 加来真人, 神谷貴志, 羽田祐二, 丹根一夫: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 (横浜), 2010.
58. 磁場を利用したプログラムフリーザーを用いて凍結保存を行った自家歯牙移植症例: 加来真人, 河田俊嗣, 小跡弘幸, Abedini Sara, 小島俊逸, 角 明美, 藤田 正, 本川雅英, 大谷淳二, 二木由峰, 羽田裕二, 丹根一夫: 第 49 回広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会 (広島), 2010.
59. 骨格性 II 級患者におけるアクチベータ使用後の気道形態の変化: 堀畑篤史, 上田 宏, 渡辺元氣, 佐野良太, 高 明善, 丹根一夫: 第 49 回広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会 (広島), 2010.

60. 不適切なスプリント療法により開咬を発現した3症例: 鷺見圭輔, 谷本幸太郎, 丹根由起, 神谷貴志, 國松 亮, 廣瀬尚人, 光吉智美, 丹根一夫: 第49回広島県歯科医学会・第94回広島大学歯学会(広島), 2010.
61. 核内受容体(RORα)とSREBP1cによるベーシック・ヘリックス・ループ・ヘリックス型転写因子(Dec1, Dec2)の発現調節と脂肪分化: 尾崎徳継, 能城光秀, 河本 健, 藤本勝巳, 加藤幸夫, 丹根一夫.: 第83回日本生化学学会(神戸), 2010.
62. 大豆レシチンリポソーム化ラクトフェリンは矯正的な歯の移動を阻害することなく歯周組織の炎症ならびに組織破壊を抑制する: 川添亜希, 宮内睦美, 山野栄三, 犬伏俊博, 石角 篤, 丹根一夫, 高田 隆: 第4回日本ラクトフェリン学会学術集会(滋賀), 2010.
63. 骨髄・滑膜由来間葉系幹細胞におけるインテグリン遺伝子発現への転写因子GATA6の作用: 道田 将彦, 河本 健, 久保 裕嗣, 金輪 真佐美, 丹根 一夫, 加藤 幸夫: 第51回日本生化学会中国・四国支部例会・シンポジウム(山口), 2010.

F) シンポジウムおよび依頼講演

1. 丹根一夫: 顎変形症における顎関節の重要性 顎変形症の発現に対する顎関節症の関わり: 第20回日本顎変形症学会総会(札幌), 2010.
2. Tanne K.: Current status of TMD and the treatment strategy integrated with orthodontic approach. : The 7th International Orthodontic Congress (Sydney), 2010.
3. Tanne K.: Changes in orthodontic treatment system with edgewise appliances for Class II open bite. : The 2nd International Conference on Orthodontic Treatment (Hiroshima), 2010.
4. Tanne K.: Tissue regeneration therapy for the defects of bony structures and teeth in the craniofacial region. : Joint Scientific Meeting in Dentistry (JSDiD) (Surabaya), 2010.
5. Tanne K.: Current status of TMD and the therapeutic strategy integrated with orthodontic approach. : Joint Scientific Meeting in Dentistry (JSDiD) (Surabaya), 2010.
6. Tanne K.: Recent academic and clinical topics in orthodontics: tissue regeneration and micro-implant anchorage. : 2010 QingDao International Orthodontic and Scientific Meeting (QingDao), 2010.
7. Tanne K.: Current status of temporomandibular joint disorder and the therapeutic strategy. : 2010 QingDao International Orthodontic and Scientific Meeting (QingDao), 2010.
8. Tanne K.: Vertical skeletal discrepancy, open bite: current principles and techniques for the treatment.: The 3rd Asian Micro Implant Anchorage Meeting (Bangkok), 2010.
9. Tanne K.: A significance of molar intrusion in the treatment of open bite with vertical skeletal discrepancy: treatment strategy derived from the etiologic consideration. : The

2nd World Implant Orthodontic Conference (Taipei), 2010.

10. 大谷淳二: 大白歯の移動と Chin Control: 第9回インプラント矯正研究会セミナー (仙台), 2010.
11. Ohtani J.: Innovation of implantation method and instruments based on evidence.: The 2nd World implant orthodontic conference (Taipei), 2010.
12. Kaku M.: Treatment of temporomandibular joint disorders using miniscrew anchorage.: The 2nd World Implant Orthodontic Conference (Taipei), 2010.
13. 上田 宏: 閉塞性睡眠時無呼吸に対する口腔内装置が咬合へ及ぼす影響について考える: 日本睡眠学会第35回定期学術集会教育セミナー (名古屋), 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

1. 科学研究費補助金 基盤研究 (B): 丹根一夫: 外因刺激に対する下顎頭軟骨各層の応答と進行性下顎頭吸収との関わり. 課題番号 20390523. 3,100 千円
2. 科学研究費補助金 基盤研究 (B): 谷本幸太郎: バイオミネラリゼーションモデルを用いたエナメル質形成不全症(AI)発症機構の解明. 課題番号 20390522. 4,290 千円
3. 科学研究費補助金 基盤研究 (C): 上田 宏: 睡眠時無呼吸症候群における歯列への副作用の少ない口腔内装置の臨床応用. 課題番号 20592403. 300 千円
4. 科学研究費補助金 基盤研究 (C): 田中伸明: 変形性顎関節症に対する低出力パルス超音波刺激の有用性について. 課題番号 22592285. 1,000 千円
5. 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究: 谷本幸太郎: ナノプロセスによるアパタイト結晶誘導技術の開発とエナメル質再生治療への応用: 課題番号 21659474. 1,600 千円
6. 科学研究費補助金 若手研究(B): 加来真人: 骨組織の長期凍結保存法とその臨床応用の検討. 課題番号 22792054. 1,600 千円
7. 科学研究費補助金 若手研究(B): 白倉麻耶: 変形性顎関節症における軟骨破壊の分子生物学的解析: HIF-1 活性化の機序の解明. 課題番号 22792053. 900 千円
8. 科学研究費補助金 若手研究 (スタートアップ): 丹根由起: 未分化間葉系細胞による骨再生誘導に対応した微小環境構築へのアメロゲニンの応用. 課題番号 21890164. 880 千円
9. 科学研究費補助金 若手研究 (スタートアップ): 神谷貴志: 潤滑機能性蛋白 SZP の発現調節機構の解明と顎関節機能改善を目指した治療法の開発. 課題番号 21890163. 950 千円
10. 科学研究費補助金 若手研究 (スタートアップ): 高橋拓史: 顎顔面領域慢性疼痛時のギャップ結合の役割. 課題番号 21890162. 950 千円
11. 科学研究費補助金 若手研究 (スタートアップ): 岩淵泰憲: 超音波パルス微細振動による基質代謝活性の制御技術を応用した顎関節軟骨再生治療. 課題番号 22890122. 1,120 千円
12. 広島市中小企業技術開発支援補助金: (株)イシカワ: カルシウムイオン水に於ける殺菌効果と商品化検証. 1,820 千円.

13. 学部・附属学校共同研究「研究プロジェクト」：高 明善: バクシネーターメカニズムに影響を及ぼす鼻腔抵抗値の定量的評価法の確立とその臨床応用. 30 千円.

(5) 学会賞等の受賞状況

1. 丹根一夫: 中国地域産学官連携功労者表彰 (中国地域産学官コラボレーションセンター主催), 2010.
2. 大谷淳二: A newly developed snack effective for enhancing bone volume: 第 13 回広島大学歯学部同窓会奨励論文賞, 2010. 第 1 回広島大学知財奨励賞, 2010.
3. 吉岡基子: 骨髄由来未分化間葉系幹細胞を用いた顎裂閉鎖治療 再生骨への矯正的歯の移動: 第 34 回日本口蓋裂学会総会・学術集会優秀発表賞
4. 川添亜希: 大豆レシチンリポソーム化ラクトフェリンは矯正的な歯の移動を阻害することなく歯周組織の炎症ならびに組織破壊を抑制する: 第 4 回日本ラクトフェリン学会富田賞
5. 内田禎子: 冷凍保存歯の自家歯牙移植 -歯の銀行の役割- : 第 69 回日本矯正歯科学会大会優秀発表賞
6. 林 英貴: 機能的矯正装置による下顎頭の再生: 第 69 回日本矯正歯科学会大会 優秀発表賞

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

展開医科学専攻・顎口腔頸部医科学講座（小児歯科学研究室）

及び口腔健康発育歯科（小児歯科）

（１）職員並びに学生

教授	: 香西克之
准教授	: 鈴木淳司（３月まで）
講師	: 林 文子（学内，８月から）
助教	: 林 文子（診療講師，７月まで），海原康孝（診療講師），光畑智恵子 : 吉村 剛，太刀掛銘子（３月まで），角本法子（４月から） : 坪井 文（４月から）
診療医	: 三浦 梢（３月まで），有木美早，平田涼子，大谷聡子，三宅奈美
大学院生	: 坪井 文（３月まで），大原 紫，胡 軼群，小西有希子，島田 歩 : 松浦和則（３月まで），山根 陽（３月まで），敖敏（４月から） : 岩本優子（４月から），児玉紀子（４月から）
研究生	: 財賀かおり（３月まで），番匠谷綾子（３月まで），平川美重（３月まで） : 松浦和則（４月から），山根 陽（４月から）
研修登録医	: 山城真美（３月まで），番匠谷綾子（４月から），平川美重（４月から） : 柏 典子（４月から）

（２）主な研究活動

- 1: ミュータンス連鎖球菌の溶菌酵素に関する研究
- 2: 小児口腔細菌，特に黄色ブドウ球菌に関する研究
- 3: osteoblast の分化におけるプロスタグランジンの影響
- 4: osteoblast の分化における細胞間連絡の分子生物学的解析
- 5: 小児の歯周疾患における細菌学および疫学的研究
- 6: 小児の心理学的ストレスの行動学的評価
- 7: 齶蝕原因菌の伝播の解明
- 8: 抗齶蝕性物質の天然物質からの探求
- 9: 低 pH 飲料の歯の脱灰能
- 10: 被虐待児の口腔内環境調査および健康育成システム構築のための研究
- 11: カンボジア小児への口腔の健康教育プログラム構築のための調査研究

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

- 1: 当院医科より紹介された患児の実態調査: 大谷聡子, 吉村剛, 坪井 文, 角本法子, 太刀掛銘子, 鈴木淳司, 香西克之: 小児歯科学雑誌, 48(3), 409-413, 2010.
- 2: 自閉症児みずから作製した絵を歯科治療に用い, 行動変容が可能となった1例: 三浦 梢, 林 文子, 大谷聡子, 坪井 文, 光畑智恵子, 鈴木淳司, 香西克之: 障歯誌, 31(2), 232-236, 2010.
- 3: Expression and function of variants of human catecholamine transporters lacking the fifth transmembrane region encoded by exon 6.: Sogawa C., Mitsuhata .C, Kumagai-Morioka K., Sogawa N., Ohyama K., Morita K., Kozai K., Dohi T., Kitayama S.: PLoS One. Aug 5; 5(8): e11945, 2010.
- 4: 歯科恐怖症が疑われる患児に認知行動療法的アプローチを併用し治療が行えた1例: 光畑智恵子, 有木美早, 平田涼子, 海原康孝, 鈴木淳司, 天野秀昭: 香西克之: 日歯心身, 25(1), 14-20, 2010.
- 5: 小学生の食行動に関する調査: 海原康孝, 林 文子, 石徳友希, 大松恭宏, 鈴木淳司, 香西克之: 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 38, 191-196, 2009 (2010年3月発行) .
- 6: 新規に導入した医療情報システムの運用状況アセスメント: 日浅恭, 田中武志, 小野重弘, 西裕美, 河村誠, 荒川真, 内田雄士, 鍋島巧, 香川和子, 上田宏, 海原康孝, 中本崇, 齊田拓也, 岡田貢, 安原幸美, 小川郁子, 中岡美由紀, 榎田和子, 田中俊夫, 小川哲次, 鎌田伸之, 山田文香: 医療情報学, 30(Supple.), 129-133, 2010.
- 7: 横紋筋肉腫治療のために造血幹細胞移植を行った患児の歯科治療と口腔管理: 坪井 文, 海原康孝, 角本法子, 光畑千恵子, 香西克之: 日歯福祉誌, 15(1), 18-23, 2010.
- 8: 中学生における歯周疾患実態調査: 林 文子, 保田利恵, 中田啓子, 鈴木淳司, 河村 誠, 香西克之: 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 38, 315-318, 2009 (2010年3月発行) .
- 9: 学校歯科健康診断におけるDF歯数の診査誤差による変動とその変動の意味-う蝕処置推奨のためのスクリーニング検査としての妥当性-: 笹原妃佐子, 林 文子, 岡田 貢, 島津篤, 河村 誠, 香西克之: 口腔衛生会誌, 60(5), 569-574, 2010.
- 10: Late established mutans streptococci in children over 3 years old.: Okada M., Taniguchi Y., Hayashi F., Doi T., Suzuki J., Sugai M., Kozai K.: International Journal of Dentistry, 2010, 732468.

B) 総説

- 1：小児期侵襲性歯周炎の発生機構：鈴木淳司：小児歯誌，48(1), 20-28, 2010.
- 2：未就学児向け歯のみがき方指導DVD～「はじめてのはみがき」活用と指導のポイント～：香西克之：日本学校歯科医会誌，平成22年度（1），第106号，26-27, 2010.

C) 著書

D) その他の出版物

- 1：大臼歯の萌出不全などに対する簡便な咬合誘導法：吉村 剛：DENTAL DIAMOND, 35(506), 104-106, 2010.
- 2：日常臨床で取り組む小児歯科診療の実際② 歯の萌出ステージに応じた小児う蝕の予防手段とその実践：林 文子，香西克之：DENTAL DIAMOND, 37(4), 46-51, 2010.
- 3：最新臨床の基礎 小児歯科領域における歯周疾患を考える（1） 歯周疾患の分類：鈴木淳司，香西克之：小児歯科臨床，15(2), 49-53, 2010.
- 4：最新臨床の基礎 小児歯科領域における歯周疾患を考える（2） 歯肉炎と歯周炎の相違：鈴木淳司，香西克之：小児歯科臨床，15(3), 37-39, 2010.
- 5：特集 小児歯科と小児科との連携 ー第14回成育歯科医療研究会大会より 広汎性発達障害児に対する歯科診療：林 文子，香西克之：小児歯科臨床，15(4), 18-23, 2010.
- 6：特集 小児歯科と小児科との連携 ー第14回成育歯科医療研究会大会より 小児がん患者の実際や治療時に起こりうる顎顔面領域の問題点：中村和洋，小林正夫，鈴木淳司，香西克之：小児歯科臨床，15(4), 24-28, 2010.
- 7：特集 小児歯科と小児科との連携 ー第14回成育歯科医療研究会大会より 小児がん治療に寄り添う小児歯科：坪井 文，鈴木淳司，香西克之：小児歯科臨床，15(4), 29-35, 2010.
- 8：私の“専門医”への道のり ー日本小児歯科学会②小児歯科医への一里塚：三浦 梢，日本歯科評論，70(8), 87-94, 2010.
- 9：ワイン圧縮粕(パミス)抽出物の齶蝕予防効果について：小西俊明，間和彦，吉村剛，香西克之：FOOD Style 21, 14(11), 61-63, 2010.
- 10：知っておきたい「小児歯科」 1. 歯の生えるのが遅い ー歯の萌出診断ー：香西克之：小児科臨床，63(11), 2223-2240, 2010.
- 11：小児歯科専門医の養成教育と展望：香西克之：小児歯科臨床，15(5), 54-57, 2010.

E) 学会発表

- 1 : 乳幼児の口腔内から分離される乳酸菌とう蝕との因果関係 : 島田 歩, 野田正文, 杉本好美, 熊谷孝則, 的場康幸, 吉村 剛, 香西克之, 杉山政則 : 日本薬学会第 130 年会 (岡山), 2010.
- 2 : Quantitative analysis of the ratio of mutans streptococci in dental plaque sampling from children: Ohara Y., Yoshimura G., Suzuki J., Kozai K. : 第 3 回バイオデンティスト育成プログラム国際ワークショップ (広島), 2010.
- 3 : Chemotherapy and radiation against neuroblastoma inhibit forming of permanent teeth : Tsuboi A., Suzuki J., Kozai K. : 第 3 回バイオデンティスト育成プログラム国際ワークショップ (広島), 2010.
- 4 : 免疫抑制児の口腔環境と歯科的対応 : 坪井 文, 吉村 剛, 海原康孝, 中岡美由紀, 角本法子, 大谷聡子, 大原 紫, 松浦和則, 香西克之 : 第 48 回日本小児歯科学会大会 (名古屋), 2010.
- 5 : 当院における摂食・嚥下障害に対する口腔内装置の効果について : 太刀掛銘子, 鈴木淳司, 林 文子, 大谷聡子, 角本法子, 香西克之 : 第 48 回日本小児歯科学会大会および総会 (名古屋), 2010.
- 6 : 受動喫煙と小児歯肉のメラニン色素沈着に関する調査 : 大谷聡子, 三浦 梢, 光畑智恵子, 小西有希子, 鈴木淳司, 香西克之 : 第 48 回日本小児歯科学会大会および総会 (名古屋), 2010.
- 7 : 歯周病原性菌の家族内伝播に関する研究 : 角本法子, 林 文子, 香西克之 : 第 48 回日本小児歯科学会大会 (名古屋), 2010.
- 8 : 当科を受診した患児における永久歯歯数異常の検討 : 光畑智恵子, 大原紫, 香西克之 : 第 43 回広島大学歯学会総会 (広島), 2010.
- 9 : 老化関連タンパク klotho による骨の石灰化調節機構 : 小西有希子, 吉子裕二, 南崎朋子, 北島聖子, 吉岡広陽, 香西克之, 前田憲彦 : 第 43 回広島大学歯学会総会 (広島), 2010.
- 10 : 発達障害児の歯科受診ストレスについて : 光畑智恵子, 有木美早, 平田涼子, 香西克之 : 日本歯科心身医学会設立 25 周年記念総会・学術大会 (広島), 2010.
- 11 : 歯周炎と全身疾患の関係についての実験病理学的研究 —持続的 LPS 投与が全身に及ぼす影響— : 古庄寿子, 敖 敏, 犬伏俊博, 宮内睦美, 北川雅恵, 高田 隆 : 第 21 回 NPO 法人日本臨床口腔病理学会総会・学術大会 (枚方), 2010.
- 12 : 広島大学歯学部における新しい臨床実習への取り組み —形成的評価を重視した OSCE の導入— : 田地 豪, 藤井理史, 藤田 剛, 神田 拓, 海原康孝, 長崎信一, 岡田 貢, 小川郁子, 内田 隆, 栗原英見 : 第 29 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (盛岡), 2010.
- 13 : 新規に導入した医療情報システムの運用状況アセスメント : 日浅恭, 田中武志, 小野重弘, 西裕美, 河村誠, 荒川真, 内田雄士, 鍋島巧, 香川和子, 上田宏, 海原康孝, 中本崇, 齊田拓也, 岡田貢, 安原幸美, 小川郁子, 中岡美由紀, 榎田和子, 田中俊夫, 小川哲次, 鎌田伸之, 山田文香 : 第 30 回医療情報学連合大会 (浜松), 2010.
- 14 : 当科における知的障害児 (者) の歯科診療実態—2004 年から 2009 年の変化— : 林 文子,

- 光畑智恵子, 有木美早, 中岡美由紀, 香西克之: 第 27 回日本障害者歯科学会総会および学術大会 (東京), 2010.
- 15: 児童虐待に対する一時保護施設への歯科的支援活動: 児玉紀子, 番匠谷綾子, 角本法子, 大谷聡子, 山崎健次, 山根陽, 岩本優子, 香西克之: 第 49 回広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会 (広島), 2010.
- 16: 当科における初診患者の実態調査: 平田涼子, 有木美早, 三宅奈美, 大谷聡子, 光畑智恵子, 林文子, 香西克之: 第 29 回日本小児歯科学会中四国地方会大会および総会 (岡山), 2010.
- 17: カンボジア王国シェムリアップ州ササースダム小学校における歯科支援活動: 岩本優子, 角本法子, 児玉紀子, 大谷聡子, 天野秀昭, 香西克之: 第 29 回日本小児歯科学会中四国地方会大会及び総会 (岡山), 2010.
- 18: 非接触型三次元形状計測システムの模型計測における再現性に関する検討: 海原康孝, 天野秀昭, 二川浩樹, 香西克之: 平成 22 年度日本小児歯科学会大会秋季大会 (郡山), 2010.
- 19: 小児のデンタルプラークより検出される *S.mutans* の分布および性状の検討: 大原紫, 吉村剛, 香西克之: 平成 22 年度日本小児歯科学会秋季大会 (郡山), 2010.
- 20: *S.mutans* のプラーク形成に対するブドウ酒搾り滓(パミス)の阻害効果について: 吉村剛, 小西俊成, 大原紫, 香西克之: 平成 22 年度日本小児歯科学会秋季大会 (郡山), 2010.
- 21: 一時保護された被虐待児童の口腔内状況: 児玉紀子, 番匠谷綾子, 角本法子, 大谷聡子, 山崎健次, 山根陽, 岩本優子, 香西克之: 平成 22 年度日本小児歯科学会秋季大会 (郡山), 2010.

F) 特別講演

- 1: 広島大学歯学部同窓会山口県支部研修会講演会: 歯列咬合の成長発達と咬合誘導の実際: 海原康孝, 周南市歯科医師会館 (周南), 2010.
- 2: 平成 22 年度広島県看護協会研修会: 小児の成長発達と口腔ケア～病児・障がい児へのケアを中心に～: 香西克之, 広島県看護協会 (広島), 2010.
- 3: 平成 22 年度呉市立昭和東小学校教育講演会: こどもの口と歯の健康 何から始める? 歯っぴいライフ: 香西克之, 呉市立昭和東小学校図書室 (呉), 2010.
- 4: 平成 21 年度 8020 運動推進事業 歯列咬合育成支援事業研修会: 子どもの歯から育てよう。生きる力と健康力: 香西克之, 三次市歯科医師会館 (三次), 2010.
- 5: 平成 21 年度 歯科衛生士リカレント研修会: 小児の口腔ケア: 香西克之, 広島大学歯学部口腔健康科学科講義実習室 6F (広島), 2010.
- 6: 平成 21 年度 8020 運動推進事業 歯列咬合育成支援事業研修会: 子どもの歯から育てよう。生きる力と健康力: 香西克之, 福山市まなび野館ローズコム (福山), 2010.
- 7: 第 29 回日本小児歯科学会中四国地方会大会シンポジウム「小児歯科臨床の最前線 小児の

- 歯肉炎と歯周炎の対応」有木美早：岡山県歯科医師会館（岡山），2010.
- 8： JICA 研修講義 Etiology and clinical approach for periodontal disease of children: Kozai K., 九州大学（福岡），2010.
- 9： 平成 22 年度広島大学高校生公開講座：「むし歯」と「噛む力」：香西克之：広島大学歯学部（広島），2010
- 10： 産学連携を推進するための第 3 回乳酸菌国際シンポジウム Etiology of dental caries and the inhibitory potential of Lactobacilli : Kozai K : メルパルク広島（広島），2010.
- 11： 第 21 回西日本臨床小児口腔外科学会・教育講演 子どもたちが歯科にもとめる専門性：香西克之：大阪大学中之島センター（大阪），2010.
- 12： 第 14 回かかりつけ歯科医推進研修会・広島県学校歯科医講演 学校歯科保健における保健教育：香西克之：広島県歯科医師会館（広島），2010.
- 13： 日本外傷歯学会認定医セミナー 小児の口腔外傷と安全教育 香西克之：広島大学歯学部第 5 講義室（広島），2010.
- 14： Clinical treatment of occlusal guidance on Department of Pediatric Dentistry in Hiroshima University Hospital: Kadomoto N.: Special lecture at University of Health Sciences Faculty of Odonto-Stomatology, Phnom Penh, Kingdom of Cambodia, 2010.
- 15： The introduction of my school life and International Dental Course in Hiroshima University: Iwamoto Y.: Special lecture at University of Health Sciences Faculty of Odonto-Stomatology, Phnom Penh, Kingdom of Cambodia, 2010.

（4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1： 科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）：香西克之：口腔内バイオフィルムの除去が小児糖尿病病態因子の改善に及ぼす影響（課題番号 21659475），21 年度 1,000 千円，22 年度 1,100 千円
- 2： 科学研究費補助金基盤研究（B）：香西克之：プラークエコシステムが齲蝕細菌遺伝子に及ぼす影響（課題番号 22390391）. 22 年度：直接経費 7,500 千円（間接経費 2,250 千円）
- 3： 科学研究費補助金（若手研究（B））：角本法子：造血幹細胞移植時の免疫抑制下における 3DS を用いた全身の感染予防プログラムの開発（課題番号 21792073）. 1,170 千円
- 4： 科学研究費補助金（若手研究（B））：太刀掛銘子：歯周病原性菌（*A.a*）の LPS による骨芽細胞分化阻害のメカニズムの解明（課題番号 21792074）. 2,600 千円
- 5： 科学研究費補助金（基盤研究（B））：香西克之：歯周病原性菌の小児口腔内への伝播機序の解明と成人性歯周炎予防対策への展開（課題番号 19390530）. 2,200 千円
- 6： 科学研究費補助金（基盤研究（C））：鈴木淳司：歯周病原性菌（*A. a*）の産生する未知のビルレンス因子。（課題番号 18592236）. 600 千円

- 7： 科学研究費補助金（基盤研究（C））：光畑智恵子：内分泌攪乱物質が発達期の脳ドパミン神経系に及ぼす影響（課題番号 19592354）. 1,500 千円
- 8： 平成 21 年度学部・附属学校共同研究「研究プロジェクト」：林 文子：中学生における歯周疾患実態調査および歯周病原細菌の分布. 96 千円
- 9： 平成 21 年度学部・附属学校共同研究「研究プロジェクト」：海原康孝：小学生の食行動に関する調査および食事指導. 133 千円
- 10： 2009 年度 財団法人 富徳会研究助成金：胡 軼群. 300 千円
- 11： 平成 22 年度学部附属学校共同研究「研究プロジェクト」：林 文子：中学生における歯周疾患実態調査および歯周病原細菌の分布に関する研究. 74 千円
- 12： 平成 22 年度学部・附属学校共同研究「研究プロジェクト」：海原康孝：小学生の口腔保健行動に関する調査および個別指導. 62 千円
- 13： 科学研究費補助金（基盤研究（C））：吉村 剛：小児造血幹細胞移植における小児歯科からの介入（課題番号 22592286）. 2,340 千円
- 14： 2010 年度 財団法人 富徳会海外留学研究助成金：敖敏. 300 千円
- 15： 2010 年度 財団法人 富徳会研究助成金：坪井文. 300 千円

(5)学会賞等の受賞状況

- 1： 大谷聡子：第 48 回日本小児歯科学会優秀発表賞，2010.
- 2： 小西有希子：第 43 回広島大学歯学会総会奨励賞，2010.

(6)特許

[目次へ戻る](#)

口腔健康科学専攻・口腔健康科学講座

(公衆口腔保健学研究室)

(1) 職員並びに学生

教授 : 杉山 勝

講師 : 野宗万喜

講師 : 島津 篤 (学内)

大学院生 : 西村瑠美 (M2), 川井千恵子 (M2), 山下 薫 (M2), 田村 彩 (M1)

(2) 主な研究活動

- 1 : 口腔粘膜疾患と微生物感染との関連についての研究
- 2 : 高齢者の口腔内顔面知覚と口腔機能に関する研究
- 3 : 歯周組織の機能性維持と再生に関する研究
- 4 : 学校歯科保健活動に関する研究

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

- 1 : 口腔衛生学実習の一環として実施した歯科学生による中学生への歯科保健指導—中学生の口腔衛生意識向上とその要因—: 島津 篤, 笹原妃佐子, 河村 誠: 口腔衛生会誌, 60, 104-111, 2010.
- 2 : 歯学部生が行った中学生に対する歯科保健指導の企画・準備・実施体験活動: 島津 篤, 笹原妃佐子, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山 勝, 河村 誠: 日歯教誌, 26(4), 338-344, 2010.
- 3 : 学校歯科健康診断における DF 歯数の診査誤差による変動とその変動の意味—う蝕処置推奨のためのスクリーニング検査としての妥当性—: 笹原妃佐子, 林 文子, 岡田 貢, 島津 篤, 河村 誠, 香西 克之: 口腔衛生会誌, 60, 569-574, 2010.
- 4 : 口腔リハビリテーション学実習の取り組み: 原久美子, 内藤朱美, 野宗万喜, 鶴田圭伊子, 島津 篤, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 竹本俊伸, 杉山 勝, 天野秀昭: 2009 年度歯科衛生士専任教員秋期学術研修会報告集: 85-93: 2010.
- 5 : 歯科衛生士養成校での感染対策教育に伴う学生の感染対策に対する意識と手洗い技術の変

化：石川裕美子，竹本俊伸，久保皓太郎，仁井谷善恵，松本厚枝，原久美子，杉山 勝，天野秀昭：日本歯科衛生学会雑誌，5(1)，57-66，2010.

B) 総説

C) 著書

1：第5章 顎口腔の炎症：杉山 勝，「口腔外科学 第3版」（白砂兼光，古郷幹彦 編），医歯薬出版，東京，p125-162，2010.

D) その他の出版物

1：顎関節異常対応マニュアル：平成22年度8020運動推進特別事業 顎関節症予防事業検討委員会（山崎健次，杉山 勝，安部倉 仁 他），広島県・広島県歯科衛生連絡協議会，p1-21，2010.

2：医歯薬学総合研究科，医・歯・薬学部，保健学研究科における環境教育 口腔衛生学（歯学部歯学科歯学基礎科目）：島津 篤：広島大学環境報告書2009：11-12：2010.

E) 学会発表

1：歯科保健指導の企画・実施体験による教育効果と有効性：島津 篤，笹原妃佐子，河村 誠：第59回日本口腔衛生学会・総会（新潟），2010.

2：マウス歯根形成期におけるアメロブラスチンの役割：廣瀬尚人，島津 篤，渡邊峰朗，伊藤剛志，村崎恭子，高橋拓史，谷本幸太郎，内田 隆，丹根一夫：第69回日本矯正歯科学会大会（横浜），2010.

3：広島大学歯学部口腔健康科学科養護教諭課程選択者の医科外来での基礎看護実習の教育効果に関する検討：野宗万喜，内藤朱美，島津 篤，杉山 勝，仁井谷善恵，松本厚枝，竹本俊伸，鶴田圭伊子，原久美子，天野秀昭：第43回広島大学歯学会総会（広島），2010.

4：高校生と大学生の健康概念に関する調査：西村瑠美，山下薫，杉山勝，原久美子，天野秀昭：第5回日本 歯科衛生学会（千葉），2010.

5：口腔健康科学科専攻生の健康概念に関する実態調査：山下薫，岩本明子，久保皓太郎，川井千恵子，西村瑠美，内藤朱美，野宗万喜，仁井谷善恵，松本厚枝，鶴田圭子，島津 篤，竹本俊伸，杉山勝，原久美子，天野秀昭：第29回日本歯科医学教育学会総会・学術大会（盛岡），2010.

6：学生の自己評価からみた口腔リハビリテーション学実習の授業評価：原久美子，岩本明子，久保皓太郎，川井千恵子，西村瑠美，山下薫，内藤朱美，野宗万喜，仁井谷善恵，松本厚枝，

- 竹本俊伸, 島津篤, 鶴田圭子, 杉山勝, 天野秀昭: 第 29 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (盛岡), 2010.
- 7: 口腔保健衛生学専攻における口腔リハビリテーション学実習について: 原久美子, 鶴田圭伊子, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 竹本俊伸, 野宗万喜, 内藤朱美, 島津 篤, 杉山 勝, 天野秀昭: 第 43 回広島大学歯学会総会 (広島), 2010.
- 8: 歯科衛生士養成の 4 年制大学学生のキャリアに関する意識の横断的調査: 竹本俊伸, 久保皓太郎, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 天野秀昭: 第 29 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (盛岡), 2010.
- 9: カンボジア農村部の小学生児童の口腔内所見について: 森山幸奈, 松添香菜子, 川野沙織, 松本厚枝, 島津 篤, 竹本俊伸, 天野秀昭, 高田 隆: 第 21 回近畿・中国・四国口腔衛生学会総会 (松江), 2010.
- 10: カンボジア農村部の小学生児童の口腔意識調査について: 松添香菜子, 川野沙織, 森山幸奈, 松本厚枝, 島津 篤, 竹本俊伸, 天野秀昭, 高田 隆: 第 21 回近畿・中国・四国口腔衛生学会総会 (松江), 2010.
- 11: カンボジア農村部の小学生児童の唾液検査結果について: 川野沙織, 森山幸奈, 松添香菜子, 松本厚枝, 島津 篤, 竹本俊伸, 天野秀昭, 高田 隆: 第 21 回近畿・中国・四国口腔衛生学会総会 (松江), 2010.
- 12: 歯科医療従事者の音響環境等に関する意識調査: 岩本明子, 笹原姫佐子, 杉山 勝, 天野秀昭: 第 49 回広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会 (広島), 2010.
- 13: 脳血管障害患者に対するナラティブ・アプローチによる看護支援の検討—第 1 報: 中村令子, 石鍋圭子, 藤田あけみ, 野宗万喜, 渡邊知子, 荒木美千子: 第 30 回日本看護科学学会学術集会(札幌), 2010.
- 14: 脳血管障害患者に対するナラティブ・アプローチによる看護支援の検討—第 2 報: 藤田あけみ, 石鍋圭子, 中村令子, 野宗万喜, 渡邊知子, 荒木美千子: 第 30 回日本看護科学学会学術集会(札幌), 2010.

F) 社会貢献

- 1: 杉山 勝: 平成 22 年度広島大学教員免許状更新講習 講師: 口腔のサイエンスと学校歯科保健 Q&A
- 2: 杉山 勝: 平成 22 年度 8020 運動推進事業 顎関節症予防研修会 講師: 「顎関節疾患について考える」, 広島市, 2010 年 8 月 19 日.
- 3: 杉山 勝: 歯科衛生士リカレント教育 (ステップアップコース) 「口腔粘膜病変について学ぼう —ミクロの観点から—」, (広島), 2010 年 8 月 26 日.
- 4: 野宗万喜: 歯科衛生士リカレント教育 (ステップアップコース) 「脳卒中の看護について」, (広島), 2010 年 12 月 16 日.

- 5 : 島津 篤 : カンボジアにおける歯科医療支援活動 (カンボジア), 2010.
- 6 : 島津 篤 : 広島市内中学校における歯科保健活動 (広島), 2010.
- 7 : 島津 篤 : 酸・アルカリ取扱業務従事者歯科健康診査 (広島), 2010.
- 8 : 島津 篤 : 広島大学オーラルヘルスプロジェクト研究センター (広島), 2010.
- 9 : 島津 篤 : 小学生のためのデンタルキッドプロジェクト「歯医者さんになろう！」
: 広島大学歯学部 (広島), 2010.
- 10 : 島津 篤 : 平成 22 年度広島大学高校生公開講座 : 広島大学 (広島), 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1 : 基盤研究 (C) : 島津 篤, 歯周疾患におけるストレス誘導性タンパク質の関与.
課題番号 20592456. 1000 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

口腔健康科学専攻・口腔健康科学講座

(口腔発達機能学研究室)

(1) 職員並びに学生

教授 : 天野 秀昭 (併任: 講座主任)
 講師 : 原 久美子 (併任: 教務主任)
 助教 : 鶴田圭伊子 (平成22年4月より)
 大学院生 : 岩本 明子, 深田 恵里

(2) 主な研究活動

- 1 : 小児の顎・顔面の成長発育に関する研究
- 2 : 小児および障害児(者)の歯科医療に関する研究
- 3 : 学校歯科保健に関する研究
- 4 : 唾液腺機能賦活に関する研究
- 5 : 口腔ケアに関する研究
- 6 : 口腔保健教育に関する研究
- 7 : 食育に関する研究
- 8 : 歯科衛生士リカレント教育に関する研究
- 9 : 歯周病原性細菌の産生する菌体外毒素の産生メカニズムの解明

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

- 1 : 口腔リハビリテーション学実習の取り組み: 原久美子, 内藤朱美, 野宗万喜, 鶴田圭子, 島津篤, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 竹本俊伸, 杉山勝, 天野秀昭: 2009年度 歯科衛生士専任教員秋期学術研修会報告集, 85-93, 2010. 5. 10.
- 2 : 歯科衛生士養成校での感染対策教育に伴う学生の感染対策に対する意識と手洗い技術の変化 (Changes in the Hand-washing Skill and Attitudes According to Infection Control Training Program in Dental Hygienists Education): 石川裕美子, 竹本俊伸, 久保皓太郎, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 杉山勝, 天野秀昭: 日本歯科衛生学会雑誌

5(1), 57-65, 2010. 8. 10.

3 : 歯学部生が行った中学生に対する歯科保健指導の企画・準備・実施体験活動 : 島津 篤, 笹原妃佐子, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山 勝, 河村 誠 : 日本歯科医学教育学会誌 26, 338-344, 2010. 12. 20.

4 : Cytotoxic distending toxin from *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* induces DNA damage, S/G2 cell cycle arrest and caspase-independent death in budding yeast model. Matangasombut O, Wattanawaraporn R, Tsuruda K, Ohara M, Sugai M and Mongkolsku S. *Infection and Immunity*, vol 78, 783-792, 2010.

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

1. 第4回学術大会自由集会まとめ : 原久美子 : 日本歯科衛生学会雑誌 4 (2), 109-110, 2010. 2.

E) 学会発表

1 : 口腔保健衛生学専攻における口腔リハビリテーション学実習について : 原久美子, 鶴田圭伊子, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 竹本俊伸, 内藤朱美, 野宗万喜, 島津篤, 杉山勝, 天野秀昭 : 第43回広島大学歯学会総会 (広島), 2010. 6. 12.

2 : 広島大学歯学部口腔健康科学科養護教諭課程選択者の医科外来での基礎看護実習の教育効果に関する検討 : 野宗万喜, 内藤朱美, 島津篤, 杉山勝, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 竹本俊伸, 鶴田圭伊子, 原久美子, 天野秀昭 : 第43回広島大学歯学会総会 (広島), 2010. 6. 12.

3 : 高校生と大学生の健康概念に関する調査 : 西村瑠美, 山下薫, 杉山勝, 原久美子, 天野秀昭 : 第5回日本歯科衛生学会 (千葉), 2010. 9. 19-20.

4 : 歯科医療従事者の音環境等に関する意識調査 : 岩本明子, 笹原妃佐子, 杉山勝, 天野秀昭 : 第94回広島大学歯学会 (広島), 2010. 10. 24.

5 : 健常高齢者の飴を舐める機能の定量評価 (Quantification of candy-sucking function in healthy elderly) : 土岡寛和, 岡田信輔, 梶原志穂, 西村瑠美, 山下 薫, 丸山真理子, 岡田源太郎, 森川英彦, 林 亮, 原 久美子, 吉川峰加, 吉田光由, 津賀一弘, 赤川安正 (Hirokazu Tsuchioka, Shinsuke Okada, Shiho Kajihara, Rumi Nishimura, Kaoru Yamashita, Mariko Maruyama, Gentaro Okada, Hidehiko Morikawa, Ryo Hayashi, Kumiko Hara, Mineka Yoshikawa, Mitsuyoshi Yoshida, Kazuhiro Tsuga, Yasumasa Akagawa) : 日本顎

口腔機能学会第45回学術大会（埼玉），2010.11.6-8.

F) 講演

- 1：原久美子：「看護部口腔ケア研修会」，医療法人社団更生会草津病院（広島），2010.7.22.
- 2：原久美子：「口腔ケア研究会ひろしま第11期口腔ケア実践セミナー 口腔を清潔にする技術－基礎編－」，口腔ケア研究会ひろしま，（広島），2010.10.16.
- 3：原久美子：「口腔ケア研究会ひろしま第11期口腔ケア実践セミナー 口腔を清潔にする技術－応用編－」，口腔ケア研究会ひろしま，（広島），2010.10.16.
- 4：原久美子：「口腔機能向上プログラムについて」，つながりの会（広島），2010.10.22.
- 5：Hideaki AMANO：Provide Oral health to People on All Life Stages：JADR 58th Annual Meeting（Kokura），2010.11.20.

G) 座長

H) 社会貢献

- 1：平成22年度広島大学高校生公開講座：広島大学（広島），2010.8.
- 2：小学生のためのデンタルキッドプロジェクト「歯医者さんになろう！」，広島大学2010.8.
- 3：通所介護事業所光清苑における口腔機能向上プログラム評価に協力（2010.2月.5月.8月.11月.）
- 4：特定高齢者通所型介護予防事業（廿日市市）における介護予防教室に協力（2010.1月～12月.）

（4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1：平成22年度科学研究費補助金（基盤C一般）：原久美子：安静時唾液量の低下因子の解析と口腔乾燥予備軍の悪化予防処置の開発について。（課題番号21592650）. 800千円.
- 2：平成22年度科学研究費補助金（基盤C一般）：鶴田圭伊子：粘液関連遺伝子制御による感染予防法の開発。（課題番号22592333）. 1600千円.

（5）学会賞等の受賞状況

（6）特許

（7）教育業績

A) 活動

1 : 歯科衛生士リカレント研修会 (2010. 1. ~2010. 12.)

B) 受講

C) 卒業研究指導

- 1 : 広島大学病院小児歯科における初診患児の実態調査 -平成 21 年度初診来院患児の主訴別検討- (武田知佳)
- 2 : 胎児の歯の発生及び口腔組織・形態 (志村菜穂子)
- 3 : 広島大学病院小児歯科における母親教室の実態と参加した保護者の意識について (鉄森琴美)
- 4 : アンチエイジングと抗酸化作用 (佐藤春菜)
- 5 : 食事時計を用いた小児の食生活調査 (谷口綾香)
- 6 : 混合歯列初期の歯並び相談に対応する電子テキストの試作-小野の回帰方程式による永久側方歯群長の予測を用いて- (梅永理紗)
- 7 : お茶カテキンの唾液タンパク質に及ぼす影響-唾液アミラーゼを中心に- (児玉三加子)
- 8 : ブクブクうがいからみた若年者の口腔機能の検討 (溜池みなみ)

(8) 委員

- 1 : 天野秀昭 : 日本歯科医療福祉学会評議員 (2005. 4~)
- 2 : 天野秀昭 : 広島県歯科衛生協議会学校歯科保健部門委員 (2003. 4~)
- 3 : 原久美子 : 日本歯科衛生学会委員 (社団法人日本歯科衛生士会) (2006. 4~)
- 4 : 原久美子 : 日本歯科医療福祉学会評議員 (2008. 1. 1~)
- 5 : 原久美子 : 日本口腔ケア学会評議員 (2004. 4~)
- 6 : 原久美子 : 口腔ケア研究会ひろしま副代表 (1993. 9~)
- 7 : 原久美子 : 日本口腔ケア学会用語委員会委員 (日本口腔ケア学会) (2009. 1~)
- 8 : 原久美子 : 「歯科衛生士用語辞典」編集委員 (医歯薬出版株式会社) (2010. 9~)

[目次へ戻る](#)

口腔健康科学専攻・口腔健康科学講座

(口腔保健管理学研究室)

(1) 職員並びに学生

教授 : 竹本 俊伸
講師 : 松本 厚枝
助教 : 仁井谷善恵
大学院生 : 久保皓太郎

(2) 主な研究活動

- 1 : 歯科衛生士教育に関する研究
- 2 : 歯科衛生士の職務に関する研究
- 3 : 学生のキャリア形成に関する研究
- 4 : 口腔リラクゼーション法に関する研究
- 5 : 唾液流出量と情動に関する研究
- 6 : カウンセリング教育に関する研究
- 7 : 歯科医療における感染予防対策に関する研究
- 8 : 口臭に関する研究

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

- 1 : 歯科衛生士養成校での感染対策教育に伴う学生の感染対策に対する意識の変化と手洗い技術の変化 : 石川裕美子, 竹本俊伸, 久保皓太郎, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 杉山勝, 天野秀昭 : 日本歯科衛生学会雑誌, 5(1), 57-66, 2010.
- 2 : 歯学部学生が行った中学生に対する歯科保健指導の企画・準備・実施体験活動 : 島津篤, 笹原妃佐子, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 河村誠 : 日本歯科医学教育学会雑誌, 26(3), 337-343, 2010.

C) 著書

- 1 : 臨床実習 HAND BOOK : 眞木吉信, 藤原愛子, 高阪利美, 石井美和子, 泉野裕美, 石川裕子, 伊藤努, 稲本浩, 植田耕一郎, 遠藤圭子, 大谷賢二, 大西淑美, 亀井由希子, 小泉寛恭, 小林慶介, 齊藤朱美, 佐藤秀一, 品田佳世子, 清水治, 須崎明, 田中丸治宣, 戸原玄, 中野恵美子, 永野千恵子, 仁井谷善恵, 白田チヨ, 平野滋三, 福島正義, 船奥律子, 吉田陽子, 吉沼直人, 和田久子, クインテッセンス出版, 2010.
- 2 : 歯科診療における感染予防の手順とオーダー : ICHG 研究会編, 編集者 : 新井裕子, 金田一純子, 栗原英見, 杉山香代子, 仁井谷善恵, 波多江新平, 藤田直久, 村山郁子, 山之上弘樹, 吉野宏, 医歯薬出版株式会社, 2010.

D) その他の出版物

- 1 : 口腔リハビリテーション学実習の取り組み : 原久美子, 内藤朱実, 野宗万喜, 鶴田佳伊子, 島津篤, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 竹本俊伸, 杉山勝, 天野秀昭, 2009 年度歯科衛生士専任教員秋期学術研修会報告集, P85-93, 2010.
- 2 : 松本厚枝 : カンボジア保健医療支援派遣団に参加して, バイオデンティスト育成プログラム 報告書 広島大学大学院医歯薬学総合研究科平成 21 年度大学院教育改革支援プログラム, P133, 2010.

E) 学会発表

- 1 : 歯科衛生士養成の 4 年制大学学生のキャリアに関する意識の横断的調査 : 竹本俊伸, 久保皓太郎, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原久美子, 野宗万喜, 杉山勝, 天野秀昭, 第 29 回日本歯科医学教育学会 (盛岡), 2010.
- 2 : 歯科衛生士養成の 4 年制大学における, 在学時の希望進路と卒後の進路の縦断的解析 : 久保皓太郎, 竹本俊伸, 第 29 回日本歯科医学教育学会 (盛岡), 2010.
- 3 : 松本厚枝, 竹本俊伸, 貞森紳丞 : 口腔保健学科生を対象とした口腔保健カウンセリング実習に関する質問紙調査, 日本歯科心身医学会設立 25 周年記念総会・学術大会, (広島), 2010.
- 4 : 松本厚枝, 藤原奈津美, 島津篤, 天野秀昭, 森山幸奈, 松添香菜子, 川野沙織, 柄俊彦, 足利奈々, 岩本明子, 大前侑子, 香西克之, 西村英紀, 高田隆 : カンボジアの小学校における国際歯科支援活動の報告—口腔保健学科生のかかわりについて—, 日本歯科衛生学会第 5 回学術大会, (千葉) 2010.
- 5 : 森山幸奈, 松添香菜子, 川野沙織, 松本厚枝, 島津篤, 竹本俊伸, 天野秀昭, 高田隆 : カンボジア農村部の小学校児童の口腔内所見について. 第 21 回日本口腔衛生学会近畿・中国・四国地方会総会. (島根) 2010.
- 6 : 松添香菜子, 川野沙織, 森山幸奈, 松本厚枝, 島津篤, 竹本俊伸, 天野秀昭, 高田隆 : カンボジア農村部の小学校児童の口腔意識調査について. 第 21 回日本口腔衛生学会近畿・中国・四国地方会総会, (島根), 2010.
- 7 : 川野沙織, 森山幸奈, 松添香菜子, 松本厚枝, 島津篤, 竹本俊伸, 天野秀昭, 高田隆 : カン

ボジア農村部の小学校児童の唾液検査結果について. 第 21 回日本口腔衛生学会近畿・中国・四国地方会総会, (島根), 2010.

- 8 : 原久美子, 鶴田圭伊子, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 竹本俊伸, 野宗万喜, 内藤朱実, 島津篤, 杉山勝, 天野秀昭: 口腔保健衛生学専攻における口腔リハビリテーション学実習について, 第 43 回広島大学歯学会総会, (広島) 2010.
- 9 : 野宗万喜, 内藤朱実, 島津篤, 杉山勝, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 竹本俊伸, 鶴田圭伊子, 原久美子, 天野秀昭: 広島大学歯学部口腔健康科学科養護教諭課程選択者の医科外来での基礎看護学実習の教育効果に関する検討, 第 43 回広島大学歯学会総会, (広島) 2010.
- 10 : デンタルユニットから検出された従属栄養細菌の分析: 仁井谷善恵, 應原一久, 日野孝宗, 柴秀樹, 河口浩之, 栗原英見, 第 43 回広島大学歯学会 (広島), 2010.
- 11 : Detection of Heterotrophic Bacteria in Dental Unit Waterlines : Niitani Y, Hino T, Ouhara K, Hayashida K, Shiba H, Kawaguchi H, Kurihara H, 第 2 回バイオデンティスト育成プログラム国際ワークショップ (広島), 2010.

F) 講演など

- 1 : 4 年制大学の歯科衛生士は何のために研究能力を習得するか?: 竹本俊伸: 第 59 回日本口腔衛生学会・総会 パネルディスカッション「歯科衛生士養成教育・生涯研修における研究力強化を考える」(新潟), 2010.
- 2 : 歯科衛生学 3 : 仁井谷善恵: 全国歯科衛生士教育協議会平成 22 年度歯科衛生士専任教員講習会 I (愛知), 2010.
- 3 : 口腔に関する講話と集団歯磨き指導: 松本厚枝: 「保育所地域活動事業の一環である育児講座」社会福祉法人微妙福祉会 段原みみょう保育園 (広島), 2010.
- 4 : 口腔に関する講話と集団歯磨き指導: 松本厚枝: 「保育所地域活動事業の一環である育児講座」社会福祉法人微妙福祉会 みみょう保育園 (広島), 2010.
- 5 : 妊産婦と赤ちゃんの口腔ケア: 松本厚枝: 広島大学病院 産婦人科外来 妊産婦教室 (広島) 2010.
- 6 : 廿日市特定高齢者通所型介護予防事業: 松本厚枝: 廿日市アイプラザ (広島) 2010.
- 7 : 廿日市特定高齢者通所型介護予防事業: 松本厚枝: 大野福祉センター (広島) 2010.

G) 社会貢献

- 1 : デンタルキッドプロジェクト「歯医者さんになろう!」: 広島大学歯学部 (広島), 2010.
- 2 : 教員免状更新講習「口腔のサイエンスと学校歯科保健 Q&A」: 竹本俊伸, 天野秀昭, 杉山勝: 広島大学 (広島) 2010.
- 3 : 歯科衛生士試験委員会 幹事委員会: 松本厚枝: 財団法人歯科医療研修振興財団 (東京)

2010.

- 4 : 日本口腔衛生学会近畿・中国・四国地方会幹事 : 松本厚枝 : 日本口腔衛生学会近畿・中国・四国地方会幹事会 (島根) 2010.
- 5 : 認定歯科衛生士委員会 : 松本厚枝 : 日本歯科衛生士会 (東京) 2010.
- 6 : 日本歯科衛生学会編集委員会 : 松本厚枝 : 日本歯科衛生学会 (東京) 2010
- 7 : 国際歯科医療支援活動 平成 21 年度第 2 回 : 松本厚枝 (カンボジア) 2010.
- 8 : 国際歯科医療支援活動 平成 22 年度第 1 回 : 松本厚枝 (カンボジア) 2010.
- 9 : 全国歯科衛生士教育協議会教育委員会 : 仁井谷善恵 : 全国歯科衛生士教育協議会 (東京) 2010.
- 10 : 国立大学附属病院感染対策協議会歯科医療作業部会委員 : 仁井谷善恵 : 2010 年中国四国ブロック研修会 (岡山) 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1 : 科学研究費補助金(基盤研究(C)) : 松本厚枝, 口腔を用いたリラクゼーションのストレス予防効果に関する研究 : 課題番号 21592649

[目次へ戻る](#)

口腔健康科学専攻・口腔健康科学講座 (生体構造・機能修復学研究室)

(1) 職員並びに学生

教授 : 里田隆博
講師 : 下江幸司
大学院生 : 草野顕太, 荒木結子, 岩畔将吾

(2) 主な研究活動

- 1 : 解剖学教育用模型の開発
- 2 : 咀嚼運動を制御する脳内ニューロンの形態学的研究
- 3 : 審美歯科複合材料に関する研究
- 4 : 新規歯科用セラミックの新しい臨床応用に関する研究
- 5 : 3D データを用いた客観的な評価に関する研究

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

- 1 : Evaluation of single liquid primers with organic sulfur compound for bonding between indirect composite material and silver-palladium-copper-gold alloy: Shimoe S, Tanue N, Satoda T, Murayama T, Nikawa H, Matsumura H: Dental Materials Journal; 29(1): 25-29, 2010.
- 2 : 非接触式三次元形状計測装置を用いた歯型彫刻作品の客観的評価の試み — 体積と特徴点のずれの定量化 — : 木原拓也, 下江幸司, 二川浩樹, 村山 長, 牧平清超, 里田隆博, 玉本光弘, 河原和子, 笹原妃佐子, 熊谷 宏: 日本歯科医学教育学会雑誌, 第 26 卷, 第 2 号, pp. 248-252, 2010.

B) 総説

C) 著書

- 1 : 新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」: 末瀬一彦, 松村英雄, 丸茂義二, 雲野泰史, 下江宰司: 医歯薬出版, 東京, 174 頁, 2007〜.
- 2 : 新歯科技工士教本「歯科技工実習」: 金井正行, 桑田正博, 下江宰司, 前田芳信, 松村英雄, 三浦宏之他, 医歯薬出版, 東京, 207 頁, 2008〜.

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1 : 眼球機能模型の製作: 里田隆博, 本多宏美, 有馬陽介, 弘瀬公美子, 下江宰司: 第 115 回日本解剖学会総会・全国学術集会 (盛岡), 2010.
- 2 : 舌骨上筋群舌骨下筋群模型の製作: 西田博樹, 弘瀬公美子, 京田蘭香, 下江宰司, 里田隆博: コ・メディカル形態機能学会第 9 回学術集会 (新潟), 2010.
- 3 : 舌骨上筋群説舌骨下筋群機能模型の製作: 西田博樹, 弘瀬公美子, 京田蘭香, 有馬陽介, 下江宰司, 里田隆博: 日本解剖学会第 65 回中国四国支部学術集会 (呉), 2010.
- 4 : 顔面形成模型の製作: 弘瀬公美子, 西田博樹, 京田蘭香, 有馬陽介, 下江宰司, 里田隆博: 日本解剖学会第 65 回中国四国支部学術集会 (呉), 2010.
- 5 : ジルコニアと歯冠用コンポジットレジンへの接着における熱処理の影響: 草野頭太, 下江宰司, 岡崎正之, 田上直美, 松村英雄: 第 56 回日本歯科技工学会学術講演会 (岐阜), 2010.
- 6 : ジルコニアフレームとコンポジットレジンへの接着におけるサンドブラスト処理の影響: 荒木結子, 下江宰司, 里田隆博, 田上直美, 松村英雄: 日本歯科技工学会第 32 回学術大会 (名古屋), 2010.
- 7 : ジルコニアの前処理が陶材の焼付強度に及ぼす影響: 岩畔将吾, 下江宰司, 里田隆博, 千葉祐嗣, 玉本光弘, 村山 長, 二川浩樹: 日本歯科技工学会第 32 回学術大会 (名古屋), 2010.
- 8 : 床用レジンとジルコニアへの接着における表面処理の効果: 千葉祐嗣, 下江宰司, 里田隆博, 岩畔将吾, 玉本光弘, 河原和子: 日本歯科技工学会第 32 回学術大会 (名古屋), 2010.
- 9 : 三次元形状データを用いた歯型彫刻作品の客観的評価-臼歯の評価-: 京田蘭香, 木原琢也, 下江宰司, 河原和子, 村山 長, 里田隆博, 二川浩樹: 日本歯科技工学会第 32 回学術大会 (名古屋), 2010.
- 10 : 三次元形状データを用いた歯型彫刻作品の客観的評価 -主観的評価との比較- : 木原琢也, 下江宰司, 二川浩樹, 牧平清超, 玉本光弘, 里田隆博, 村山 長, 笹原妃佐子, 河原和子, 熊谷 宏: 日本歯科技工学会第 32 回学術大会 (名古屋), 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1 : 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 継続: 下江宰司, 生体にやさしい高分子複合型ジルコ

ニアクラウンの開発. 課題番号 21592453. 1,200 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

1: 津村希望: 日本歯科技工学会第 32 回学術大会テクニカルコンテスト 銀賞 2010, 11, 6

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

口腔健康科学専攻・口腔健康科学講座
(医療システム・生体材料工学研究室)

(1) 職員並びに学生

教授 : 村山 長

准教授 : 玉本光弘

大学院生 : 宮本 梢, 矢内啓太, 友成奈悟, 川上真奈

卒研究生 : 工 裕大, 日高 強, 川口真奈, 小笠原将峰, 和田 薫, 千葉真也, 石津航希,
大野公誠, 島崎摂理, 林田圭介, 山口明日美

(2) 主な研究活動

- 1 : CAD/CAM, ラピッドプロトタイピングの歯科医療への応用
- 2 : コンカレントエンジニアリングを適用した修復物の設計・製作
- 3 : 歯科医療のための3Dモデリングとコンピュータ・シミュレーション
- 4 : 治療用・保護用口腔装具の開発と臨床応用
- 5 : 審美歯科に関する研究
- 6 : 歯科医学教育に関する研究
- 7 : センサーを用いた歯科技工作業の技能分析
- 8 : シミュレーションによる歯科技工プロセスの分析
- 9 : スポーツ歯科(マウスガード)に関する研究
- 10 : 音楽歯科(アダプター)に関する研究

(3) 研究業績

A) 原著(症例報告を含む)

- 1 : Evaluation of single liquid primers with organic sulfur compound for bonding between indirect composite material and silver-palladium-copper-gold alloy: Saiji SHIMOE, Naomi TANOUE, Takahiro SATODA, Takeshi MURAYAMA, Hiroki NIKAWA, Hideo MATSUMURA: Dent Mater J, 29(1), 25-29, 2010.
- 2 : Three-dimensional finite element analysis of cartilaginous tissues in human temporomandibular joint during prolonged clenching: Hiroko Mori, Shinya Horiuchi, Satoshi Nishimura; Hiroki Nikawa, Takeshi Murayama, Kanji Ueda, Daiichi Ogawa; Shingo Kuroda, Fumiaki Kawano, Hisashi Naito,

Masao Tanaka, Jan Harm Koolstra, Eiji Tanaka: Archives of Oral Biology, 55, 879-886, 2010.

- 3 : 非接触式三次元形状計測装置を用いた歯型彫刻製作物の客観的評価の試み—体積と特徴点のずれの定量化— : 木原琢也, 下江宰司, 二川浩樹, 村山 長, 牧平清超, 里田隆博, 玉本光弘, 河原和子, 笹原妃佐子, 熊谷 宏 : 日本歯科医学教育学会雑誌, 26(2), 248-252, 2010.
- 4 : 口腔領域で使用される放射線治療補助装置—舌癌放射線組織内治療補助装置 (スぺーサー)— : 玉本光弘 : 日本歯技, No.498, 33-40, 2010.

B) 総説

- 1 : 歯科用 CAD/CAM の動向 : 村山 長 : 広島市歯科医師会「太田川」, 2010.

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1 : 三次元形状データを用いた歯型彫刻作品の客観的評価 : 木原琢也, 二川浩樹, 下江宰司, 村山 長, 里田隆博, 牧平清超, 玉本光弘, 笹原妃佐子, 河原和子, 熊谷 宏 : 平成 22 年度日本補綴学会中国・四国支部学術大会 (徳島), 2010.
- 2 : 歯科用 CAD/CAM のための支台歯評価システムの開発 : 川上真奈, 宮本梢, 柳橋萌, 村山 長, 玉本光弘, 江口透 : 2010 年度精密工学会中国四国支部- 徳島地方学術講演会 - (徳島), 2010.
- 3 : 紫外線と人工汗によるシリコーン系顎顔面補綴用材料の寸法変化に及ぼす影響 : 川口真奈, 歌岡 緑, 玉本光弘, 森下裕司, 二川浩樹, 村山 長, 里田隆博 : 日本歯科技工学会第 3 2 回学術大会 (名古屋), 2010.
- 4 : 紫外線と人工汗がシリコーン系顎顔面補綴用材料の色調変化に及ぼす影響 : 歌岡 緑, 川口真奈, 二川浩樹, 森下裕司, 玉本光弘, 村山 長, 里田隆博 : 日本歯科技工学会第 3 2 回学術大会 (名古屋), 2010.
- 5 : 歯科用 CAD/CAM により作製した歯冠修復物の適合性向上の試み : 立畠一樹, 玉本光弘, 村山 長, 下江宰司, 里田隆博, 二川浩樹, 牧平清超 : 日本歯科技工学会第 3 2 回学術大会 (名古屋), 2010.
- 6 : ジルコニアの前処理が陶材の焼付強度に及ぼす影響 : 岩畔将吾, 下江宰司, 里田隆博, 千葉祐嗣, 玉本光弘, 村山 長, 二川浩樹 : 日本歯科技工学会第 3 2 回学術大会 (名古屋), 2010.
- 7 : 三次元形状データを用いた歯型彫刻作品の客観的評価—臼歯部評価の検討— : 京田蘭香, 木原琢也, 下江宰司, 河原和子, 村山 長, 里田隆博, 二川浩樹 : 日本歯科技工学会第 3 2

回学術大会（名古屋），2010.

- 8：三次元形状データを用いた歯型彫刻作品の客観的評価 —主観的評価との比較—：木原琢也，下江宰司，二川浩樹，牧平清超，村山 長，里田隆博，玉本光弘，笹原妃佐子，河原和子，熊谷 宏：日本歯科技工学会第32回学術大会（名古屋），2010.
- 9：モーションキャプチャーを用いた歯科技工作業の技能分析：日高 強，村山 長，木原琢也，下江宰司，玉本光弘，里田隆博，二川浩樹：日本歯科技工学会第32回学術大会（名古屋），2010.
- 10：CADと3Dプリンターを用いた耳介エピテーゼの製作：小笠原将峰，村山 長，木原琢也，玉本光弘，森下裕司，永見美鈴，江口 透，牧平清超，下江宰司，里田隆博：第94回広島大学歯学会例会（広島），2010.
- 11：Visual SLAMを用いたラボの作業シミュレーション：千葉真也，村山 長，立畠一樹，玉本光弘，江口 透，笹原妃佐子，河原和子，田地 豪，二川浩樹：第94回広島大学歯学会例会（広島），2010.
- 12：マウスガードの保管による物性・適合力の変化：石津航希，玉本光弘，村山 長，木原琢也，下江宰司，牧平清超，笹原妃佐子，河原和子，里田隆博，二川浩樹：第94回広島大学歯学会例会（広島），2010.

（4）科学研究費補助金等の受領状況

（5）学会賞等の受賞状況

- 1：川上真奈：歯科用CAD/CAMのための支台歯評価システムの開発，2010年度 精密工学会中国四国支部学術講演会 優秀講演賞（2010.11）

（6）特許

[目次へ戻る](#)

口腔健康科学専攻・口腔健康科学講座

(口腔生物工学研究室)

(1) 職員並びに学生

教授	: 二川浩樹 (*) 診療支援部歯科技工室長
准教授	: 牧平清超 (H22. 9, 九州大学転出)
講師	: 笹原妃佐子, 田地 豪 (H22. 10-)
助教	: 河原和子
特任助教	: 峯 裕一 (H22. 11-, バイオデンタル教育)
事務補佐員	: 蔭地美紀
教育研究補助職員	: 田口香織
大学院生	: 今利直也, 大前侑子, 木原琢也, 首藤崇裕, 高橋愛里, 穂垣幸枝 檜山あや, 峯 裕一, 三村純代, 山田阿津沙, 石井仁美, 岩田 慧, 上原文子 (H22. 4-H22. 8), 大倉恵美, 岡崎昌太, 河村 卓, 高本祐子, 高山幸宏
卒業研究生	: 岡村美菜子, 片渕由扶子, 新川美那子, 田村智哉, 平松美菜子, 福田梨絵, 諸岡英里, 山口 裕, 柚下香織, 梶原ひとみ, 片山亜沙美, 黒瀬めぐみ, 芝 真央, 田中秀貴, 戸田彩音, 富山由布, 村岡由加里, 山本奈津美, 山本祐輔

(2) 主な研究活動

- 1 : 歯科材料アレルギーの材料学的研究
- 2 : カンジダバイオフィルムとデンチャープラークの研究
- 3 : プロバイオティクスを応用したう蝕予防の研究
- 4 : 塩基性抗菌性ペプチドの設計
- 5 : 塩基性抗菌性ペプチドを応用した間葉系幹細胞の大量増殖の研究
- 6 : 歯槽骨吸収機構の解明
- 7 : 骨吸収抑制剤の開発
- 8 : 新規インプラント材料の開発

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

- 1 : Impact of titanium ions on osteoblast-, osteoclast- and gingival epithelial-like cells. : Mine Y, Makihira S, Nikawa H, Murata H, Hosokawa R, Hiyama A, Mimura S. : Journal of Prosthodontic Research. 54:1-6. 2010
- 2 : Immobilized-OPG-Fc on a titanium surface inhibits RANKL-dependent osteoclast differentiation in vitro. : Makihira S, Mine Y, Nikawa H, Shuto T, Kosaka E, Sugiyama M, Hosokawa R. : Journal of Materials Science: Materials in Medicine. 21:647-53. 2010
- 3 : Evaluation of single liquid primers with organic sulfur compound for bonding between indirect composite material and silver-palladium-copper-gold alloy. : Shimoe S, Tanoue N, Satoda T, Murayama T, Nikawa H, Matsumura H. : Dental Materials Journal. 29:25-9. 2010
- 4 : Titanium immobilized with an antimicrobial peptide derived from histatin accelerates the differentiation of osteoblastic cell line, MC3T3-E1. : Makihira S, Shuto T, Nikawa H, Okamoto K, Mine Y, Takamoto Y, Ohara M, Tsuji K. : International Journal of Molecular Sciences. 11:1458-70. 2010
- 5 : Differentiation Capability Evaluation of Osteoblast by Functionalized DLC Thin Films with Plasma Processing. : Okamoto K, Nakatani T, Nitta Y, Makihira S, Iwata S, Nikawa H, Takahagi T : Journal of Photopolymer Science and Technology. 23:591-94. 2010
- 6 : Compatibility of tissue conditioners and denture cleansers: influence on surface conditions. : Murata H, Chimori H, Hong G, Hamada T, Nikawa H. : Dental Materials Journal. 29:446-53. 2010
- 7 : Titanium ion induces necrosis and sensitivity to lipopolysaccharide in gingival epithelial-like cells. : Makihira S, Mine Y, Nikawa H, Shuto T, Iwata S, Hosokawa R, Kamoi K, Okazaki S, Yamaguchi Y. : Toxicology in Vitro. 24:1905-10. 2010
- 8 : Three-dimensional finite element analysis of cartilaginous tissues in human temporomandibular joint during prolonged clenching. : Mori H, Horiuchi S, Nishimura S, Nikawa H, Murayama T, Ueda K, Ogawa D, Kuroda S, Kawano F, Naito H, Tanaka M, Koolstra JH, Tanaka E. : Archives of Oral Biology. 55:879-86. 2010
- 9 : Growth factor-defined culture medium for human mesenchymal stem cells : Mimura S., Kimura N., Hirata M., Tateyama D., Hayashida M., Umezawa A., Kohara A., Nikawa H., Okamoto T., Furue M. K.. International Journal of Developmental Biology (in press)
- 10 : Takeda K, Sakai N, Shiba H, Nagahara T, Fujita T, Kajiya M, Iwata T, Matsuda S, Kawahara K, Kawaguchi H, Kurihara H : Characteristics of High Molecular Weight Hyaluronic Acid as a BDNF Scaffold in Periodontal Tissue Regeneration. Tissue Engineering PartA (in

press)

- 11 : 非接触式三次元形状計測装置を用いた歯型彫刻製作物の客観的評価の試み—体積と特徴点のずれの定量化— : 木原琢也, 下江宰司, 二川浩樹, 村山 長, 牧平清超, 里田隆博, 玉本光弘, 河原和子, 笹原妃佐子, 熊谷 宏. : 日本歯科医学教育学会雑誌. 26:248-252. 2010
- 12 : 口腔由来乳酸菌株による mutans streptococci に対する抗菌性に関する研究 : 檜山あや, 二川浩樹, 牧平清超, 三村純代, 高本祐子, 峯 裕一, 野宗万喜. : 機能食品と薬理栄養 6:157-62. 2010
- 13 : むし歯菌・歯周病菌を抑制する乳酸菌を用いたヨーグルトの開発 : 檜山あや, 高本祐子, 二川浩樹, 牧平清超, 三村純代, 大前侑子, 柚下香織, 平松美菜子, 田村智哉 : 食品工業別冊, (Vol. 53 No. 6), 62-68, 2010
- 14 : インフルエンザの拡大リスクを軽減する化合物 : 二川浩樹, 柚下香織, 平松美菜子, 坂口剛正 : ケミカルエンジニアリング Vol155. No. 8 .41-47, 2010

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1 : Study on the function of Na⁺/H⁺ exchanger 10 in Osteoclast Cell - Contribution of Microarray Analysis Support - : Seicho Makihiro, Hiroki Nikawa, Yuichi Mine, Yu Yamaguchi : INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON THE INNOVATION FOR HEALTH AND SUSTAINABLE LIFE (Hiroshima), 2010
- 2 : RANKL に依存した RAW264. 7 細胞の成熟破骨細胞への分化過程における Na⁺/H⁺ exchanger 10 の役割 : 峯 裕一, 牧平清超, 二川浩樹, 山口 裕, 岡崎昌太, 河原和子 : 日本組織培養学会第 83 回大会 (岡山), 2010
- 3 : TGF-β1 は未分化性と多分化能を維持したヒト間葉系幹細胞増殖を促進する : 三村純代, 木村直大, 平田みつひ, 舘山大輝, 林田みどり, 小原有弘, 岡本哲治, 二川浩樹, 古江一楠, 田美保 : 日本組織培養学会第 83 回大会 (岡山), 2010
- 4 : 顎堤骨吸収における Na⁺/H⁺ exchanger 10 の関与 : 峯 裕一, 牧平清超, 二川浩樹, 山口 裕, 岡崎昌太 : 社団法人日本補綴歯科学会第 119 回学術大会 (東京), 2010
- 5 : 周期的伸展刺激が骨芽細胞と破骨細胞の分化に与える影響 : 山口 裕, 牧平清超, 峯 裕一, 二川浩樹, 岡崎昌太 : 社団法人日本補綴歯科学会第 119 回学術大会 (東京), 2010
- 6 : Residual Periodontal Ligament Index の考案 : 阿部泰彦, 田地 豪, 日浅 恭, 岡崎洋平,

- 津賀一弘, 赤川安正: 社団法人日本補綴歯科学会第 119 回学術大会 (東京), 2010
- 7 : HAp および CO₃Ap の結晶学的性質に及ぼす Sr²⁺イオンの影響: 大戸敬之, 平田伊佐雄, 野村雄二, 錦織 良, 峯 裕一, 二川浩樹, 岡崎正之: 第 43 回広島大学歯学会総会 (広島), 2010
- 8 : 市販人工唾液の抗菌性評価: 石井仁美, 大倉恵美, 高本祐子, 高山幸宏, 二川浩樹, 牧平清超, 熊谷 宏: 平成 22 年度社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部総会・学術大会 (広島), 2010
- 9 : Biomimetic DLC 処理したチタンが骨芽細胞と破骨細胞の分化に与える影響: 岩田 慧, 牧平清超, 二川浩樹, 高萩隆行, 岡本圭司, 熊谷 宏, 首藤崇裕, 峯 裕一: 平成 22 年度社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部総会・学術大会 (香川), 2010
- 10 : 市販人工唾液の物性評価: 大倉恵美, 石井仁美, 高本祐子, 高山幸宏, 二川浩樹, 牧平清超, 熊谷 宏: 平成 22 年度社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部総会・学術大会 (香川), 2010
- 11 : 総義歯の重合変形に関する研究: 片瀧由扶子, 木原琢也, 牧平清超, 二川浩樹, 熊谷 宏: 平成 22 年度社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部総会・学術大会 (香川), 2010
- 12 : 三次元形状データを用いた歯型彫刻作品の客観的評価: 木原琢也, 二川浩樹, 下江幸司, 村山 長, 里田隆博, 牧平清超, 玉本光弘, 笹原妃佐子, 河原和子, 熊谷 宏: 平成 22 年度社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部総会・学術大会 (香川), 2010
- 13 : ズウザメゲノム情報とヒトの歯関連遺伝子の bioinformatics 解析: 新川美那子, 二川浩樹, 小原 勝, 牧平清超, 河原和子: 平成 22 年度社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部総会・学術大会 (香川), 2010
- 14 : ハイドロキシアパタイトの抗菌化のための洗口剤の試作: 平松美菜子, 高本祐子, 石井仁美, 大倉恵美, 牧平清超, 二川浩樹, 熊谷 宏: 平成 22 年度社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部総会・学術大会 (香川), 2010
- 15 : Etak[®]を付加した繊維製品の抗ウイルス能評価法の確立: 柚下香織, 二川浩樹, 坂口剛正, 熊谷 宏: 平成 22 年度社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部総会・学術大会 (香川), 2010
- 16 : ハイドロキシアパタイトの抗菌化のための洗口剤の試作: 平松美菜子, 高本祐子, 石井仁美, 大倉恵美, 牧平清超, 二川浩樹: 日本防菌防黴学会第 37 回年次大会 (東京), 2010
- 17 : お茶ゼリーのテクスチャー解析および抗菌性・官能評価: 諸岡英里, 石井仁美, 柚下香織, 平松美菜子, 高本祐子, 二川浩樹, 牧平清超, 熊谷 宏, 栗原英見: 日本防菌防黴学会第 37 回年次大会 (東京), 2010
- 18 : 総義歯の重合変形に関する研究: 木原琢也, 片瀧由扶子, 二川浩樹, 牧平清超, 熊谷 宏: 第 56 回日本歯科理工学会学術講演会 (岐阜), 2010
- 19 : Visual SLAM を用いたラボの作業シミュレーション: 千葉真也, 村山 長, 立畠一樹, 玉本光弘, 江口 透, 笹原妃佐子, 河原和子, 田地 豪, 二川浩樹: 第 49 回広島県歯科医学会第 94 回広島大学歯学会 (広島), 2010.
- 20 : 新しい残存歯咬合支持能力指数の開発—ブリッジの支台歯選択への応用—: 野上敬介, 阿部泰彦, 水町 亘, 田地 豪, 日浅 恭, 岡崎洋平, 石田秀幸, 津賀一弘, 赤川安正: 第 49 回広島県歯科医学会第 94 回広島大学歯学会 (広島), 2010
- 21 : 塩基性繊維芽細胞増殖因子の cDNA クローニングと大腸菌での発現: 岡村美菜子, 小原 勝, 二川浩樹, 牧平清超, 河原和子, 新川美那子: 第 32 回日本歯科技工学会学術大会 (愛知), 2010
- 22 : 総義歯の重合変形に関する研究: 片瀧由扶子, 田口香織, 木原琢也, 牧平清超, 二川浩樹: 第 32 回日本歯科技工学会学術大会 (愛知), 2010
- 23 : 三次元形状データを用いた歯型彫刻作品の客観的評価—主観的評価との比較—: 木原琢也, 下江幸司, 二川浩樹, 牧平清超, 村山 長, 里田隆博, 玉本光弘, 笹原妃佐子, 河原和子, 熊谷 宏: 第 32 回日本歯科技工学会学術大会 (愛知), 2010
- 24 : ズウザメゲノム情報とヒトの歯関連遺伝子の bioinformatics 解析: 新川美那子, 二川浩樹, 小原 勝, 牧平清超, 河原和子: 第 32 回日本歯科技工学会学術大会 (愛知), 2010
- 25 : ハイドロキシアパタイトの抗菌化のための洗口剤の試作: 平松美菜子, 高本祐子, 石井仁美, 大倉恵美, 牧平清超, 二川浩樹: 第 32 回日本歯科技工学会学術大会 (愛知), 2010

- 26 : お茶ゼリーのテクスチャー解析および抗菌性・官能評価 : 諸岡英里, 石井仁美, 柚下香織, 平松美菜子, 高本祐子, 二川浩樹, 牧平清超, 栗原英見 : 第 32 回日本歯科技工学会学術大会 (愛知), 2010
- 27 : 市販人工唾液の抗菌性評価 : 石井仁美, 大倉恵美, 高本祐子, 高山幸宏, 二川浩樹, 牧平清超, 熊谷 宏 : 第 32 回日本バイオマテリアル学会大会
- 28 : 市販人工唾液の物性評価 : 大倉恵美, 石井仁美, 高本祐子, 高山幸宏, 二川浩樹, 牧平清超, 熊谷 宏 : 第 32 回日本バイオマテリアル学会大会
- 29 : 口腔インプラントに固定化した新規塩基性抗菌ペプチド(JH8194)の骨増生効果 Part I in vitro 解析 : 首藤崇裕, 二川浩樹, 牧平清超, 峯 裕一, 西村正宏 : 第 32 回日本バイオマテリアル学会大会 (広島), 2010
- 30 : 口腔インプラントに固定化した新規塩基性抗菌ペプチド(JH8194)の骨増生効果 Part II in vivo 解析 : 竹田美佳, 坂井将典, 牧平清超, 西村正宏, 坂井裕大, 首藤崇裕, 峯 裕一, 岩田 慧, 今利直也, 末廣史雄, 二川浩樹, 辻紘一郎 : 第 32 回日本バイオマテリアル学会大会 (広島), 2010
- 31 : *Candida* 属の組み合わせがバイオフィルム形成に与える影響 : 高本祐子, 高山幸宏, 石井仁美, 大倉恵美, 二川浩樹, 牧平清超, 熊谷 宏 : 日本バイオマテリアル学会第 32 回学術大会 (広島), 2010
- 32 : 義歯床用レジン表面处理による抗菌加工の試み : 高山幸宏, 高本祐子, 大倉恵美, 石井仁美, 二川浩樹, 牧平清超, 熊谷 宏 : 第 32 回日本バイオマテリアル学会大会 (広島), 2010
- 33 : アパタイト結晶内へのストロンチウムの置換 : 大戸敬之, 平田伊佐雄, 錦織 良, 野村雄二, 峯 裕一, 二川浩樹, 岡崎正之 : 第 32 回日本バイオマテリアル学会大会 (広島), 2010
- 34 : CaCl₂水溶液を用いて水熱処理した金属チタンの細菌付着性 : 高本 愛, 武知正晃, 太田耕司, 鎌田伸之, 都留寛治, 石川邦夫, 峯 裕一, 高本祐子, 二川浩樹 : 第 32 回日本バイオマテリアル学会大会 (広島), 2010
- 35 : PRECEDE-PROCEED Model modification in community-based oral health promotion in Japan : Kawamura M, Komabayashi T, Sasahara H, Taguchi N, Ogawa T : *The AADR Annual Meeting* (Washington, DC.), 2010
- 36 : 歯科保健指導の企画・実施体験による教育効果と有効性 : 島津 篤, 笹原妃佐子, 河村 誠 : 第 59 回日本口腔衛生学会・総会 (新潟), 2010
- 37 : グループホーム入所認知症高齢者の約 6 年の追跡調査の 1 例-口腔内状態, 精神状態と日常生活動作能力の変化- : 古胡真佐美, 貞森紳丞, 林 昭志, 笹原妃佐子, 住田恵里子, 濱田泰三 : 第 27 回日本障害者歯科学会総会および学術大会 (東京), 2010

F) 学会シンポジウム, 特別講演

- 1 : Immune-cell-mediated bone resorption in periimplantitis and periodontitis : Seicho Makihiro: 2nd international Workshop on BioDental Education & Research Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences (Hiroshima), 2010
- 2 : MR 画像の 3 次元構築とシミュレーションモデルの作成. : 二川浩樹, 村山 長, 上田寛治, 小川大一, 長崎信一, 田中栄二 : 第 2 回 鶴見大学顎口腔機能研究プロジェクト公開シンポジウム (横浜), 2010
- 2 : 固定化抗菌剤の開発と応用. : 平松美菜子, 二川浩樹 : 歯学連携ネットワークを活用した口腔から QOL 向上を目指す研究. 第 2 回「口腔環境制御研究」カテゴリー集会 (長崎), 2010
- 3 : 「口腔健康科学—バイオフィルムの研究〜歯工連携へ」: 二川浩樹 : 平成 21 年度大阪歯科大学同窓会広島支部第 1 回学術講演会 (広島), 2010
- 4 : A novel strategies for oral health from biofilm research. New Vision in Oral Health -Present and Future- : Hiroki Nikawa : Joint Scientific Meeting in Dentistry (Surabaya, Indonesia), 2010
- 5 : 「口腔健康科学—バイオフィルムの研究〜歯工連携へ」: 二川浩樹 : 広島県製薬協会平成 21 年度学術講演会 (広島), 2010
- 6 : 「お口の健康が食べ物で守れたら・・・いいな!」: 二川浩樹 : 広島市主催すこやか食育リーダー養成研修会 (広島), 2010
- 7 : 「う蝕・歯周病菌を抑制する乳酸菌ヨーグルト (8020 ヨーグルト)」: 二川浩樹 : 愛媛県歯科医師会歯科医学大会学術講演 (松山), 2010
- 8 : 「研究のすすめ方・まとめ方」: 二川浩樹 : 第 32 回日本歯科技工学会学術大会 認定士講習会 (名古屋), 2010
- 9 : 「広島大学歯学部口腔 (保健) 工学 における 4 年制教育」: 二川浩樹 : 北海道歯科技工士会 55 周年記念大会 基調講演 (札幌), 2010

G) 報道関連

テレビ放映

- 1 : 9 月 13 日 NHK 「お好みワイド」
- 2 : 9 月 13 日 RCC 「ニュース 6」
- 3 : 9 月 13 日 広島テレビ 「テレビ宣言 2」
- 4 : 9 月 13 日 広島ホームテレビ 「J ステーション」
- 5 : 9 月 13 日 TSS ローカルニュース
- 6 : 9 月 17 日 TBS 「ひるおび」

ラジオ放送

- 1 : 9 月 13 日 FM 大阪ローカルニュース

新聞報道

- 1：8月27日 中国新聞 口の病気予防ヨーグルト 虫歯・歯周病菌減らす効果
- 2：9月14日 読売新聞 虫歯と歯周病抑制8020 ヨーグルト
- 3：毎日新聞 ヨーグルトで虫歯予防
- 4：朝日新聞 虫歯菌抑えるヨーグルト開発
- 5：日経新聞 虫歯と歯周病抑制8020 ヨーグルト
- 6：愛媛新聞 虫歯を防ぐヨーグルト
- 7：日本農業新聞 ヨーグルトで歯健康
- 月15日毎日新聞 「歯の健康保つヨーグルト」を開発した広島大学大学院教授二川浩樹さん
- 9：9月28日 日本歯科新聞 ヨーグルトで8020
- 10：10月21日 愛媛新聞 ヨーグルトで虫歯予防
- 11：11月8日 化学工業日報 ファインスペシャリティ バイオフィルム形成抑制
- 12：エトキシシラン系抗菌剤 広島大 洗口剤で実用化
- 13：12月11日 中国新聞 広島発歯を守るヨーグルト 関東でも発売開始
- 14：日経トレンディ
- 15：見えてきた2011年注目トレンド
- 16：2011年地方別ヒット予報 ズバ抜け健康機能食品 虫歯予防ヨーグルト
- 17：広島経済レポート
- 18：6月17日号28面 こぼれ話
- 月23日号4面 虫歯と歯周病を抑制 産学連携で新ヨーグルト開発 広島大学医歯薬学総合研究科 二川浩樹

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1： 1：基盤研究B一般：二川浩樹，間葉系幹細胞の増殖能をもつ塩基性抗菌性ペプチド JH8194の固定化と骨分化能の解析．課題番号 20390499． 17,150 千円
- 2： 2：基盤研究B一般：牧平清超，抗 NHA2 モノクローナル抗体用いた顎堤骨吸収抑制効果の解析．課題番号 21390516． 14,100 千円
- 3： 3：基盤研究C：田地 豪，部分床義歯デザインプロセスのための咬合支持能力指数の開発．課題番号 20592270． 1,170 千円
- 4： 4：基盤研究C：河原和子，咀嚼刺激による脳由来神経栄養因子を介した生活習慣病抑制効果に関する研究．課題番号 22592334． 2,400 千円
- 5： 5：基盤研究C：河村 誠，岡田 貢，田口則宏，笹原妃佐子，小川哲次，学校歯科健康診断における G0, G の CAD 結果に基づく診断標準化システムの構築．課題番号 20592455． 2,000 千円

- 6：若手研究(A)継続:牧平清超, 外来刺激による顎堤骨吸収機構の解明と補綴前抑制法の開発.
課題番号 18689046. 490 万円
- 7：7：経済産業省地域イノベーション創出研究開発事業関節機能の FEM 解析による診察・治療最適化システムの開発 二川浩樹, (一般枠 2 年 計 1,939,350 円)
ナノ表面改質による早期骨組織再生型多孔質インプラントの開発 二川浩樹 (一般枠 2 年 8,610,000 円)
- 8：8：「口腔から QOL 向上を目指す連携研究」再生医療研究メンバー, 口腔環境制御研究メンバー 二川浩樹, 1,600,000 円
- 9：9：2009-10 年度厚生労働科研 歯科医療を取り巻く業務形態のあり方について (2009 年 400 千円, 2010 年 300 千円 分担 二川浩樹)
- 11 共同研究経費：二川浩樹, 株 大塚製薬. 6,633.5 千円
- 10：1222 年度新産業創出研究 (受託研究) 1,000 千円 (代表) 二川浩樹
- 11：13 共同研究経費：二川浩樹, 中国電力 1,386 千円
- 12：14 共同研究経費：二川浩樹, 倉敷紡績 1,386 千円
- 13：15 奨学寄付金：二川浩樹, 株 大塚製薬. 1,000 千円
- 14：16：奨学寄附金：二川浩樹, 株 大和重工. 100 千円
- 15：17：奨学寄附金：二川浩樹, 株 ケンリース. 100 千円
- 16：18：奨学寄附金：二川浩樹, 株 四国乳業. 3,635 千円
- 17：19：奨学寄附金：二川浩樹, 株 中国鉄管継手. 300 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

- 1：二川浩樹：広島大学大学院医歯薬学総合研究科長表彰
- 2：牧平清超：平成 21 年度日本補綴歯科学会 中堅優秀論文賞
- 3：Campus Medico：ひろしまベンチャー大賞銀賞

(6) 特許

- 1：商標登録 5313599 (2010 年 4 月 2 日) フルプロテクション
第 5 類衛生消毒剤, 消毒液, 消毒薬, スプレー式殺菌消毒薬, 医療用油紙, 衛生マスク, など
第 2 5 類制服, 作業服, その他被服 (商願 2009-082727 2009 年 10 月 31 日) 株式会社 Campus Medico
- 2：商標登録 5326583 (2010 年 5 月 28 日) Etak
第 1 類化学剤, 第 3 類洗剤 (商願 2009-081638 2009 年 10 月 28 日) 広島大学
- 3：商標登録 5331825 (2010 年 6 月 18 日) L8020
第 5 類食品強化剤, 第 2 9 類乳飲料 (商願 2009-088424 2009 年 11 月 20 日) 広島大学

[目次へ戻る](#)

中央研究室

(1) 職員並びに学生

教授 : 西村 英紀 (併任)

助教 : 林 幾江

(2) 主な研究活動

1 : プロテオーム解析

2 : 生理活性物質の分析

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1: The N-terminal binding domain of Aml confers substrate selectivity on cariogenic streptococci : Panida Thanyasrisung, 林 幾江、鶴田圭伊子、菅井 基行 : 第 83 回日本細菌学会総会 (横浜) 2010. .
- 2: 腸球菌フェージ ϕ EF24C 由来溶菌酵素 ORF 9 の解析 : 内山 淳平、林 幾江、竹村 伊代、氏原 啓晃、杉浦 哲朗、菅井 基行、大畠 政典、松崎 茂展 : 第 83 回日本細菌学会総会 (横浜) 2010. .
- 3: 新規 H2AX 結合因子 nucleolin による ATM 依存性 DNA 損傷応答の制御 : 小林 純也、藤本 浩子、加藤 晃弘、林 幾江、小松 賢志 : 第 33 回日本分子生物学会、第 83 回日本生化学大会合同大会 (神戸) 2010.
- 4: The autolysin IspC acts as an N-acetylglucosaminidase in *Listeria monocytogenes* serotype 4b and has significantly reduced activity on de-acetylated glucosamine residues: Ronhorm J., Wang L., Hayashi

- I., Sugai M., Cao X., Lin M: International Symposium on Problems of Listeriosis (ISOPOL) XVII (Porto) 2010.
- 5: Commensal proteobacteria in colonic CD11b+ mononuclear phagocytes influence intestinal T cell responses: Toubou H., Maruyama F., Kurashima Y., Hayashi I., Obata T., Goto Y., Kiyono H., Abe, A., Nakagawa I., Takahashi I: 14th International Congress on Immunology (Kobe) 2010.
- 6: The role of nucleolin in DNA double-strand break-induced damage response: Kobayashi J., Hayashi I., Fujimoto H., Komatsu K.: AACR Special Conference” The Role of Telomerase and Telomerase in Cancer Research” (Fort Worth) 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

歯系総合診療科（口腔総合診療科）

（１）職員並びに学生

教授 : 小川哲次 (※) 副病院長 : 小川哲次 (併任)
 講師 : 田口則宏 (～2010年3月)
 助教 : 田中良治, 小原 勝, 西 裕美 (2010年4月～)
 大学院生 : 大林泰二 (2010年4月～)
 事務補佐員 : 佐々木友枝

（２）主な研究活動

- 1 : 対話に基づく患者中心の歯科医療についての検討
- 2 : 総合歯科医療に関する研究
- 3 : 歯科医師臨床研修プログラムの検討
- 4 : 医療コミュニケーション技法に関する研究
- 5 : 臨床教育技法に関する研究
- 6 : 臨床技能評価法に関する研究
- 7 : 模擬患者の養成と標準化に関する研究

（３）研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

- 1 : OSCEs in Japanese postgraduate clinical training Hiroshima experience 2000-2009 : Norihiro Taguchi, Tetsuji Ogawa : *European Journal of Dental Education*, 14, 203-209, 2010.
- 2 : Cytolethal Distending Toxin from *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* Induces DNA Damage, S/G2 Cell Cycle Arrest, and Caspase-Independent Death in a *Saccharomyces cerevisiae* Model : Oranart Matangkasombut, Roontiva Wattanawaraporn, Keiko Tsuruda, Masaru Ohara, Motoyuki Sugai, and Skorn Mongkolsuk : *Infection and Immunity* Vol.78, 783-792, 2010.
- 3 : Titanium immobilized with an antimicrobial peptide derived from histatin accelerates the differentiation of osteoblastic cell line, MC3T3-E1: Seicho Makihira, Takahiro Shuto, Hiroki Nikawa, Keishi Okamoto, Yuichi Mine, Yuko Takamoto, Masaru Ohara, and Koichiro Tsuji : *Int J Mol Sci* 11(4), 1458-70, 2010.
- 4 : Wound healing effects of gingival fibroblasts cultured in animal-free medium. : Nishi H, Ohta K,

- Takechi M, Yoneda S, Hiraoka M, Kamata N. : Oral Dis. 2010 Jul;16(5):438-44.
- 5 : CX3CL1 expression induced by *Candida albicans* in oral fibroblasts : Ohta K, Nishi H, Fukui A, Shigeishi H, Takechi M, Kamata N. : FEMS Immunol Med Microbiol. 2010 Nov;60(2):179-85.
- 6 : Additive effects of orexin B and vasoactive intestinal polypeptide on LL-37-mediated antimicrobial activities. : Kouji Ohta, Mikihiko Kajiya, Tongbo Zhu, Hiromi Nishi, Hani Mawardi, Jane Shinab, Leena Elbadawi, Nobuyuki Kamata, Hitoshi Komatsuzawa, Toshihisa Kawai. J Neuroimmunol. 2010 Dec 20. [Epub]
- 7 : 導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント : 日浅 恭, 田中武志, 小野重弘, 西 裕美, 河村 誠, 荒川 真, 内田雄士, 鍋島 功, 香川和子, 上田 宏, 海原康孝, 中元 崇, 斎藤拓也, 岡田 貢, 安原幸美, 小川郁子, 中岡美由紀, 植田和子, 田中俊生, 小川哲次, 鎌田伸之, 山田文香 : 医療情報学 Vol. 30 Supplement 2010.

B) 総説

C) 著書

- 1 : Etiology and Pathogenesis of Periodontal Disease : Koji Inagaki, Junya Kobayashi, Makoto Kawamura, Masaru Ohara, Mitsugi Okada, Akira Taguchi, Masashi Tanaka, F.A.Clive Wright : Section2 Periodontal Microbiology. P39 - 76. 2010.

D) その他の出版物

- 1 : Evidence-Based Education のための歯科医学教育研究のデザインと手法について : 日本歯科医学教育学会 : 小川哲次, 関本恒夫, 大西弘高, 田口 明, 大山 篤 : 日本歯科医学教育学会雑誌 26, 20-26, 2010.
- 2 : 職能教育としての臨床実習に対する授業評価質問紙の構築 : 笹原妃佐子, 河村 誠, 田口 則宏, 小川哲次, 二川浩樹 : 日本歯科医学教育学会雑誌 26, 32-39, 2010.

E) 学会発表

- 1 : 授業科目と螺旋形カリキュラムを活用したプロフェッショナルリズム教育 : 小川哲次, 西裕美, 小原 勝, 大林泰二, 佐々木友枝, 田中良治, 田口則宏 : 第 29 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (岩手) 2010.
- 2 : 生涯研修における在宅歯科診療・口腔ケアのための医療面接トレーニングについて : 梶谷佳代, 佐々木友枝, 前田純子, 田口則宏, 田村裕子, 小川哲次, 山科 透 : 第 29 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (岩手) 2010.
- 3 : 受託臨床実習プログラムの水準化に向けて : 中岡美由紀, 岩崎代利子, 梶谷佳世, 畠山知子, 松井加奈子, 岡田 貢, 田村裕子, 小川哲次 : 第 29 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会 (岩手) 2010.

- 4 : 臨床研修必修化後5年の見直しを前にしてのプログラム評価: ○西 裕美, 田中良治, 田口則宏, 白井憲一, 長谷川直彦, 津賀一弘, 井上俊二, 小泉浩一, 島末 洋, 清水康隆, 林 文子, 河村 誠, 岡田 貢, 入船正浩, 小川哲次: 第29回日本歯科医学教育学会総会・学術大会(岩手)2010.
- 5 : 生涯研修の第一歩としての自己調整型学習へのファシリテーション: 小川哲次, ○大林泰二, 西 裕美, 小原 勝, 田中良治, 佐々木友枝, 田口則宏: 第29回日本歯科医学教育学会総会・学術大会(岩手)2010.
- 6 : 臨床能力としてのプロフェッショナリズムの事始—臨床研修歯科医の誓い(憲章)—: 小川哲次, ○大林泰二, 西 裕美, 小原 勝, 佐々木友枝, 田中良治: 第29回日本歯科医学教育学会総会・学術大会(岩手)2010.
- 7 : 歯科医師臨床研修における質の管理(TQM)と継続向上(CQI)について: ○田中良治, 西 裕美, 笹原妃佐子, 河村 誠, 小原 勝, 梶谷 佳代, 田村裕子, 大林泰二, 田口則宏, 小川哲次: 第29回日本歯科医学教育学会総会・学術大会(岩手)2010.
- 8 : 広島大学病院歯科医師臨床研修におけるプログラム評価: ○西 裕美, 大林泰二, 田中良治, 小原 勝, 田口則宏, 白井憲一, 長谷川直彦, 田地 豪, 貞森紳丞, 小泉浩一, 島末洋, 清水康隆, 林 文子, 河村 誠, 岡田 貢, 入船正浩, 小川哲次: 第29回日本歯科医学教育学会総会・学術大会(岩手)2010.
- 9 : 広島大学病院におけるキャリアデザインからみた歯科医師臨床研修のアウトカム: ○田口則宏, 大林泰二, 小原 勝, 田中良治, 西 裕美, 岡田 貢, 入船正浩, 小川哲次: 第29回日本歯科医学教育学会総会・学術大会(岩手)2010.
- 10 : 歯学部生の学習スタイル分析: ○小川哲次, 田中良治, 西 裕美, 小原 勝, 大林泰二, 佐々木友枝, 田口則宏: 第29回日本歯科医学教育学会総会・学術大会(岩手)2010.
- 11 : 模擬患者(SP)のフィードバックについての分析: ○佐々木友枝, 大林泰二, 西 裕美, 小原 勝, 田中良治, 前田純子, 田口則宏, 小川哲次: 第29回日本歯科医学教育学会総会・学術大会(岩手)2010.
- 12 : 院内感染対策の一環としての医療スタッフ鼻腔・口腔内メチシリン耐性ブドウ球菌検査—第2報—: ○小原 勝, 日野孝宗, 田中良治, 西 裕美, 大林泰二, 岡田 貢, 小川哲次: 第3回総合歯科協議会総会・学術大会 総合歯科医療に関する学術研究セミナー(福岡)2010.
- 13 : 口腔粘膜上皮・線維芽細胞における炎症性サイトカインによるJAK/STAT伝達経路の解析: 西 裕美, 太田耕司, 福井暁子, 武知正晃, 鎌田伸之: 第55回社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会(千葉)2010.

F) セミナー, ワークショップの開催

- 1 : 平成22年度臨床研修歯科医ワークショップ(広島), 2010.
- 2 : 第13回日本コミュニケーション学会(CAJ)中国四国支部大会・医療コミュニケーション

ン教育研究セミナー（第5回）（広島）, 2010.

G) 講師・シンポジスト等

H) 院外講習会, セミナー, ワークショップの受講

1 : 平成 22 年度プログラム責任者講習会 : 受講者 小原 勝 : 財団法人 歯科医療研修振興財
団主催 (千葉), 2010.

I) 客観的臨床能力試験 (OSCE, CSA など) の実施

1 : 平成 21 年度 第 2 回広島大学病院臨床研修 Advanced OSCE, 2010.

2 : 平成 22 年度 第 1 回広島大学病院臨床研修 Advanced OSCE, 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

口腔健康発育歯科(予防歯科)

(1) 職員並びに学生

講師 : 河村 誠 (科長)

(2) 主な研究活動

- 1: 口腔保健に関する行動科学的研究
- 2: 口腔保健に関する国際比較研究
- 3: 地域歯科保健に関する研究
- 4: 学校歯科保健に関する研究
- 5: 歯周状況判断力向上に関するコンピュータプログラムの開発

(3) 研究業績

A) 原著(症例報告を含む)

- 1: Relation of achievement motives, satisfaction with life, happiness and oral health in Romanian university students. Dumitrescu A. L., Kawamura M., Dogaru B.C., Dogaru C.D., *Oral Health and Preventive Dentistry*, 8(1): 15-22, 2010.
- 2: Involvement of psychosocial factors in the association of obesity with periodontitis. Dumitrescu A. L., Kawamura M., *Journal of Oral Science*, 52(1):115-24, 2010.
- 3: 口腔衛生学実習の一環として実施した歯科学生による中学生への歯科保健指導 -中学生の口腔衛生意識向上とその要因-. 島津 篤, 笹原妃佐子, 河村 誠, 口腔衛生会誌 60(2):104-111, 2010.
- 4: 学校歯科健康診断におけるDF歯数の診査誤差による変動とその変動の意味. 笹原妃佐子, 林 文子, 岡田 貢, 島津 篤, 河村 誠, 香西克之, 口腔衛生会誌 60(5):569-574, 2010.

5: 歯学部生が行った中学生に対する歯科保健指導の企画・準備・実施体験活動. 島津 篤, 笹原妃佐子, 仁井谷善恵, 松本厚枝, 原 久美子, 野宗万喜, 杉山 勝, 河村 誠, 日本歯科医学教育学会雑誌 26(4) : 338-344, 2010.

6: PRECEDE-PROCEED Model modification in community-based oral health promotion by using the linear structural relations program. Kawamura M., Komabayashi T., Sasahara H., Okada M., Taguchi N., Ogawa T. , *Oral Health and Preventive Dentistry*, **8**: (in press), 2010.

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

1: 林 文子, 保田利恵, 中田啓子, 鈴木淳司, 河村 誠, 香西克之: 中学生における歯周疾患実態調査. 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, **38**: 315-318, 2010.

E) 学会発表

1: PRECEDE-PROCEED Model modification in community-based oral health promotion in Japan. Kawamura M., Komabayashi T., Sasahara H., Taguchi N., Ogawa T., *The AADR Annual Meeting* (Washington, DC.), 3-5 March, 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金(基盤研究(C)継続:課題番号 20592455. 河村 誠(代表), 岡田 貢, 田口則宏, 笹原妃佐子, 小川 哲次. 学校歯科健康診断における GO, G の CAD 結果に基づく診断標準化システムの構築. 800 千円

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

口腔健康発育歯科（障害者歯科）

（１）職員並びに学生

准教授　　：岡田　貢
 助　教　　：林田浩一（2010年3月まで）
 歯科診療医：尾田友紀（2010年10月～現在）
 後期研修医：瀧谷智子（2010年4月から8月まで）
 後期研修医：小島太郎（2010年4月～現在）
 研修登録医：岩本めぐみ

（２）主な研究活動

- 1：障害者の齶蝕発生リスクに関する研究
- 2：障害者の歯周病発症リスクに関する研究
- 3：発達障害者における歯科的協力度に関する研究
- 4：障害者の歯科的問題におけるPBL教育に関する研究
- 5：骨髄間葉系幹細胞を用いた歯周組織再生に関する研究
- 6：歯内・歯周療法に関する臨床的研究

（３）研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

- 1：Late established mutans streptococci in children over 3 years old: Okada M, Taniguchi Y, Hayashi F, Doi T, Suzuki J, Sugai M, Kozai K: Int J Dent. 2010;2010:732468. Epub 2010 Feb 14.
- 2：The expressions of claudin-1 and E-cadherin in junctional epithelium: Fujita T, Hayashida K, Shiba H, Kishimoto A, Matsuda S, Takeda K, Kawaguchi H, Kurihara H: J Periodontal Res. 45, 579-582, 2010.
- 3：Irsogladine maleate regulates neutrophil migration and E-cadherin expression in gingival epithelium stimulated by *Aggregatibacter actinomycetemcomitans*: Tsuyoshi Fujita, Akiyoshi Kishimoto, Hideki Shiba, Koichi Hayashida, Mikihito Kajiya, Yuushi Uchida, Shinji Matsuda, Katsuhiko Takeda, Kazuhisa Ouhara, Hiroyuki Kawaguchi, Yoshimitsu Abiko, Hidemi Kurihara: Biochemical Pharmacology. 79, 1496-505, 2010.
- 4：PRECEDE-PROCEED Model modification in community- based oral health promotion by using the linear structural relations program: Kawamura M, Komabayashi T, Sasahara H, Okada M, Taguchi N, Ogawa T: Oral Health and Preventive Dentistry 8, 315-321, 2010.
- 5：本院障害者歯科における患者および診療実態. 岡田　貢, 時数智子, 林田浩一, 中森輝代：
 廣大歯誌 42, 24-29, 2010.

B) 総説

C) 著書

1 : Etiology and Pathogenesis of Periodontal Disease. Dumitrescu AL, ed. Chapter 9. Periodontal-Restorative Interaction. Dumitrescu AL, Okada M, Inagaki K: Springer-Verlag, 2010.

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1: Longitudinal study of dental caries in patients with mental retardation. Okada M, Hayashida K, Tokikazu T, Wakita A, Nagatani Y, Iwamoto M, Takitani T: IADR 88th General Session & Exhibition (Barcelona, Spain), 2010.
- 2: 知的障害者における齲蝕原因菌の分布と経年的齲蝕状況との関連. 岡田 貢、瀧谷智子、小島太郎、時数智子、和木田敦子、長谷由紀子、岩本めぐみ：第27回日本障害者歯科学会学術学会（10月；東京）

F) 学会シンポジウム，特別講演

- 1 : 障害者歯科学：岡田 貢：呉市歯科医師会（4月：呉）
- 2 : もし障害児（者）があなたの歯科医院に来院したら：東広島市歯科医師会（8月：東広島）
- 3 : 口腔の健康が家族を育む！「小児の健全な口腔発育と歯周病予防」：日本歯科保存学会市民公開講座（11月：広島）

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

特殊歯科総合治療部

(1) 職員並びに学生

部長 : 谷本啓二 (併任)

助教 : 安原幸美

(2) 主な研究活動

1. 口蓋裂言語の聴覚的評価法に関する研究
2. Electropalatography(EPG)を用いた訓練方法に関する研究
3. 構音障害改善に関する研究
4. 舌圧と嚥下・言語機能に関する研究

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1 : 市販とろみ調整食品の粘度比較 : 安原幸美, 小西勝, 長崎信一, 谷本啓二 : 第16回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (新潟), 2010.
- 2 : 嚥下造影検査食としてのごはんについてー普通食ごはんの作成ー : 小西勝, 長崎信一, 安原幸美, 谷本啓二, 中津沙弥香, 渡邊弥生, 坂本宏司 : 第16回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (新潟), 2010.
- 3 : 嚥下造影入り凍結含浸食品の嚥下動態 : 長崎信一, 小西勝, 平位知久, 山縣誉志江, 栢下淳, 安原幸美, 木村浩彰, 中津紗弥香, 坂本宏司, 谷本啓二 : 第16回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (新潟), 2010.

- 4：健常人の摂食・嚥下時の呼吸について：太田清人，長崎 信一，南谷さつき，安原幸美清水
充子，東嶋美佐子，谷本啓二：第20回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術大会（長
崎），2010.
- 5：健常成人の摂食・嚥下時の呼吸について 第2報 摂食・嚥下における呼吸の特徴：
太田清人，長崎信一，南谷 さつき，安原幸美，清水充子，東嶋美佐子，谷本啓二：
第16回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会（新潟），2010.
- 6：凍結含浸食品の嚥下動態：長崎信一，小西勝，平位知久，山縣蒼志江，栢下淳，
安原幸美，木村浩彰，中津紗弥香，坂本宏司，谷本啓二：第54回日本歯科放射線学会学術
大会（横浜），2010.
- 7：導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント：日浅 恭，田中武志，小野
重弘，西 裕美，河村 誠，荒川 真，内田雄士，鍋島 巧，香川和子，上田 宏，
海原康孝，中元 崇，齊田 拓也，岡田 貢，安原美幸，小川郁子，中岡美由紀，槇田和子，
田中俊生，小川哲次，鎌田伸之，山田文香：第30回医療情報学連合大会（浜松），2010.

（4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1：平成22年度広島大学萌芽的研究支援金（新任教員支援型）：安原幸美，若年者（3～9歳）
の口腔機能（舌圧・咬合圧・発話）に関する調査：舌圧と発音の関係は？ 500千円

（5）学会賞等の受賞状況

（6）特許

[目次へ戻る](#)

口腔検査センター

(1) 職員並びに学生

センター長：栗原英見（兼任）
 准教授：小川郁子（診療）
 助教：新谷智章，北川雅恵
 技術補佐員：坂野敬子
 研修医：大林真理子

(2) 主な研究活動

- 1: 金属アレルギーおよび口腔乾燥症に対する検査および治療に関する研究
- 2: 歯内・歯周療法に関する臨床的研究
- 3: 頭頸部病変の診断病理学的研究
- 4: 味覚異常の治療法に関する開発研究
- 5: 口腔扁平上皮癌の増殖・進展に関する分子病理学的研究
- 6: VEGFR および EGFR をターゲットにした口腔癌の分子標的治療の研究
- 7: セメント芽細胞特異的遺伝子の機能解析

(3) 研究業績

A) 原著（症例報告を含む）

- 1: Histopathological evaluation including cytokeratin 13 and Ki-67 in the border between Lugol-stained and -unstained areas: Ohta K., Ogawa I., Ono S., Taki M., Mizuta K., Miyauchi M., Takechi M., Shigeishi H., Takata T., Kamata N.: *Oncol Rep*, 24, 9-14, 2010.
- 2: Nuclear Survivin expression is correlated with malignant behaviors of head and neck cancer together with Aurora-B: Qi G, Kudo Y., Ando T., Tsunematsu T., Shimizu N., Siriwardena S., Yoshida M., Keikhae M., Ogawa I., Takata T.: *Oral Oncol*, 46, 263-270, 2010.
- 3: Sclerosing odontogenic carcinoma with benign fibro-osseous lesion of the mandible: An extremely rare case report: Irie T., Ogawa I., Takata T., Toyosawa S., Saito N., Akiba M., Isobe T., Hokazono C., Tachikawa T., Suzuki Y.: *Pathol Int*, 60, 694-700, 2010.
- 4: Central giant cell granuloma of the mandible: presentation of a rare case with prominent osteoblastic differentiation mimicking osteosarcoma: Mohamed Deraz E., Ogawa I., Miyauchi M., Kudo Y.,

Nakamoto T., Tani R., Takata T.: Oral Med Pathol, 14, 109-112, 2010..

- 5: Synthetic ameloblastin peptide stimulates differentiation of human periodontal ligament cells: Kitagawa M., Kitagawa S., Nagasaki A., Miyauchi M., Uchida T., Takata T.: Arch Oral Biol, Nov 10, [Epub ahead of print], 2010.
- 6: 偽悪性腫瘍変化を伴った下顎歯肉腫瘍の1例: 吉岡幸男, 小川郁子, 林堂安貴, 虎谷茂昭, 高田 隆, 岡本哲治: 日本口腔科学会雑誌 59:63-67, 2010.

B) 総説

- 1: 小唾液腺に発生する腫瘍と腫瘍類似病変: 小川郁子, 北川雅恵, 工藤保誠, 宮内睦美, 高田 隆.: 日本唾液腺学会誌 51:39-48, 2010.

C) 著書

- 1: 1. 消化器 口腔粘膜・唾液腺: 小川郁子, 久山佳代, 高田 隆: アトラス 細胞診と病理診断 (亀井敏昭, 谷山清己編集). 医学書院 (東京), 74-75, 83-85, 2010.
- 2: 口腔病変クローズアップ: 高田 隆, 宮内睦美, 工藤保誠, 北島正二郎, 小川郁子, 北川雅恵: (高田 隆, 小川郁子監著). デンタルダイヤモンド社 (東京), 2010.
- 3: 第1章 頭頸部 2. 被膜外浸潤 (唾液腺): 小川郁子, 高田 隆: 病理形態学キーワード病理と臨床. 臨時増刊号, 文光堂 (東京), 28:2-3, 2010.

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1: Histological diversity and differential diagnosis of epithelial-myoepithelial carcinoma of salivary gland: Ogawa I., Ohbayashi M., Mohamed Deraz E., Miyauchi M., Takata T.: 15th International Congress on Oral Pathology and Medicine (Seoul, Republic of Korea), 2010.
- 2: N-cadherin expression is involved in malignant behavior of head and neck cancer in relation to epithelial-mesenchymal transition: Ohbayashi M., Nguyen P.T., Kudo Y., Yoshida M., Miyauchi M., Ogawa I., Takata T.: 15th International Congress on Oral Pathology and Medicine (Seoul, Republic of Korea), 2010.
- 3: Synthetic Ameloblastin Peptide Stimulates Differentiation of Human Periodontal Ligament Cells: Kitagawa M., Miyauchi M., Takata T.: 58th JADR Annual Meeting (北九州), 2010.
- 4: 口腔扁平上皮癌における Survivin と Aurora-B の過剰発現: 工藤保誠, 齊 広瑩, 小川郁子,

- 高田 隆：第 99 回日本病理学会（東京），2010.
- 5: HSulf-1 は頭頸部癌の浸潤を促進する：吉田真希，工藤保誠，小川郁子，高田 隆：第 99 回日本病理学会（東京），2010.
 - 6: 歯周炎と全身疾患の関係についての実験病理学的研究（第 1 報）持続的 LPS 投与が全身に及ぼす影響：古庄寿子，宮内睦美，坂本宜也子，北川雅恵，高田 隆：第 53 回日本歯周病学会春季学術大会（盛岡），2010.
 - 7: 口腔粘膜に多発性にアミロイド沈着を認めた本態性M蛋白血症(MGUS)の 1 例：神田 拓，山崎佐知子，竹末奈七子，吉田真希，小川郁子，虎谷茂昭，岡本哲治：第 64 回 NPO 法人日本口腔科学会総会・学術大会（札幌），2010.
 - 8: シェーグレン症候群に随伴して生じた口蓋部 MALT リンパ腫の 1 例：竹末奈七子，小泉浩一，小川郁子，林堂安貴，岡本哲治，吉田真希：第 64 回 NPO 法人日本口腔科学会総会・学術大会（札幌），2010.
 - 9: FGF 結合蛋白 FGFBP1/HBp17 を標的とした RNAi による口腔扁平上皮癌細胞の増殖抑制効果の検討：岡崎文彦，新谷智章，林堂安貴，藤井良典，笛吹恵美子，虎谷茂昭，岡本哲治：第 64 回 NPO 法人日本口腔科学会総会・学術大会（札幌），2010.
 - 10: 唾液検査と舌診を取り入れたドライマウスの診断・治療症例 -口腔検査センターの新しい取り組み：北川雅恵，大林真理子，新谷智章，小川郁子，栗原英見：第 43 回広島大学歯学会総会（広島），2010.
 - 11: 両側に多発した耳下腺腫瘍の一症例：佐藤 淳，岸野万伸，小川裕三，小川郁子，高田 隆，豊澤 悟：第 21 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（枚方），2010.
 - 12: 歯周炎と全身疾患の関係についての実験病理学的研究-持続的 LPS 投与が全身に及ぼす影響-：古庄寿子，宮内睦美，坂本宜也子，北川雅恵，高田 隆：第 21 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（枚方），2010.
 - 13: 口蓋腫瘍 (Extranodal marginal zone B-cell lymphoma of MALT type)：吉田真希，小川郁子，大林真理子，工藤保誠，宮内睦美，竹末奈七子，佐々木なおみ，高田 隆：第 21 回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会（枚方），2010.
 - 14: 唾液検査と舌診によるドライマウスの客観的な診断と治療：北川雅恵，大林真理子，新谷智章，小川郁子，栗原英見：第 3 回日本口腔検査学会総会（札幌），2010 年.
 - 15: 歯周病患者の初診時の歯周病原性菌抗原に対する血清抗体価：新谷智章，日野孝宗，小川文野，小川郁子，北川雅恵，柴秀樹，河口浩之，栗原英見：第 3 回日本口腔検査学会総会（札幌），2010.
 - 16: 当科におけるビスフォスフォネート製剤関連顎骨病変に対する治療経験：向笠英恵，新谷智章，小泉浩一，岡本康正，神田拓，浜名智昭，福井康人，間島徹，吉岡幸男，谷亮治，林堂安貴，坂本哲彦，谷本裕，阪本知二，小川郁子，虎谷茂昭，岡本哲治：第 49 回広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会例会（広島），2010.
 - 17: 当科における口腔顎顔面外傷の臨床統計的検討：坂上泰士，福井康人，田口有紀，藤井隆

- 彦, 向笠英恵, 伊藤 翼, 山崎佐知子, 岡崎文彦, 藤井良典, 木村直大, 竹末奈七子, 鍋島巧, 石田康隆, 浜名智昭, 角 健作, 岡本康正, 神田 拓, 新谷智章, 小泉浩一, 吉岡幸男, 谷 亮治, 林堂安貴, 虎谷茂昭, 岡本哲治: 第 49 回広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会例会 (広島), 2010.
- 18: 上唇に生じた多形性腺腫の一例: 石田康隆, 新谷智章, 藤井良典, 浜名智昭, 小泉浩一, 吉岡幸男, 林堂安貴, 岡本哲治: 第 55 回 (社) 日本口腔外科学会総会・学術大会 (東京), 2010.
- 19: 当科におけるビスフォスフォネート製剤関連顎骨病変に対する臨床統計的検討: 向笠英恵, 新谷智章, 坂上泰士, 田口有紀, 藤井隆彦, 伊藤翼, 山崎佐知子, 岡崎文彦, 藤井良典, 木村直大, 竹末奈七子, 鍋島巧, 石田康隆, 佐渡友浩, 浜名智昭, 間島徹, 角健作, 福井康人, 有田裕一, 岡本康正, 神田拓, 小泉浩一, 吉岡幸男, 谷亮治, 林堂安貴, 坂本哲彦, 谷本裕, 阪本知二, 芳村喜道, 小川郁子, 虎谷茂昭, 岡本哲治: 第 58 回 NPO 法人日本口腔科学会中国・四国地方部会 (広島), 2010.
- 20: ヘパリンおよびその誘導体を用いた骨組織再生に関する研究 -2DSH-collagen sponge disk による検討-: 北川雅恵, 長崎敦弘, 宮内睦美, 高田 隆: 「QOL を考える歯学連携ネットワークを活用した口腔から QOL 向上を目指す研究」再生工学カテゴリー第 2 回学内研究集会 (広島), 2010.
- 21: アメロブラスチンによる骨形成分化の制御: 工藤保誠, 飯塚新二, 吉田真希, 常松貴明, 小川郁子, 宮内睦美, 高田 隆: 「QOL を考える歯学連携ネットワークを活用した口腔から QOL 向上を目指す研究」再生工学カテゴリー第 2 回学内研究集会 (広島), 2010.
- 22: 顎骨に発生した粘表皮癌、clear cell variant の 1 例: 大林真理子, 吉田真希, 小川郁子, 李進彰, 長谷川巧実, 横崎 宏, 高田 隆: 第 55 回日本唾液腺学会学術大会 (東京), 2010.
- 23: 口蓋腫瘍 (acinic cell carcinoma): 小川郁子, 吉田真希, 東川晃一郎, 高田 隆. 日本病理学会中国四国支部学術集会 (第 101 回スライドカンファレンス) (岡山), 2010.
- 24: 口蓋腫瘍 (Extranodal marginal zone B-cell lymphoma of MALT type): 吉田真希, 小川郁子, 竹末奈七子, 佐々木なおみ, 高田 隆: 第 54 回広島病理集談会 (広島), 2010.
- 25: 下顎骨腫瘍 (顎骨中心性粘表皮癌 clear cell variant): 大林真理子, 小川郁子, 李進彰, 井堂信二郎, 重田崇至, 長谷川巧実, 中野沙織, 横崎 宏, 宮内睦美, 高田 隆: 日本病理学会中国四国支部学術集会 (第 102 回スライドカンファレンス) (米子), 2010.
- 26: 口蓋腫瘍 (Polymorphous low-grade adenocarcinoma): 常松貴明, 小川郁子, 長崎真琴, 石田克成, 村田明道, 荒木亜寿香, 石川典由, 高田 隆: 第 103 回中四国スライドカンファレンス (呉), 2010.
- 27: 顎下腺腫瘍 (Pleomorphic adenoma with cellular atypia and highly proliferative activity): 小川郁子, 大江知里, 坂井田紀子, 吉田真希, 植村芳子, 高田 隆: 第 12 回唾液腺腫瘍病理研究会 (東京), 2010.
- 28: 下顎骨病変: 古庄寿子, 宮内睦美, 小川郁子, 虎谷茂昭, 末井良和, 高田 隆: 第 55 回広

島病理集談会（広島），2010.

F) 特別講演，シンポジウム，ワークショップ等

- 1: 教育講演 小唾液腺腫瘍の組織学的分類(WHO・2005) 臨床の場で活かすために：小川郁子，高田 隆：第 33, 34 回(社)日本口腔外科学会教育研修会・口腔四学会合同研修会（東京，大阪），2010.
- 2: コンパニオンミーティング「唾液腺腫瘍の病理診断」上皮筋上皮癌の組織学的多彩性について：小川郁子，高田 隆，廣川満良：第 99 回日本病理学会総会（東京），2010.
- 3: 特別講演 歯科における検査 今とこれから：小川郁子：第 49 会広島県歯科医学会・第 94 回広島大学歯学会（広島），2010.

G) 産学官連携事業およびフォーラム

H) その他（社会貢献）

（4）科学研究費補助金等の受領状況

- 1: 科学研究費補助金（基盤研究 (C)）小川郁子（代表，継続），唾液腺腫瘍の病理診断標準化のための組織学的ならびに分子生物学的研究. 課題番号 20592141, 1,300 千円.
- 2: 科学研究費補助金（若手研究(B)）北川雅恵（代表，新規），セメント芽細胞マーカー遺伝子 *f-spondin* の機能解明. 課題番号 22791767, 1,820 千円.
- 3: 科学研究費補助金（若手研究(B)）新谷智章（代表，新規），口腔癌・癌幹細胞における FGF 結合蛋白 HBp17 の役割と分子標的治療への応用. 課題番号 22791982, 2,300 千円.

（5）学会賞等の受賞状況

（6）特許

[目次へ戻る](#)

歯科技工室

(1) 職員並びに学生

歯科技工室長 : 二川浩樹 (併任)
 歯科技工部門長 : 大倉啓孝
 主任歯科技工士 : 山本昌信, 埴生栄作, 大谷吉広, 山本明司, 加藤了嗣
 歯科技工士 : 荒木結子

(2) 主な研究活動

- 1 : 義歯に埋入する患者データの方法の考案
- 2 : 放射線治療補助装置 (スパーサー) の製作法
- 3 : インプラントの上部構造に関する研究
- 4 : 各種前装歯冠補綴物における審美性の追及
- 5 : 歯科鋳造物の適合性に関する研究
- 6 : 歯科技工におけるコンピュータによる情報処理に関する研究

(3) 研究業績

A) 原著

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1 : ジルコニアフレームとコンポジットレジンの接着におけるサンドブラスト処理の影響 : 荒木結子, 下江宰司, 里田隆博, 田上直美, 松村英雄 : 第 32 回日本歯科技工学術大会(名古屋), 2010.
- 2 : 総義歯の重合変形に関する研究 : 片渕由扶子, 木原琢也, 牧平清超, 二川浩樹, 熊谷 宏 : 平成 22 年度社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部総会・学術大会 (香川), 2010
- 3 : 総義歯の重合変形に関する研究 : 木原琢也, 片渕由扶子, 二川浩樹, 牧平清超, 熊谷 宏 : 第 56 回日本歯科理工学会学術講演会 (岐阜), 2010
- 4 : Visual SLAM を用いたラボの作業シミュレーション : 千葉真也, 村山 長, 立嶋一樹, 玉本光弘, 江口 透, 笹原妃佐子, 河原和子, 田地 豪, 二川浩樹 : 第 49 回広島県歯科医学会第 94 回広島大学歯学会 (広島), 2010.

5： 総義歯の重合変形に関する研究：片渕由扶子，田口香織，木原琢也，牧平清超，二川浩樹：
第 32 回日本歯科技工学会学術大会（愛知），2010

（4） 科学研究費補助金等の受領状況

（5） 学会賞等の受賞状況

1： 二川浩樹：広島大学大学院医歯薬学総合研究科長表彰

[目次へ戻る](#)

歯科衛生室

(1) 職員並びに学生

歯科衛生室長：鎌田伸之（併任）

歯科衛生部門長：田村裕子

歯科衛生副部門長：岩崎代利子, 中岡美由紀

歯科衛生士：米田美穂, 畠山知子, 梶谷佳世, 松井加奈子, 高本愛,
宮川久美(7月まで), 時数智子, 矢野加奈子, 臺信花菜, 原奈緒美,

岡田美穂, 鋳理恵(2月まで), 小内あゆみ, 河野いつか,

和木田敦子, 井上梨紗子(3月まで), 川井千恵子, 長谷由紀子, 中野友里絵

歯科助手：大田有里, 玉元由香, 尾崎妃佐子, 矢田部まゆみ

(2) 主な研究活動

1：口腔衛生に関する臨床的, 基礎的研究

2：歯科衛生士教育について

3：大学病院における歯科衛生士の役割について

(3) 研究業績

A) 原著

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

1：中毒性表皮壊死症に対して専門的口腔ケアを行った一例：梶谷佳世, 臺信花菜, 原奈緒美,
高本愛, 松井加奈子, 岡本康正, 石田康隆, 二宮嘉昭, 中川貴之, 武田卓, 田村裕子, 岡本哲治,
鎌田伸之, 谷川攻一.：広島院内感染対策研究会 (2010.2)

2：短期間で歯周組織の改善がみられた重度慢性歯周炎の一症例：松井加奈子, 内田雄士,
田村裕子, 栗原英見.：第 52 回日本歯周病学会(2010.5.13.14 盛岡)

3：免疫抑制患児の口腔環境と歯科的対応：坪井文, 鈴木淳司, 吉村剛, 海原康孝, 中岡美由紀,
角本法子, 大谷聡子, 大原紫, 松浦和則, 香西克之.：第 48 回日本小児歯科学会大会 (2010.5.19.20)

4：当科におけるインプラント治療のための骨移植についての臨床統計的検討：太田彰,
武知正晃, 小野重弘, 奥井岳, 二宮嘉昭, 波多野寛子, 高本愛, 鎌田伸之.：第 38 回日本口腔
外科学会中・四国地方会(2010.5.21-22 徳島)

5：垂直的骨造成に連通多孔体ハイドロキシアパタイト (NEOBONE®) を使用した 1 例：
二宮嘉昭, 武知正晃, 太田耕司, 高本愛, 小野重弘, 奥井岳, 太田彰, 鎌田伸之.：第 64 回日
本口腔科学会学術集会・学術総会 (2010.6.25 札幌)

6：インプラント埋入を目的とする骨造成への連通気孔体ハイドロキシアパタイト (ネオボーン
®) ブロックの応用に関する基礎的研究：南正彦, 武知正晃, 平岡美里, 二宮嘉昭, 太田耕司,

太田彰, 高本愛, 鎌田伸之. : 第 64 回日本口腔科学会学術集会・学術総会 (2010.6.25 札幌)

7: インプラント治療を行った顎顔面外傷症例の臨床的検討: 中川貴之, 武知正晃, 太田耕司
二宮嘉昭, 島末 洋, 小野重弘, 重石英生, 水田邦子, 南正彦, 奥井岳, 太田彰, 波多野寛子,

高本愛, 鎌田伸之. : 第 12 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会(2010.7.17 広島)

8: 受託臨床実習プログラムの水準化に向けて: 中岡美由紀, 岩崎代利子, 梶谷佳世, 畠山知子,
松井加奈子, 岡田貢, 田村裕子, 小川哲次. : 第 29 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会
(2010.7.23.24 岩手)

9: 生涯研修における在宅歯科診療・口腔ケアのための医療面接トレーニングについて:

梶谷佳世, 佐々木友枝, 前田純子, 田口則宏, 田村裕子, 小川哲次, 山科透. : 第 29 回日本歯
科医学教育学会総会・学術大会(2010.7.23.24 岩手)

10: 連通多孔体ハイドロキシアパタイトを用いた上顎洞底挙上術についての臨床的検討:

武知正晃, 二宮嘉昭, 小野重弘, 高本愛, 鎌田伸之. : 第 40 回日本口腔インプラント学会学術
大会 (2010.9.19 札幌)

10: 骨隆起除去骨を応用した骨造成の 2 例: 二宮嘉昭, 武知正晃, 小野重弘, 高本愛,

鎌田伸之. : 第 40 回 (社) 日本口腔インプラント学会学術大会 (2010.9.19 札幌)

11: 異常絞扼反射を呈する上下無歯顎患者に対してインプラントにより咬合再建を行った 1 例:

小野重弘, 武知正晃, 太田耕司, 奥村俊哉, 奥井岳, 二宮嘉昭, 高本愛, 鎌田伸之. : 第 55 回
(社) 日本口腔外科学会総会・学術大会 (2010.10.17 幕張)

12: 連通多孔体ハイドロキシアパタイト (NEOBONE) を用いた顎骨造成法の臨床的検討:

武知正晃, 太田耕司, 二宮嘉昭, 小野重弘, 高本愛, 重石英生, 奥井岳, 鎌田伸之. : 第 55 回
(社) 日本口腔外科学会総会・学術大会 (2010.10.16.18 幕張)

13: 当科における知的障害児 (者) の歯科診療実態 2004 年から 2009 年の変化: 林文子,

光畑智恵子, 有木美早, 中岡美由紀, 香西克之. : 第 27 回日本障害者歯科学会総会および学術大
会 (2010.10.22.23 東京)

14: 角化嚢胞性歯原性腫瘍摘出後インプラント治療を行った 2 症例: 二宮嘉昭, 武知正晃,

小野重弘, 高本愛, 鎌田伸之. : 第 30 回 (社) 日本口腔インプラント学会中国・四国支部総会・
学術大会 (2010.11.14 島根)

15: インプラント治療を目的とした骨造成手術に対する患者の不安・満足に関するアンケート

調査, : 高本愛, 武知正晃, 二宮嘉昭, 小野重弘, 鎌田伸之. : 日本口腔インプラント学会中四国
会 (2010.11.14 島根)

16: CaCl₂ 水溶液を用いて水熱処理した金属チタンの細菌付着性, : 高本 愛, 武知正晃,

太田耕司, 都留寛治, 峯裕一, 高本祐子, 石川邦夫, 二川浩樹, 鎌田伸之. : 第 32 回日本バイ
オマテリアル学会大会(2010.11.29 広島)

17: 連通気孔体ハイドロキシアパタイトブロックを用いた 骨造成に関する基礎的研究: 南正彦,

武知正晃, 多田美里, 二宮嘉昭, 太田耕司, 福井暁子, 太田彰, 高本愛, 鎌田伸之. : 第 3 回
日本バイオマテリアル学会大会 (2010.11.30 広島)

18：連通多孔体 HA と下顎隆起除去骨でサイナスリフトを行った 1 例：小野重弘，武知正晃，太田耕司，二宮嘉昭，高本愛，鎌田伸之．：第 14 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会（2010.12.5 千葉）

19：臨床分離した *Porphyromonas gingivalis* における口臭関連ガス産生能の多様性：岩崎代利子、應原一久、日野孝宗、長谷川直彦、河口浩之、栗原英見：第 43 回広島大学歯学会、(2010.6.12 広島)

20： *Porphyromonas gingivalis* による揮発性硫黄化合物の分析：岩崎代利子、應原一久、日野孝宗、長谷川直彦、柴秀樹：バイオデンティスト育成プログラム第 2 回国際ワークショップ、(2010.2.11、広島)

F) 講演

(4) 科学研究補助金等の受領状況

1：畠山知子，抗菌ペプチド（LL37）を用いた歯肉上皮細胞の機能制御による歯周炎予防について．補助金額：40 万円，課題番号：22932005

2：中岡美由紀，高機能発達障害児（者）の歯科治療におけるストレスについて．補助金：30 万円，課題番号：2293200400

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)

広島大学歯科診療所

(1) 職員並びに学生

講師 : 日野 孝宗

助教 : 小原 勝

(2) 主な研究活動

1 : 歯周病発症機構の解明

2 : 院内感染対策と抗菌剤耐性獲得機構の解明

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

1 : Makihira S, Shuto T, Nikawa H, Okamoto K, Mine Y, Takamoto Y, Ohara M, Tsuji K. Titanium immobilized with an antimicrobial peptide derived from histatin accelerates the differentiation of osteoblastic cell line, MC3T3-E1. Int J Mol Sci. 2010 ; 11(4):1458-70.

2 : Matangkasombut O, Wattanawaraporn R, Tsuruda K, Ohara M, Sugai M, Mongkolsuk S. Cytotoxic distending toxin from *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* induces DNA damage, S/G2 cell cycle arrest, and caspase-independent death in a *Saccharomyces cerevisiae* model. Infect Immun. 2010; 78(2):783-92..

B) 総説 なし

C) 著書

Etiology and pathogenesis of periodontal disease

Editor: Alexandria L. Dumitrescu

Chapter 2 "Periodontal Microbiology": Alexandria L. Dumitrescu and Masaru Ohara p39-76

Springer-Verlag Berlin Heidelberg 2010

D) その他の出版物 なし

E) 学会発表

- 1 : Usefulness of anaerobic bacterial examination to infected root canal treatment. : 北本泰子、内田雄士、日野孝宗、柴秀樹、河口浩之、栗原英見 : IADR, バルセロナ、スペイン、.7.14~17、2010.
- 2 : 歯科用CTとマイクロスコープを用いて穿孔を伴う歯内病変の治癒を行った1症例 : 内田雄士、北本泰子、柴秀樹、藤田剛、岩田倫幸、武田克浩、上田武、日野孝宗、河口浩之、栗原英見 : 第31回日本歯内療法学会学術大会、東京、7.24~25、2010.
- 3 : 臨床分離した *Porphyromonas gingivalis* における口臭関連ガス産生能の多様性 : 岩崎代利子、應原一久、日野孝宗、長谷川直彦、河口浩之、栗原英見 : 第43回広島大学歯学会、広島、6.12. 2010.
- 4 : Analysis of Volatile Sulfur Compounds (VSCs) Productivity by *Porphyromonas gingivalis*. : 岩崎代利子、日野孝宗、應原一久、長谷川直彦、柴秀樹、河口浩之、栗原英見 : バイオデンティスト育成プログラム第2回国際ワークショップ、広島、2.11. 2010.
- 5 : Detection of Heterotrophic Bacteria in Dental Unit Waterlines. : 仁井谷善恵、日野孝宗、應原一久、林田浩一、柴秀樹、河口浩之、栗原英見 : バイオデンティスト育成プログラム第2回国際ワークショップ、広島、2.11. 2010.
- 6 : デンタルユニットから検出された従属栄養細菌の分析 : 仁井谷善恵、應原一久、日野孝宗、柴秀樹、河口浩之、栗原英見 : 第43回広島大学歯学会、広島、6.12. 2010.

F) セミナー，ワークショップの開催

なし

G) 講師・シンポジスト等

なし

H) 院外講習会，セミナー，ワークショップの受講

なし

I) 客観的臨床能力試験 (OSCE, CSAなど) の実施

なし

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

1 : 科学研究費 (基盤研究B) : サイトカイン再生療法をオーダーメイド医療として展開するための基礎研究. 課題番号21390557. 300千円

(5) 学会賞等の受賞状況

なし

(6) 特許
なし

[目次へ戻る](#)

医療情報室

(2) 職員並びに学生

室長 : 鎌田伸之 (併任)
 教授 : 天野秀明 (兼任)
 助手 : 日浅 恭 (兼任), 大塚昌彦 (兼任), 田中武志
 技官 : 柳田徳栄 (兼務)

(2) 主な研究活動

- 1 : 病院情報システムの開発と運営に関する研究
- 2 : 医療情報学に関する研究

(3) 研究業績

A) 原著 (症例報告を含む)

- 1 : 導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント:日浅恭, 田中武志, 他20名 :
医療情報学 **30** Suppl. pp. 129-132, 2010.
- 2 : 病院情報システムの蓄積データの信憑性確保のための機能要件:津久間秀彦, 石川 澄,
田中 武志, 池内 実:医療情報学 **30** Suppl. pp. 129-132, 2010.
- 3 : 医療情報システムの管理・教育体制と有害事象との相関:田中武志, 他13名:医療情報学
30 Suppl. pp. 514-517, 2010.
- 4 : 医療情報技師による医療スタッフを対象とした情報研修の重要性について:若林信浩,
他9名: :医療情報学 **30** Suppl. pp. 1064-1066, 2010.
- 5 : 医療情報システムにおける患者情報へのアクセス制限の実態について:田中武志,
他 13 名:病院管理 Vol.47 Suppl. pp. 275, 2010.
- 6 : 医療記録の電子化は有害事象を少なくするか?:津久間秀彦, 他 13 名:病院管理 Vol.47
Suppl. pp. 279, 2010.

3 :

B) 総説

C) 著書

D) その他の出版物

E) 学会発表

- 1 : Hospital Information Systems: are they sufficiently helpful for the management of patient safety? Valuable lessons from the Japanese experience: Minoru Ikeuchi et al. : 13th World Congress on Medical and Health Informatics (MEDINFO 2010) (Cape Town, South Africa) 2010.
- 2 : 電子化が引き起こす有害事象 ―病院機能評価 認定病院に於ける調査― : 石川 澄, 田中武志, 他 11 名 : 第 14 回日本医療情報学会春季学術大会 (シンポジウム 2010 in 高松) (高松市) 2010.
- 3 : 病院情報システムの蓄積データの信憑性確保のための機能要件 : 津久間秀彦, 石川 澄, 田中 武志, 池内 実 : 第30回医療情報学連合大会 (第11回日本医療情報学会秋季学術大会) (浜松) 2010.
- 4 : 医療情報システムの管理・教育体制と有害事象との相関 : 田中武志, 他13名 : 第30回医療情報学連合大会 (第11回日本医療情報学会秋季学術大会) (浜松) 2010.
- 5 : 医療情報技師による医療スタッフを対象とした情報研修の重要性について : 若林信浩, 他9名 : 第30回医療情報学連合大会 (第11回日本医療情報学会秋季学術大会) (浜松) 2010.
- 6 : 導入した医療情報システムにおける運用状況アセスメント : 日浅恭, 田中武志, 他20名 : 第 30 回医療情報学連合大会 (第 11 回日本医療情報学会秋季学術大会) (浜松) 2010.
- 7 : 医療情報システムにおける患者情報へのアクセス制限の実態について : 田中武志, 他 13 名 : 第 48 回日本医療・病院管理学会学術総会 (広島) 2010.
- 8 : 医療記録の電子化は有害事象を少なくするか? : 津久間秀彦, 他 13 名 : 第 48 回日本医療・病院管理学会学術総会 (広島) 2010.

(4) 科学研究費補助金等の受領状況

(5) 学会賞等の受賞状況

(6) 特許

[目次へ戻る](#)